

「将来ビジョン・岸和田 “新・岸和田”づくりの総合計画」策定
に向けたまちづくり市民懇話会(とことん懇話会)

全40回の軌跡

2023年2月3日
岸和田市総合政策部企画課



目次

概要	1
STEP0 総合計画の理解を深める	4
STEP1 岸和田の特徴を共有する	6
STEP1.5 具体的なアクションについて考える	15
STEP2 15 年後の将来像を検討する	21
STEP3 将来像の実現に必要なことを考える	27
STEP4 計画を実現する進行管理を考える	78

概要

「まちづくり市民懇話会(通称:とことん懇話会)」は、令和5年度からスタートする「第5次岸和田市総合計画」の策定及び「都市計画マスタープラン」の見直しをするにあたり、市民とともに、岸和田の未来を考え、想いを共有し、みんなでじっくりと話し合うことを目的とし、令和2年10月から令和4年10月までの2年間で全40回(書面開催を含む)開催した。

令和2年度は、まず、「STEP0:総合計画の理解を深める」として、これから議論を進めていく前段として、とことん懇話会の目的やみんなの想いを共有し、総合計画への理解を深めるために「SIMULATION きしわだ 2035」や「SDGs ゲーム」を実施した。

また、「STEP1:岸和田の特徴を共有する」として、岸和田の強み・弱みについて知るために地域別や年代別で議論し、ポスターセッションを開催して懇話会参加者以外の市民の方とも内容を共有した。

さらに、「STEP1.5:具体的なアクションについて考える」として、計画における具体的な取組を考えるために岸和田の特徴を踏まえ4つの分野に分かれて取組や課題、将来像について話し合った。

令和3年度からは、「STEP2:15年後の将来像を検討する」として、基本構想と都市計画マスタープランの骨子案を共有し、まちの将来像や基本目標について議論した。さらに、これまでの議論の振り返りと今後の議論の進め方を確認した。

また、「STEP3:将来像の実現に必要なことを考える」として、具体的な取組と役割を「見える化」するために協働の視点を踏まえアクションカードとプレイヤーカードを作成した。さらに、アクションカードとプレイヤーカードの内容の基本計画への反映方法を共有し、計画を自分事として捉えるために「防災」をテーマに各自でアクションを実践した。

令和4年度には、「STEP4:計画を実現する進行管理を考える」として、STEP3までの議論を踏まえ作成された計画案を確認し、計画実現のためにPDCAサイクルの仕組みについて議論した。また、基本計画をブラッシュアップするために個別目標の方向性ごとに議論を深めたほか、すべての分野において情報発信に課題があることから「情報発信・共有」をテーマに各自でアクションを実践した。さらに、今後もとことん懇話会のような市民がまちづくりに関して意見交換できる場をつくるために、場のあり方について議論した。

第1回

ガイダンスと自己紹介
総合計画に対する思いなどについて意見交換した

第2～4回

「SIMULATION きしわだ2035」と「SDGs ゲーム」を体験
総合計画(ビジョン)を持つ大切さやコミュニケーションの重要性について学んだ

第5～7回

地域別や年代別で「岸和田の特徴」を議論
地域のよさと課題、年代によるニーズの違いなどを知ることができた

第8～10回

具体的なアクションの検討に向けた分野別のテーマについて議論
4分野ごとに話し合いたいテーマを決めて議論した

4つの分野とテーマ
○教育・文化: 人間の豊かさを育む教育のあり方、これからの祭りのあり方
○健康・福祉: 人権、協働
○都市基盤・産業: 岸和田版コンパクトシティ、情報発信
○市民生活・環境: 防災、生活環境

第16回

基本計画への反映方法を共有 ①
これまでの議論が基本計画へどのように反映されているか確認した

木藤亮太氏の講演
宮崎県・油津商店街の事例について伺った

第13～15回

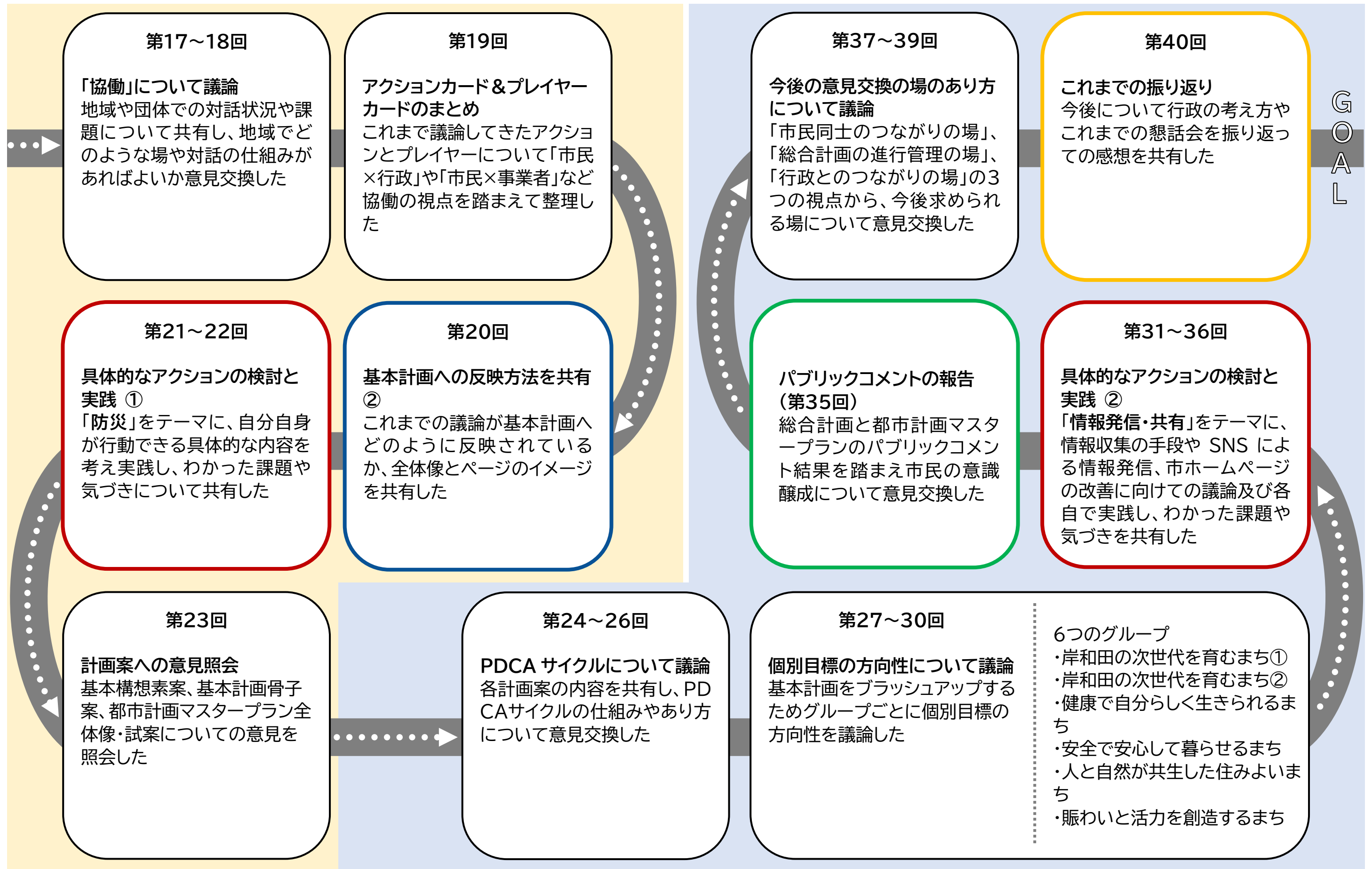
アクションカード&プレイヤーカードの作成
市や地域で必要な具体的な取組をまとめる「アクションカード」と市民・事業者・行政など各主体の関わりを示す「プレイヤーカード」を作成した

第12回これまでの振り返りと今後の進め方を共有
これまでの議論と今後の議論のつながりについての疑問点を解消し、今後の「基本計画」の議論の進め方と取りまとめ方法を確認した

第11回

次期総合計画基本構想と都市計画マスタープランの骨子案を共有
今後の計画策定において、将来像や戦略、基本目標などについて共有した

桃山学院大学生による発表
市のPR動画と蜻蛉池公園の活用についての提案があった



STEP0 総合計画の理解を深める

第1回	2020年 10月11日(日)	ガイダンス・参加者同士の自己紹介 参加されている方同士で自己紹介しながら、総合計画に対する思いなど意見交換した。
第2回	2020年 10月25日(日)	SIMULATION きしわだ 2035 / 自治体経営を体感 SIMULATION きしわだ 2035 を通して、自治体経営を体感し、総合計画について考えた。
第3回	2020年 11月8日(日)	SDGs ゲーム / SDGs の考え方を学ぶ SDGs の考え方を知り、誰一人取り残さないまちづくりを考えた。
第4回	2020年 11月22日(日)	総合計画を考える上でのポイント これまでのゲームを振り返って、総合計画への活かし方を考えた。

●ガイダンスと自己紹介

これからとことん懇話会で議論する総合計画や都市計画マスタープランの内容について共有した。また、参加者同士で自己紹介を行い、参加の動機や将来の岸和田に対する思いなど意見交換した。

●「SIMULATION きしわだ 2035」と「SDGs ゲーム」を体験

自治体のめざす姿を考え、事業選択を行うという自治体経営を体感し、総合計画(ビジョン)の重要性を理解するため、シミュレーションゲーム「SIMULATION きしわだ 2035」を行った。これは、ある仮想自治体を舞台に、2035年までの間に起こる様々な課題に対し、5人が1つのチームとなり、対話・納得・説明を繰り返しながら、自治体経営を行うゲームで、参加者が各行政分野の部長になりきり、限られた時間の中で、迫りくる社会課題に対応するため、対話に基づく政策選択を行った。

また、SDGs の考え方を理解し、今後のまちづくりに活かしていくため、「SDGs de 地方創生」カードゲームを体験した。これは、SDGs の考え方を地域の活性化に活かし、将来にわたって持続可能で豊かなまちを実現する方法について、参加者全員で対話し、考えるためのゲームで、SDGs の考え方が地域の活性化や課題にどのように関わっているかを直観的に体感し、今後の総合計画等の策定をはじめ、具体的なアクションへとつなげるために実施した。

これらのゲーム体験を経て、総合計画(ビジョン)を持つ大切さやコミュニケーションの重要性について学んだ。

ゲームから得られた視点など	次期総合計画で大事にしたい視点など
現状を知ること	土台の現状を知ることが重要
想いの共有と協力	岸和田らしさを活かした計画
目標やビジョンの明確化と共有	市民にわかりやすい(手にとりやすい)計画づくり
様々な意見がある中での、優先順位の必要性(全体バランスが重要)	市民の声を反映する仕組みづくり(無関心層の取り込み)
市民や議会への説明	行政に求められる役割の変化
情報の発信(提供)と共有	発想を持っている市民をつなぐ仕組みづくり



◇成果と課題

「将来の市への期待」、「共に議論し創り上げていきたい」、「市政を学びたい」、「危機感を感じどうにかしたい」といった参加者の思いが共有できた。また、「SIMULATION きしわだ2035」、「SDGs ゲーム」を通して、総合計画(ビジョン)を持つ大切さやコミュニケーションの重要性について、体験を通して学んだ。

一方で、現行の総合計画の構成などについての理解は深まらず、議論の進め方(時間の確保)についての課題が見られた。

STEP1 岸和田の特徴を共有する

第5回	2021年 2月14日(日)	地域ごとに特徴をまとめよう！ 地域別の「特徴」や「らしさ」等について意見交換した。
第6回	2021年 2月28日(日)	年代別の意識の違いを理解しよう！ 年齢別の意識の違い等について意見交換した。
第7回	2021年 3月14日(日)	年代別の意識の違いを理解し、地域別の特徴をまとめよう！ 年代別の意識の違いと地域別の特徴について再度まとめた。

●地域別や年代別で「岸和田の特徴」を議論

今の岸和田の強み・弱みについて知るため、地域別の「特徴」や「らしさ」等について意見交換を行い、参加者の地域の特徴や他地域の特徴に気づき、「大事にしていきたいこと」や「これから力を入れていきたいこと」などを話し合った。

また、各年代の意識の差をそれぞれが理解し、優先すべき施策を検討するために、参加者それぞれの年代の市民アンケートの結果について、その理由を考え、また、他の年代との意識差をみて、その差の原因は何かについて議論し、年代別に意見を整理した。

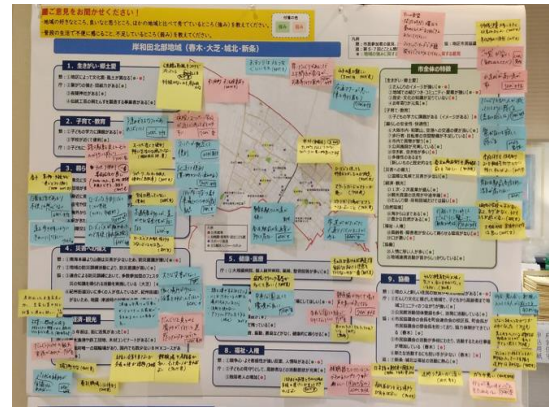
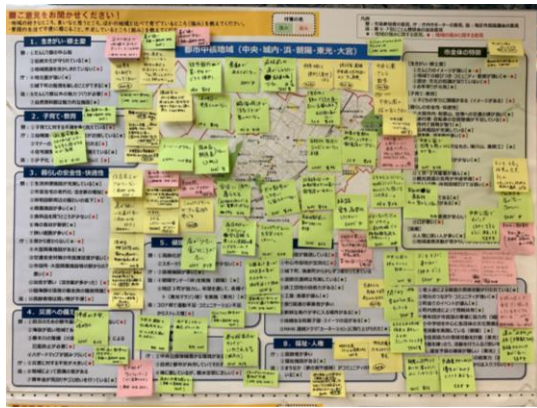
さらに、年代別の意識差を踏まえて、これまで整理してきた地域別の特徴について、追加すべき資源や取組・思いなどを話し合い、整理した。

これらの議論から、地域のよさと課題、年代によるニーズの違いなどを知ることができた。

●ポスターセッションを開催

地域別、年代別に議論した成果を「とことん懇話会新聞」としてとりまとめ、市役所本庁と市内5ヶ所の市民センターにおいてポスターセッション(パネル掲示)を実施し、ポスターを見た人からも「岸和田の特徴」について意見をもらった。





ロポスター閲覧者からの主な意見

- ・ゴミ拾いに自主的に取り組む人がある(都市中核、北部、久米田)
- ・地域で福祉活動の組織が立ち上がっている(中部)
- ・移動販売が実施されている(中部)
- ・中央公園は、散歩ができ、遊具などもあり、四季が感じられる憩いの場(都市中核)
- ・自治会、町内会がしっかりしていて、高齢者が元気(牛滝の谷)
- ・自治会で防災備蓄を始めるなど、防災に取り組んでいる(葛城の谷)
- ・全体の道幅が狭く、歩道も狭いため、歩行時は危険だと感じる(中部)
- ・ローズバスが一方周りで不便になった(北部)
- ・常時、乳幼児と過ごせる児童館のようなものがない(都市中核)

【資料】

- 地域別のまとめ
- 年代別意識の差について

◇成果と課題

6つの地域に分かれ、それぞれの地域の「特徴」や「らしさ」について話し合えたことで、地域のよさや新たな気づき・発見、地域の課題が見えてきた。また、年代別でも議論したことで、年代によるニーズの違いなどを知ることができた。

一方で、行政の取組の状況確認や具体的なテーマについての議論の希望意見があり、とことん懇話会の進め方について、具体的なアクションを考えるフェーズ(STEP1.5)を追加した。

都市中核地域（中央・城内・浜・朝陽・東光・大宮）

凡例

懇：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん懇話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

1. 生きがい・郷土愛

- 懇：①だんじり祭の中心街
②伝統文化が守られている【●】
③地域資源を活かしきれていない【●】
庁：④地元愛が強い【●】
⑤城下町の風情を楽しむことができる【●】
追：⑥だんじり祭以外の魅力づくりが必要【●】
⑦自然資料館は魅力的な施設【●】

2. 子育て・教育

- 懇：①子育てに対する不満を多く抱えている【●】
庁：②幼稚園・保育所・小中学校が近接している【●】
③マナーの悪い学生が見受けられる【●】
④住宅開発により若い世代が増えている【●】
追：⑤少子化（1学年1クラスぐらい）【●】

3. 暮らしの安全性・快適性

- 懇：①生活利便施設が充実している【●】
②市営住宅の老朽化・空き家の増加【●】
③岸和田駅周辺の賑わいの低下【●】
④商業施設が多い【●】
⑤食料品を買うところが少ない【●】
⑥海の食材が新鮮【●】
⑦狭い道路が多い【●】
庁：⑧昔から変わらない【●・●】
⑨大型商業施設がある【●】
⑩交通安全対策の市民満足度が低い【●】
⑪市役所・大型商業施設等の駅からのアクセスが悪い【●】
⑫治安が悪い（空き巣が多かった）【●】
⑬臨海部の深夜の暴走族の騒音問題【●】
追：⑭高齢者等は買い物不便【●】

4. 災害への備え

- 懇：①防災のための都市基盤整備がされていない【●】
②海拔が低い地域である【●】
③春木川の整備（川底の堆積物の除去）による
氾濫防止が必要【●】
④ハザードマップが読みづらい【●】
庁：⑤災害に対する不安が大きい【●】
追：⑥地域によって意識の差がある
⑦青年会が見回りやゴミ拾いを行っている【●】

5. 健康・医療

- 懇：①高齢化が進んでいる【●】
②スポーツジム等の運動施設が少ない【●】
庁：③医療機関が多い【●】
協：④朝陽サンデー「絆」を実施（朝陽）【●】
⑤地区3町が協力し、年間を通して、各種イベント（東光マラソン等）を実施（東光）【●】
追：コロナ禍で運動不足・コミュニケーション不足からストレス増【●】

7. 自然環境

- 懇：①緑が少ない【●】
庁：②中央公園等緑豊かな環境がある【●】
③自然と都市が共存していてそれぞれ楽しめる【●】
④海に面しているが、親水空間に乏しい【●】

6. 経済・観光

- 懇：①商店街が衰退している【●】
②中心市街地が空洞化【●】
③城下町、漁業町から少しずつ変わってきている
④道路交通網は充実している【●】
庁：⑤鉄工団地の技術力がある【●】
⑥工業・漁業が盛ん【●】
⑦祭り関連の事業者が多い
⑧新鮮な魚介が手に入る場所がある【●】
⑨由緒ある和菓子屋・スイーツの店がある【●】
⑩NHK連続ドラマ「カーネーション」に取り上げられた【●】

8. 福祉・人権

- 庁：①高齢者が多い
②福祉施設がある【●】
追：③まちなか（家の前や道端）がコミュニティの場になっている【●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
③歴史・文化の知識が足りない【●】
④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
⑧市内で買物が整う【●】
⑨公共施設が充実している【●】
⑩空き家、空き地が多い【●】
⑪多様性のあるまち
（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
⑭観光資源の活用が中途半端【●】
⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑲人情に厚い人が多い【●】
⑳地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

9. 協働

- 懇：①老人会による緑道の清掃活動が行われている【●】
庁：②地元のつながり・コミュニティが強い【●】
③町会でのイベントが盛ん【●】
④町内放送によって情報共有【●】
協：⑤青年団が市民協の事業に協力的（城内）【●】
⑥小中学校を中心に各団体の文化発表会並びに体育活動を実施している（朝陽）【●】
⑦全住民協力の清掃活動を計画（東光）【●】
⑧計画を練ったり、活動を行う人など担い手が少ない。運営予算の確保が難しい（東光）【●】
⑨地車祭りに代表される地区の結束力（浜）【●】
追：⑩コミュニティが強いので、外からは入りづらい【●】

岸和田北部地域（春木・大芝・城北・新条）

凡例

想：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん懇話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

1. 生きがい・郷土愛

- 想：①地区によって文化面・風土が異なる【●・●】
庁：②繋がりや強さ・団結力がある【●】
③夜疑神社がある【●】
④伝統工芸の桐たんすを製造する事業者がある【●】

2. 子育て・教育

- 想：①子どもの学力に課題がある【●】
②学校が近くて便利【●】
庁：③子どもに対する環境の整備が進んでいない【●】

3. 暮らしの安全性・快適性

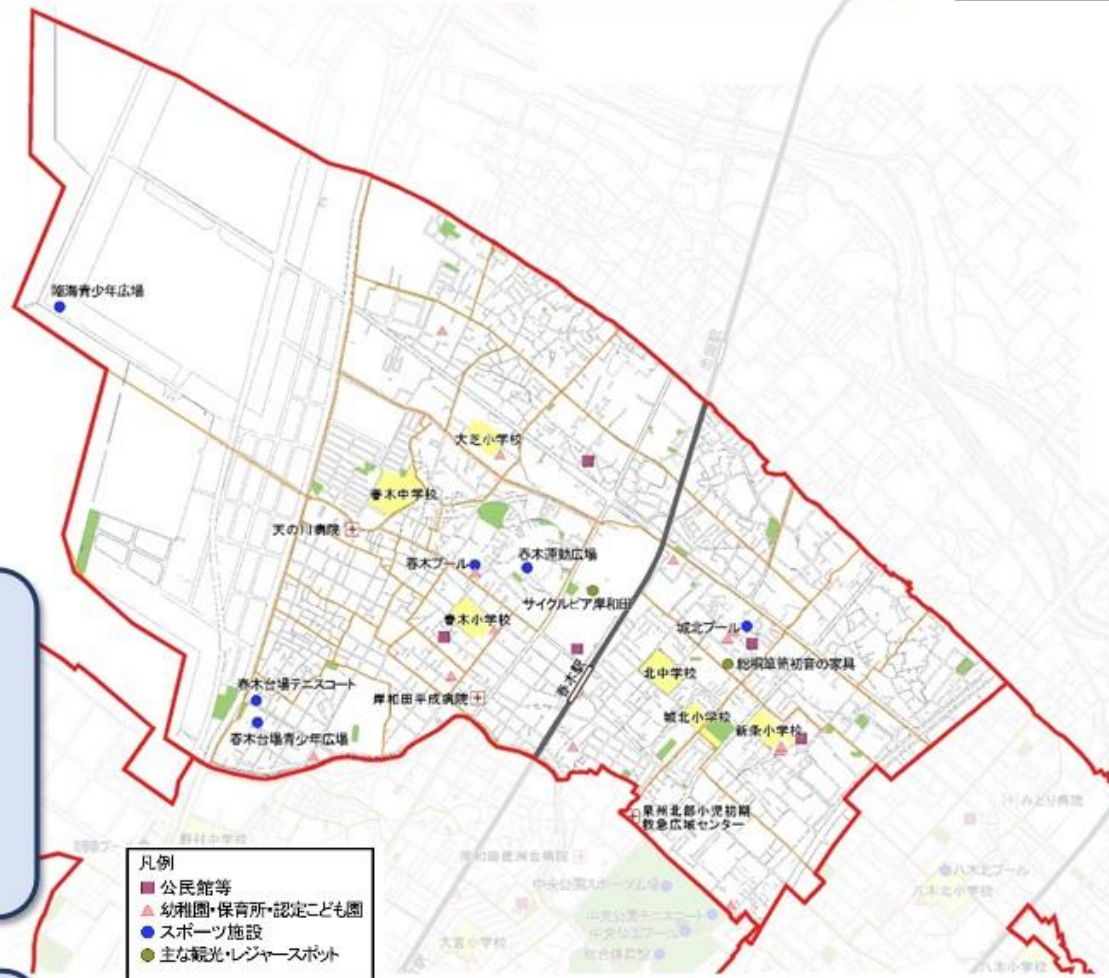
- 想：①南北に交通を開き、人の移動と物流が盛んである【●】
②団地が多く、人口密集地である
庁：③身近に商業施設があり、買い物に便利【●】
④住宅や団地などの施設の老朽化が目立つ【●】
追：⑤海外から来た人が多い（団地）
⑥駅がきれいになった【●】
⑦国際交流・グローバル化の可能性はある

4. 災害への備え

- 想：①南海本線より山側は災害が少ないため、防災意識が薄い【●・●】
庁：②地域の防災訓練活動により、防災意識が高い【●】
協：③連合による防災訓練において、多数参加型のフェスタ形式で楽しく防災の知識を得られる活動を実施している（大芝）【●】
④紀州街道沿いに多くの人が住んでいるが、紀州街道沿いに避難所がないため、地震・津波時の対策が必要（春木）【●】

6. 経済・観光

- 想：①30年前は、街に活気があった【●】
庁：②春木漁港や鉄工団地、木材コンビナートがある【●】
③大阪府唯一の競輪場があり、国内でも数少ないBMXコースがある【●】



- 凡例
■ 公民館等
▲ 幼稚園・保育所・認定こども園
● スポーツ施設
● 主な観光・レジャースポット

5. 健康・医療

- 庁：①大規模病院、個人経営病院、薬局、整骨院等が多い【●】

7. 自然環境

- 想：①公園に木々はあるが草花を植え和らぐ場にしてほしい【●・●】
②環境が悪い（空気が汚い）【●】
庁：③海が近く緑豊かな【●】
④田畑がまだ残っている【●】
⑤公害や騒音、振動、悪臭などがなく、健康的に暮らせる【●】

8. 福祉・人権

- 想：①競争心・よそ者根性が高い反面、人情味がある【●・●】
庁：②子どもの見守りとして、高齢者などの活動意欲が充実【●】
③独居老人の増加【●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
③歴史・文化の知識が足りない【●】
④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
⑧市内で買物が整う【●】
⑨公共施設が充実している【●】
⑩空き家、空き地が多い【●】
⑪多様性のあるまち（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
⑭観光資源の活用が中途半端【●】
⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑳人情に厚い人が多い【●】
㉑地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

9. 協働

- 想：①地の人と新しい住民の意見や考えの格差がある【●・●】
庁：②だんじり文化に根ざした地域で、子どもから高齢者まで地域コミュニティのつながりが強い【●】
③公民館活動団体登録も多く、活発に活動している【●】
協：④市民協議会の会長を町会連合会の校区長、町会長が市民協議会の部会長を担っており、協力体制ができている（春木）【●】
⑤市民協議会の活動が多岐にわたり、活動するため仕事量が増加している（春木）【●】
⑥新たな活動するにも担い手が少ない（春木）【●】
追：⑦新条・城北は福祉の活動に熱心【●】

葛城の谷地域（旭・太田・天神山・修斉・東葛城）

凡例

懇：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん懇話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

1. 生きがい・郷土愛

懇：①地の人と新しい人との温度差がある
庁：②地の人が多い（愛着のある人が多い）

2. 子育て・教育

懇：①学校が近い【●】
②子育て世代には魅力が薄い（住みにくいと感じる）【●】
庁：③保育園が充実している【●】
協：④学校の統廃合（小中一貫）は郷土愛につながる
⑤塔原は川遊び（BBQ）ができてよいが、住み続けるにはハードルが高い

3. 暮らしの安全性・快適性

懇：①大阪和泉南線（13号線）までは、交通の便が良い【●】
②買物がしやすい【●】
③市街地とみどり豊かな地域のバランスが良い【●】
庁：④快速停車駅（東岸和田駅）がある【●】
⑤商業施設が減少してきている【●】
⑥駅前には昼夜問わず多くの子どもが集まっている
⑦居住地域としての役割が高い【●】
追：⑧山手は移動販売のニーズが高い
⑨地域の中でも便利なところ（市街地）と山手で実態はちがう

4. 災害への備え

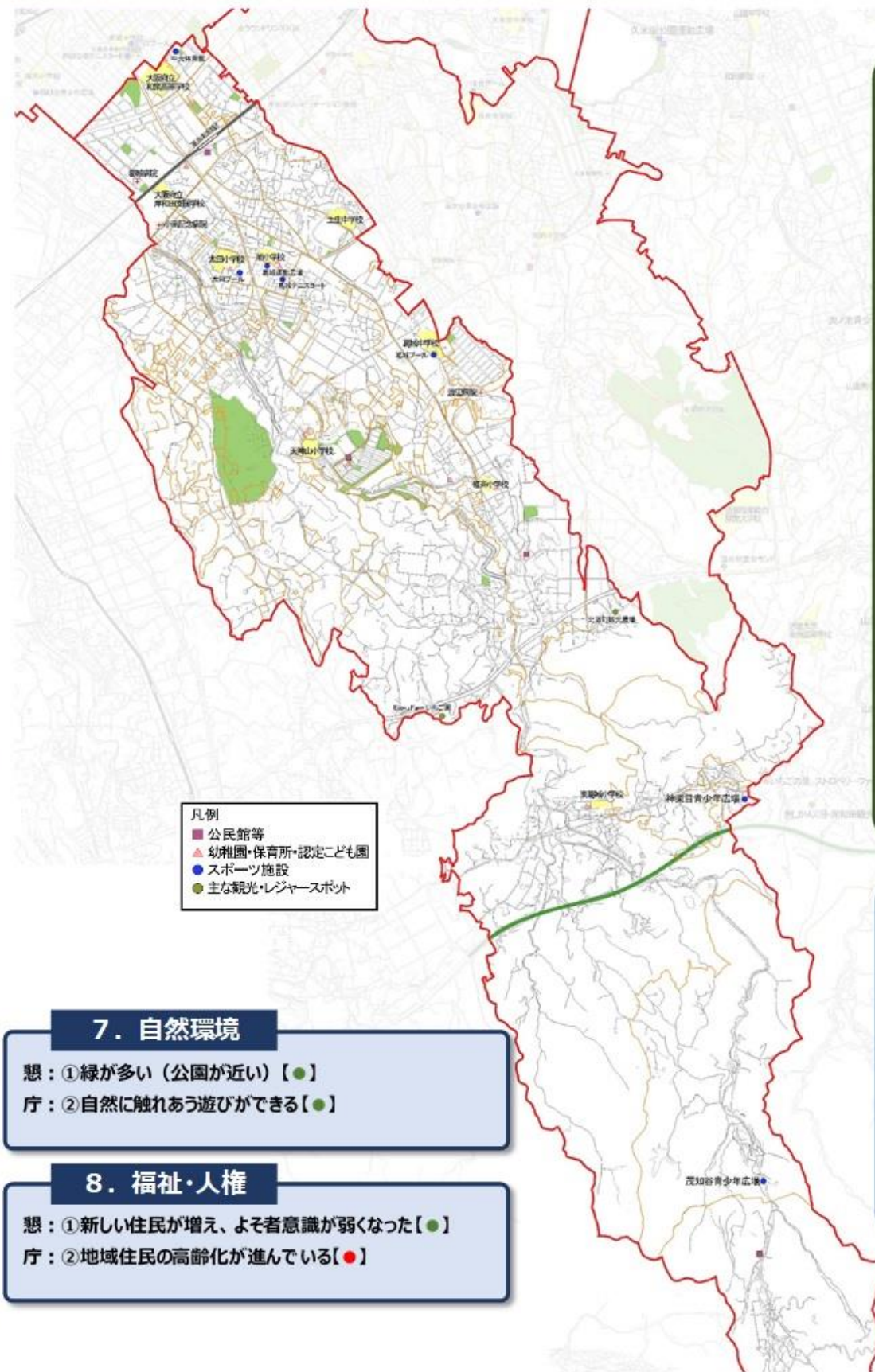
懇：①歩いて避難する場所がある【●】
庁：②災害時に孤立のおそれあり【●】

5. 健康・医療

懇：①病院が多い【●】
追：②山手は病院少ない

6. 経済・観光

懇：①昔あった繊維会社なくなった【●】
②雇用の確保が課題【●】
庁：③「恋のふち・恋ざめのふち」・葛城踊り・ブナ林（天然記念物）・桜の木（景観重要樹木）がある【●】
④農業が盛んであるが、従事者が減少している【●・●】
⑤葛城山にはハイキングやサイクリングで多くの人が入山している【●】



凡例
■ 公民館等
▲ 幼稚園・保育所・認定こども園
● スポーツ施設
● 主な観光・レジャースポット

7. 自然環境

懇：①緑が多い（公園に近い）【●】
庁：②自然に触れあう遊びができる【●】

8. 福祉・人権

懇：①新しい住民が増え、よそ者意識が弱くなった【●】
庁：②地域住民の高齢化が進んでいる【●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
- ②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
- ③歴史・文化の知識が足りない【●】
- ④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
- ⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
- ⑧市内で買物が整う【●】
- ⑨公共施設が充実している【●】
- ⑩空き家、空き地が多い【●】
- ⑪多様性のあるまち（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
- ⑭観光資源の活用が中途半端【●】
- ⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
- ⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
- ⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑳人情に厚い人が多い【●】
- ㉑地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

9. 協働

庁：①学校や町会との連携が良い（子ども食堂）【●】
②地域内での行事やイベントが減少【●】
③駅前ロータリーでの花のイベントがある【●】
④地域での人間関係が良好【●】
協：⑤様々な行事・活動を各団体と協力して実施している（旭・太田）【●】
⑥各団体で兼任が多く、成り手の選定に困っている（旭・太田）【●】
追：⑦新住民は町会になかなか入らない

岸和田中部地域（常盤・光明）

凡例

想：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん想話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

1. 生きがい・郷土愛

想：①星和台近辺に古人が住んでいた言い伝えがある
庁：②新興住宅地があり、だんじりに関わっていない人も多い

2. 子育て・教育

想：①子育て世帯が多い【●】
庁：②公園が多く、子育てしやすい【●】
協：③小学校登下校の見守り隊の活動を実施（常盤）【●】

3. 暮らしの安全性・快適性

想：①住宅地と田畑が共存している
②幹線道路の整備が遅れていて、通学路が狭い【●】
③大型商業施設はないが、スーパーなどがあり、困らない【●】
庁：④山手では駅が遠く、車中心の生活
⑤駅周辺は生活に関わる施設が多く生活しやすい【●】
⑥バスの本数が少ない【●】
⑦治安が良い【●】
追：⑧山手だが開けている（病院・警察（交番は1つしかない））
⑨マツゲンやコープで移動販売
⑩移動図書館【●】

4. 災害への備え

想：①老朽家屋や空き家の対策が課題【●】
協：②防災訓練を通じて、防災意識を高めている（常盤）【●】

5. 健康・医療

協：①ふれあいカーニバルを通じた交流（常盤）【●】
追：②高齢者が増加する中、高齢者・障害者に対して整備が不十分【●】

6. 経済・観光

想：①コロナ禍には地域密着の商業施設が必要
庁：②下松駅近辺は店舗が少ない【●】
③兼業・専業農家が多い【●】

7. 自然環境

想：①緑が多い【●】
②春木川沿いの遊歩道は運動（散歩）に良い【●】
追：③とんぼ池公園があり自然環境が良い【●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
- ②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
- ③歴史・文化の知識が足りていない【●】
- ④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
- ⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
- ⑧市内で買物が整う【●】
- ⑨公共施設が充実している【●】
- ⑩空き家、空き地が多い【●】
- ⑪多様性のあるまち（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
- ⑭観光資源の活用が中途半端【●】
- ⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
- ⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
- ⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑳人情に厚い人が多い【●】
- ㉑地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

8. 福祉・人権

庁：①高齢者が多い
②福祉施設がある【●】

9. 協働

想：①地の人と新しい住民の関わりが薄い【●】
②若い世代と高齢者の世代が二極化している
庁：③地域活動は活発に行われていると感じる【●】
協：④地域の福祉活動のための別組織を立ち上げた（光明）【●】
⑤まちづくりに対して、地域住民に温度差がある（常盤）【●】
⑥各町会への未加入者の対応に困っている（常盤）【●】

久米田地域（八木北・八木・八木南）

凡例

想：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん懇話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

1. 生きがい・郷土愛

想：①だんじり好きが多い【●】
庁：②久米田池周辺は、桜が美しく、寺・神社など歴史を感じる街並みがある【●】
③世界かんがい遺産の久米田池がある【●】
追：④想いをみんなで共有できている【●】

2. 子育て・教育

想：①公園があり、子どもたちの元気な声が聞こえる【●】
庁：②閑静な住宅街の中で公園も多く、子育てしやすい環境【●】
③子どもの様子も勉強に取り組む子とそうでない子で二極化している【●】
追：④子育て支援が充実している所に、若い人が転出していく【●】

3. 暮らしの安全性・快適性

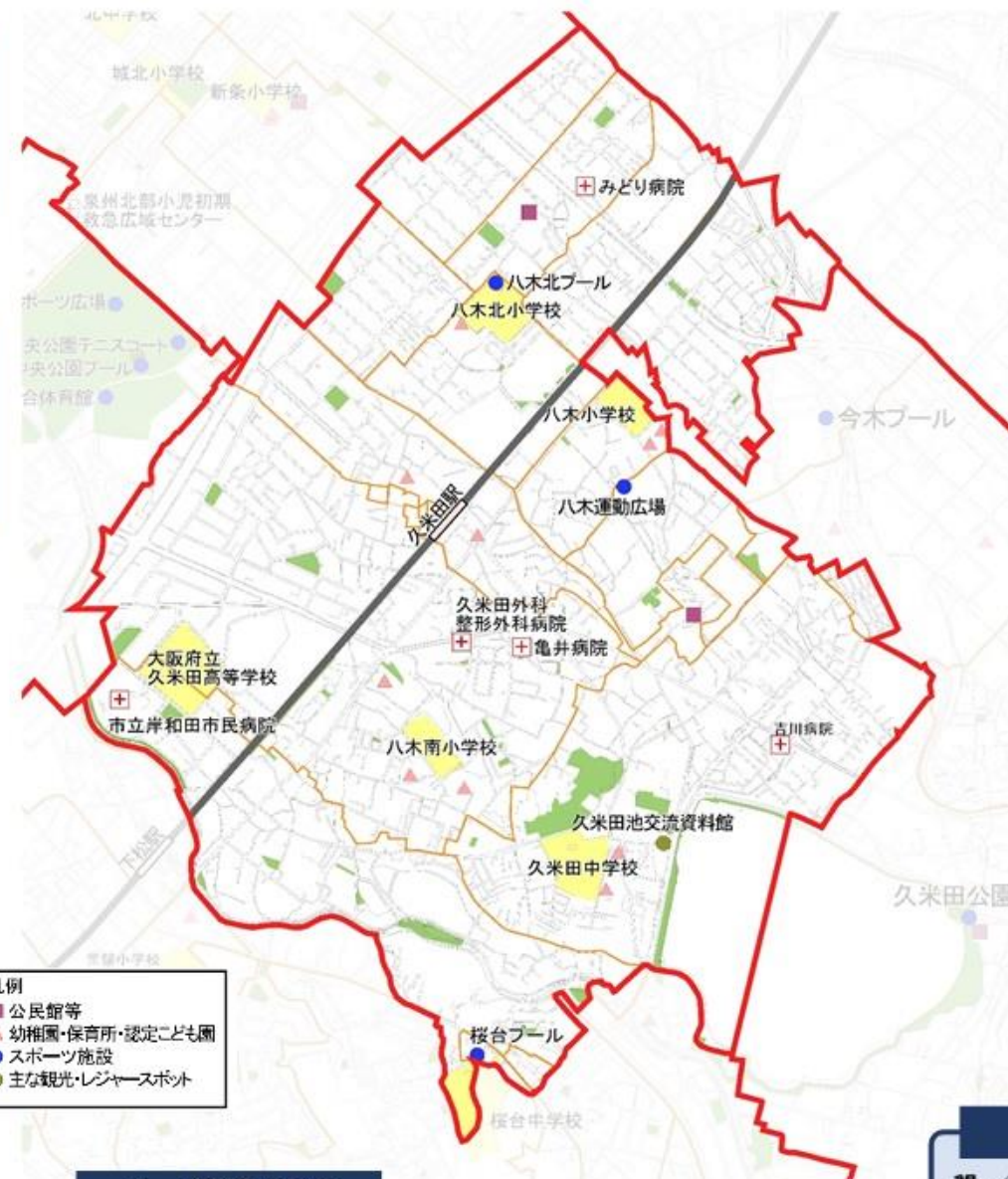
想：①公園が多い【●】
②場所によって交通利便性が異なる【●・●】
③通学路が狭くて危険【●】
庁：④暮らすのに不便を感じない（スーパー、病院、学校などがある）【●】
⑤新規居住者は少なく、昔から住んでいる人が多い印象がある
⑥中高生が夜騒いでおり、治安がよいとは言えない【●】
⑦少子高齢化が進み、空き家が増えている【●】

4. 災害への備え

想：①沿岸部と山間部の間に位置し、災害に比較的強い【●】
②障害者、高齢者にとって避難場所が遠い【●】
追：③久米田池の氾濫が心配
④ハザードマップにはでていないが、牛滝川が心配

5. 健康・医療

想：①500m範囲に総合病院が数か所ある【●】
②ジョギング・ウォーキング等楽しめる場所がある【●】
③病院やクリニックが多い【●】
追：④施設は充実しているがアクセスしづらい



6. 経済・観光

想：①商店街に活気がない【●】
②雇用を生み出す企業がない（昔は、2、3か所あった）【●】
庁：③個人の飲食店や商店が多い【●】
④尾生久米田地区の開発により、その周辺は活気がある【●】

7. 自然環境

想：①緑豊か【●】
庁：②府内最大の面積を持つため池（久米田池）がある【●】
③田畑が減って、マンション建設が進んでいる【●・●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
- ②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
- ③歴史・文化の知識が足りない【●】
- ④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
- ⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
- ⑧市内で買物が整う【●】
- ⑨公共施設が充実している【●】
- ⑩空き家、空き地が多い【●】
- ⑪多様性のあるまち（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
- ⑭観光資源の活用が中途半端【●】
- ⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
- ⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
- ⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑳人情に厚い人が多い【●】
- ㉑地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

8. 福祉・人権

想：①高齢化と独居住民が増えている【●】

9. 協働

想：①少子化で子ども会の運営が難しい【●】
庁：②自治会活動も盛んだが、参加するかどうかは二極化している
③近所づきあいは減っているが、顔の見える関係ができていく【●】
追：④町会に加入しない人が増えている、孤立しがち【●】
⑤災害時要援護者の人が町会に入っていない【●】
⑥地元に戻ってくる人が多い【●】

牛滝の谷地域（山直北・城東・山直南・山滝）

1. 生きがい・郷土愛

- 庁：①登山・ロードバイクなど地理的条件を活かしたアクティビティを楽しむ人が多い【●】
②市外に出た20～30代もだんじり祭の時は帰省する【●】

2. 子育て・教育

- 懸：①保育所から小中学校のメンバーがほぼ固定でよかった【●】
庁：②20～30代が地元で定住しない【●】
追：③岸和田高校・和泉高校等の進学校があるのに学力が低いイメージがある

3. 暮らしの安全性・快適性

- 懸：①車がないと不便、鉄道へのアクセスが悪い【●】
②幹線道路沿いは商業施設が多い【●】
③幹線道路にICがある【●】
庁：④公共交通機関へのアクセスが悪い【●】
⑤便利な商業施設が隣接する和泉市に買い物へ行く【●・●】
追：⑥愛彩ランドは非常に混む
⑦愛彩ランドに足湯がある
⑧駅はないが愛彩ランドがあり生活には困らない
⑨愛彩ランドは多様な活用ができる場所【●】
⑩交通の便が悪い（高齢者の移動確保）【●】

4. 災害への備え

- 懸：①三田町は道が狭い【●】
庁：②土砂災害警戒区域が多い【●】
③牛滝川沿岸部は河川の氾濫地域も多い【●】
追：④自然環境は良いが、インフラ整備・災害の備えが課題

6. 経済・観光

- 懸：①ゆめみヶ丘は若い人の移住に期待できる【●】
②工場が多い【●】
③みかんや桃がある【●】
庁：④丘陵地区は産業・商業などの振興が見込める【●】
⑤農業が盛ん、道の駅愛彩ランドで活気が出た【●】
⑥温泉施設、だんじり祭、史跡や葛城山など観光資源があるが、観光には活かしきれていない【●・●】
追：⑦スポーツツーリズムの需要がある
⑧彩簞（あやほまれ）ブランドを生かした農業がある【●】

5. 健康・医療

- 庁：①医療・福祉サービスが充実していない【●】

7. 自然環境

- 懸：①豊かな自然、森林浴ができる【●】
②池の異臭・公園の植栽管理など必要【●】
③古墳遺跡がある
庁：④自然・緑が多い【●】
協：⑤地域の人々の頑張りで、心が癒される農村風景が保たれており、多くの人が週末に訪れる（山滝）【●】
追：⑥摩湯山古墳を開放していないのもったいない

8. 福祉・人権

- 庁：①高齢化が進んでいる【●】

9. 協働

- 庁：①だんじり祭や町内清掃など地域活動が盛ん【●】
②ご近所同士の付き合いが深い【●】
③外部からの転入者には抵抗があるような気がする【●】
協：④各町会が連携できている（山直北・城東）【●】
⑤地域の高齢者や若い世代の流出が進み、今後地域を維持していくことが困難になることが心配される（山滝）【●】

市全体の特徴

【生きがい・郷土愛】

- ①だんじりのイメージが強い【●・●】
②地域での結びつき・コミュニティ・愛着が強い【●・●】
③歴史・文化の知識が足りていない【●】
④お年寄りが元気【●】

【子育て・教育】

- ⑤子どもの学力に課題がある（イメージがある）【●】

【暮らしの安全性・快適性】

- ⑥大阪市内・和歌山、空港への交通の便が良い【●】
⑦歩行者・自転車の空間整備が不足している【●】
⑧市内で買物が整う【●】
⑨公共施設が充実している【●】
⑩空き家、空き地が多い【●】
⑪多様性のあるまち（新しいものと歴史的なもの、海川山、農商工）【●】

【災害への備え】

- ⑫温暖な気候で災害が少ない【●】

【経済・観光】

- ⑬1次・2次産業が盛ん【●】
⑭観光資源の活用が中途半端【●】
⑮だんじり祭・岸和田城だけでは弱い【●】

【自然環境】

- ⑯海から山まである【●】
⑰豊かな自然がある【●】

【福祉・人権】

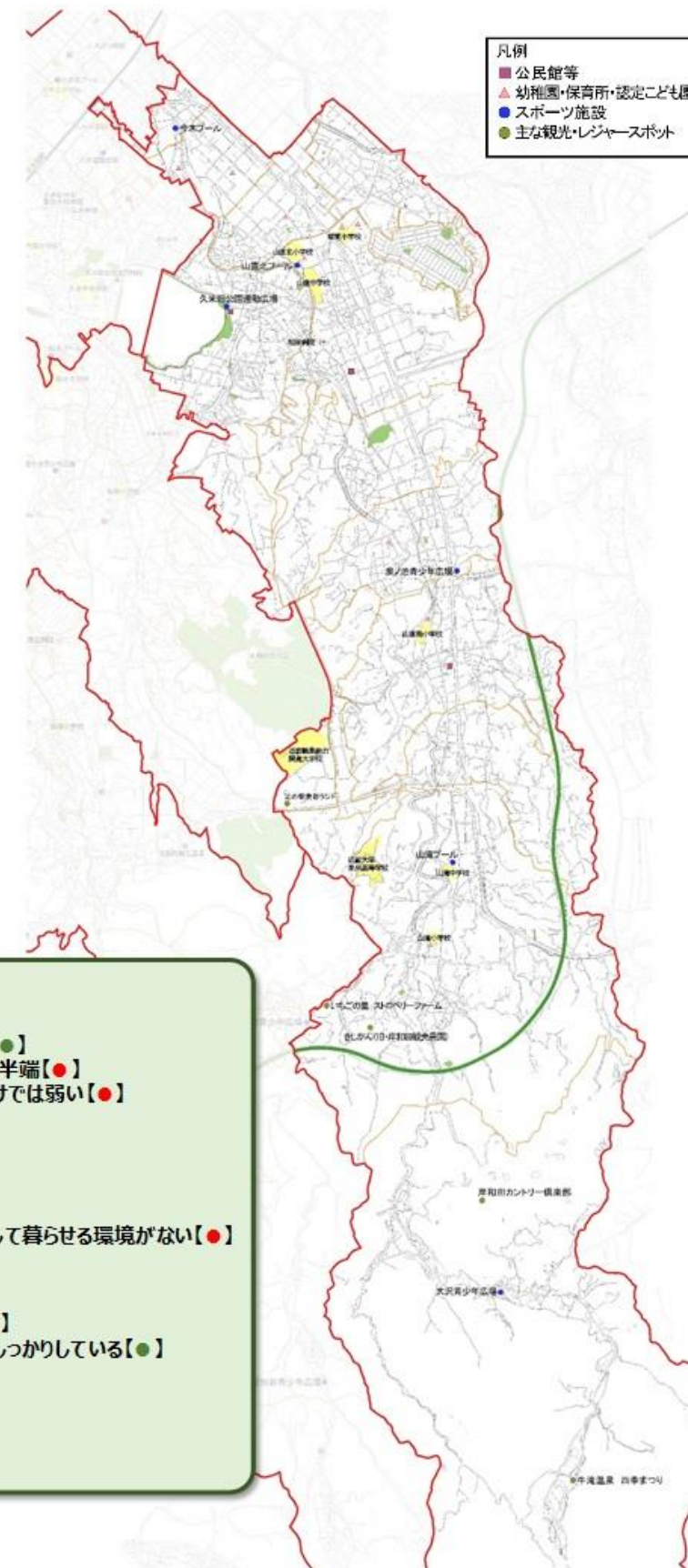
- ⑱高齢者・障害者が安心して暮らせる環境がない【●】
⑲口が悪い【●】

【協働】

- ⑳人情に厚い人が多い【●】
㉑地域連携活動が昔からしっかりしている【●】

凡例

懸：市民参加者の意見、庁：庁内サポーターの意見、協：地区市民協議会の意見
追：第5・7回とことん懇話会の追加意見
●：地域の強みに関する意見、●：地域の弱みに関する意見

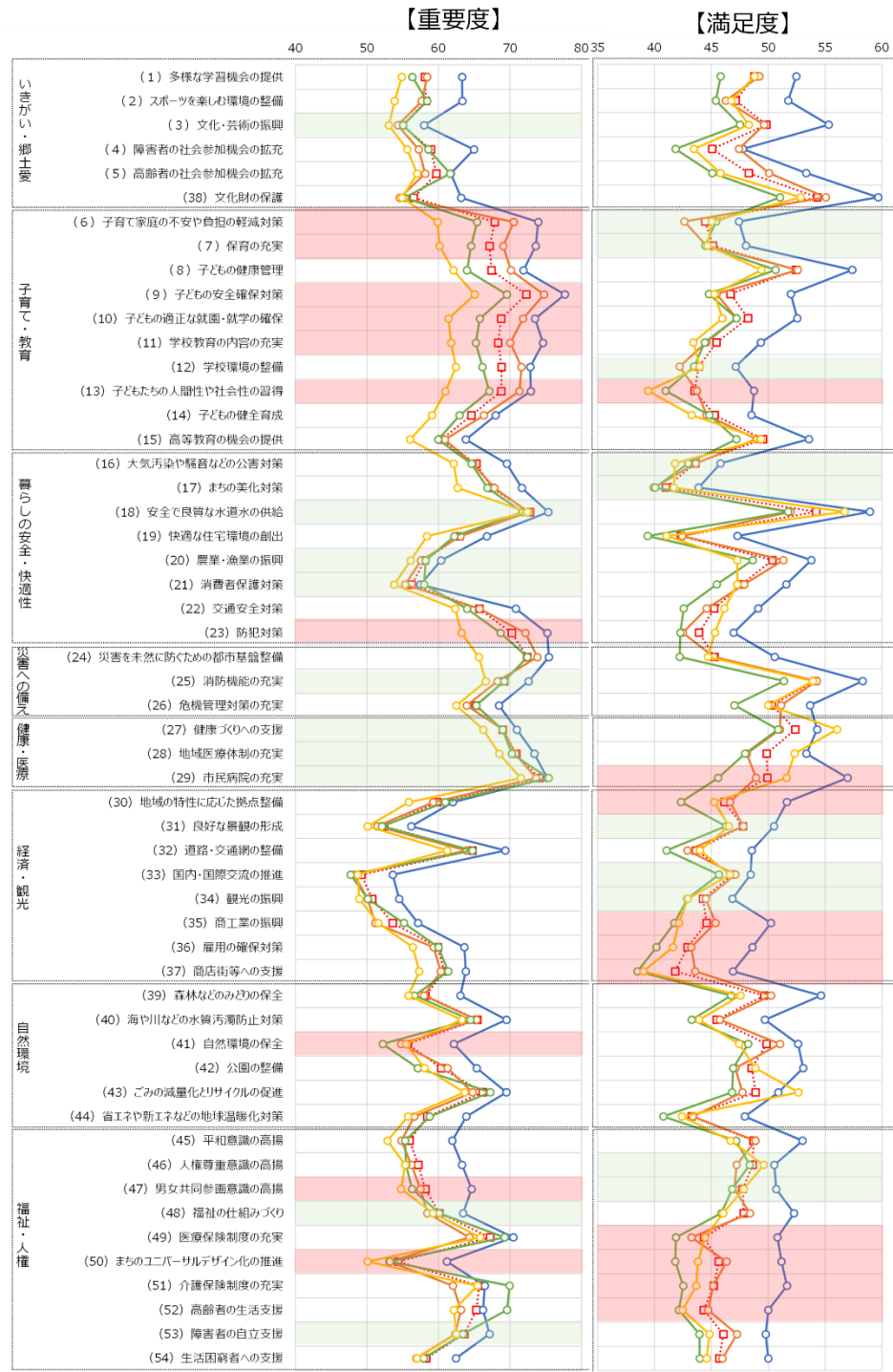


年代別意識の差について

これらのグラフは市民アンケート調査において、「岸和田市における取組」を評価いただいた“年代別”の結果です。

取り組みに対して、「重要度」と「満足度」を回答いただきましたが、年代によって意識差が見られました。

それらの要因について、思いつくことがありましたらお教えてください。



●●●●● 全体平均 ● 29歳以下平均 ○ 30歳以上～49歳平均 ○ 50歳以上～64歳平均 ○ 65歳以上平均
赤字 は、変動係数の上位10項目。(年代別の意識差のある項目) 緑字 は、変動係数の下位10項目。(年代別の意識差が少ない項目)
※変動係数とは、標準偏差を平均値で割った値のこと、相対的なばらつきを表す。

- ◆「文化・芸術の振興」の重要度について、年代別の差が小さいのはなぜだと思いますか？
- ◆29歳以下の満足度が、その他の年代より高い傾向にあるのはなぜだと思いますか？
- ◆この分野に係る取組の重要度が、平均より低い傾向にあるのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 今まで触れる機会がなく、文化・芸術の振興や文化財の保護について、重要度は理解できるが興味が湧かない。(65歳以上)
- 若者は祭りがあるので、郷土愛が強いのではない。(50～64歳)

付箋貼付

- ◆「子育て家庭の不安や負担の軽減対策」や「保育の充実」の重要度について、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
(高 29歳以下>30～49歳>50～64歳>65歳以上 低)
- ◆「子どもたちの人間性や社会性の習得」の重要度・満足度ともに、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
(高 29歳以下>30～49歳>50～64歳>65歳以上 低)
- ◆この分野に係る取組の重要度が高く、満足度が低い傾向にあるのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 以前は協調性を、近年は個性を大切にする傾向があるため、年代によって思いが違う。(30～49歳)
- 一度、市外に出ること、岸和田市について気づくことがある。(50～64歳)
- 年配の方は子育てが終わり独立しているので、あまり関心がなくなる。(50～64歳)

付箋貼付

- ◆「防犯対策」の重要度について、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
(高 29歳以下>30～49歳>50～64歳>65歳以上 低)
- ◆「安全で良質な水道水の供給」、「農業・漁業の振興」、「消費者保護対策」の重要度について、年代別の差が小さいのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 今の治安はそんなに悪くないのではない。(30～49歳)

付箋貼付

- ◆「消防機能の充実」の重要度について、年代別の差が小さいのはなぜだと思いますか？
- ◆この分野に係る取組の重要度が高い傾向にあるのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 災害が少ないので、多くの人が安全だと思っているように感じる。(50～64歳)
- 全体的に災害への関心がなさすぎる。(65歳以上)

付箋貼付

健康・医療

- ◆「健康づくりへの支援」、「地域医療体制の充実」、「市民病院の充実」の重要度について、年代別の差が小さいのはなぜだと思いますか？
- ◆この分野に係る取組の重要度が高く、満足度も高い傾向にあるのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 健康なためあまり気にしたことがなく、満足している。(29歳以下)
- 他市に比べれば市民病院が充実しているとは思えない。(65歳以上)

付箋貼付

経済・観光

- ◆「商工業の振興」、「雇用の確保対策」、「商店街等への支援」の満足度について、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
(高 29歳以下>30～49歳>50～64歳>65歳以上 低)
- ◆「良好な景観の形成」、「国内・国際交流の推進」、「観光の振興」の満足度について、年代別の差が小さいのはなぜだと思いますか？
- ◆この分野に係る取組の重要度が低く、満足度も低い傾向にあるのはなぜだと思いますか？

懇話会参加者の意見(一部)

- 岸和田で働かなくても周辺で働けるため、雇用対策に期待していない。(29歳以下)
- 働く世代にとっては、経済に関する重要度は高い。(50～64歳)
- 商店街に何を求めているのかによって、重要度・満足度に差が出る。(65歳以上)

付箋貼付

自然環境

- ◆「自然環境の保全」の重要度について、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
(高 29歳以下>65歳以上>30～49歳>50～64歳 低)

懇話会参加者の意見(一部)

- 経済と自然環境は両立されるのではない。(30～49歳)
- 環境への関心が足りていない。(65歳以上)

付箋貼付

福祉・人権

- ◆「医療保険制度の充実」、「まちのユニバーサルデザイン化の推進」、「介護保険制度の充実」、「高齢者の生活支援」の満足度について、年代別の差が大きいのはなぜだと思いますか？
・医療保険制度の充実(高 29歳以下>65歳以上>30～49歳>50～64歳 低)
・まちのユニバーサルデザイン化の推進(高 29歳以下>30～49歳>65歳以上>50～64歳 低)
・介護保険制度の充実(高 29歳以下>30～49歳>65歳以上>50～64歳 低)
・高齢者の生活支援(高 29歳以下>30～49歳>65歳以上>50～64歳 低)

懇話会参加者の意見(一部)

- ユニバーサルデザイン化について、自分は困ることはないが、家族のことを考えると重要だと思う。(29歳以下)
- 若い方の満足度の高さは、行動的であることを示していると感じる。(50～64歳)

付箋貼付

その他意見

- 10代は与えられた環境で楽しむことができるので、不満度が出にくい傾向があるのではない。(30～49歳)
- 年代が上の方は、岸和田市のことを昔から見てきているから満足度が低くなるのではない。(50～64歳)

付箋貼付

STEP1.5 具体的なアクションについて考える

第8回	2021年 3月28日(日)	具体的なアクションの検討に向けて、班ごとのテーマを検討しましょう！ 具体的なアクションの検討に向けて、どのような内容について話し合いたいかわかりやすく洗い出し、班ごとのテーマを検討した。
在宅ワーク	2021年4月	第9回の開催に向けて、具体的なアクションに関する意見照会と、照会結果の資料を配布した。
第9回	2021年6月 書面開催	地域の特徴等に関するポスターセッションの開催結果、具体的なアクションの検討と基本構想・骨子案の策定に向けての資料を配布した。
第10回	2021年 6月27日(日)	「具体的なアクション」について/ Step2 15年後の将来像の検討に向けて 具体的なアクションの検討に向けて班ごとに話し合い、基本構想と都市計画マスタープランの骨子案について全体で意見交換した。

●具体的なアクションの検討に向けた分野別のテーマについて議論

これからの岸和田に必要な(またはやりたい)「具体的なアクションの検討」を議論するため、STEP1で議論した「岸和田市の特徴」をもとに、時代背景が変わる中で新たに捉えるべき「分野」や「キーワード」についても意見交換し、「具体的なアクションの検討」に向けてテーマを共有、意見交換した。

分野	テーマ
教育・文化	人間の豊かさを育む教育のあり方
	これからの祭りのあり方
健康・福祉	協働
	人権
市民生活・環境	防災
	生活環境
都市基盤・産業	情報発信
	コンパクトシティ

【資料】

- 問いかけシートまとめ

◇成果と課題

分野を横断する項目として、「人権・多様性」についての提起があった。

出された意見は、基本構想に組み込むとともに、具体的なアクションは、基本計画への議論へつなげた。

		①	②		③		④	
		みなさんから出していただいた具体的取組の中で、特に優先的にやっていきたいことは何ですか？ ※自分の出した取組も含みます。	左記①に取り組む中で、課題や難しいなと思うことはありますか？ また、その理由や原因は何ですか？		左記②に挙げた課題や原因などを解決するために、必要なものは何だと思いますか？		左記の取組を進めることで、将来どのような暮らしが想像できますか？ 取組ごとにお考え下さい。※想像する暮らしには、誰がどこでどんな暮らしをしているかイメージし、できるだけ具体的に考えてみましょう。	
分野	テーマ	取組	課題・難しいこと	その理由・原因	課題・原因	解決するために必要なもの	取組	想像する暮らし
教育・文化	人間の豊かさを育む教育のあり方	子どもが学習しやすい環境づくり	・市民センター（公民館）など学習できそうな場所の環境が悪い。 ・コロナで地域から出ないことを意識して暮らしているのに地域の市民センター（公民館）が閉まっている。	・空調やWi-Fiが不十分 ・そもそも学習できる机などがない。	・空調やWi-Fiが不十分 ・学習できる机がない。 ・市民センター（公民館）が閉まっている。	・空調とWi-Fiを買う。 ・地域学習の一環でつくっていただく。 ・家の環境を整える。大学まで行く。ネットカフェに行く。	充実した学習環境の整備	〈大学生とテレワークしたい住民〉 ・大学生の学びのバリエーションが増える。 ・会員のワークライフバランスの充実 ・Wi-Fiがあることで大学生のような世代でも地域との交流を企画したりできそう。
教育・文化	人間の豊かさを育む教育のあり方	・今に合った道徳の構築 ・核家族による年齢を超えた超えた交流に落ち込みを減らす。	教育	・周りのことを考えて行動することを考え、日本の道徳を自分のために考える。 ・今の子ども達に、他の人のことを考えることが自分のためになることを教えていく。	教育・生活	・遊びも生活も人とかかわらずに過ごすことが出来てしまう時代になってしまった。 ・人との交流、特に世代を超えた交流がなくなってしまった。 ・優秀な人が増えた反面、心を失った子ども・若者が増えて心配	・産業の発展 ・教育の安定 ・世代を超えた交流	・最終的に人々の安定につながっていくのではないと思う。 ・若い人達の就職も年金世代の生活も楽になってほしい。 ・安心して子どもを産めるまちになってほしい。
教育・文化	人間の豊かさを育む教育のあり方	子どもは地域で育てるという意識で接する。						
教育・文化	これからの祭りのあり方	人は集団になるといきがって思いもよらないことをするので、一人ひとりの意識付けをする。						
教育・文化	人間の豊かさを育む教育のあり方	・子どもが学習しやすい環境づくり ・先生が教育に取り組みやすい環境づくり	継続的に話し合える場（できれば市民レベルで）をもって、地域ぐるみで協働しあうこと	地域には当然学校も含む。立場の違いにより多様な意見があるのでそれらを尊重しつつ解決策を見つけていくのは難しさがある。	お互いにリスペクトしあいつつ、解決策を見つけること	子ども達は将来の岸和田市を支えていく存在だということ、そしてその子ども達を育てていくのが先生だという認識を持つ。		
教育・文化	これからの祭りのあり方	後方支援をする。	祭りは町会連合会主催であると他人任せ	行政での判断には限界がある。	・市長や議会が判断出来るように正しく提案する機能がない。 ・15年後のイメージを正しく理解する（明確にする）。	・第三者のコンサルタントの助言が必要 ・近隣市町村の計画書の精査が必要	だんじり祭を無形文化財にして、全国から観光客を受け入れる。	・町会連合会主体の祭りから、市主体の祭りに変える。 ・怪我や事故のない安全で豪快なものにして、宿泊・飲食を伴った観光資源にする。
					岸和田祭を未来永劫保存する構想がない。	無形文化財になっている遺産や祭りの事例を集めて、市長や議会で判断できるように働きかける組織が必要		

		①	②		③		④	
		みなさんから出していただいた具体的取組の中で、特に優先的にやっていきたいことは何ですか？※自分の出した取組も含みます。	左記①に取り組む中で、課題や難しいなと思うことはありますか？また、その理由や原因は何ですか？		左記②に挙げた課題や原因などを解決するために、必要なものは何だと思いますか？		左記の取組を進めることで、将来どのような暮らしが想像できますか？取組ごとにお考え下さい。※想像する暮らしには、誰がどこでどんな暮らしをしているかイメージし、できるだけ具体的に考えてみましょう。	
分野	テーマ	取組	課題・難しいこと	その理由・原因	課題・原因	解決するために必要なもの	取組	想像する暮らし
健康・福祉			高齢者と子どもの世代間交流	核家族化が進んでいるので、なかなか交流が進まない。	世代間交流	場所の提供と仕組みづくり	子育てしやすいまちづくり	岸和田は海の物・山の物と食に恵まれており、乳児から小学生まで保育が整っており、共働きしながらも安心して子どもを育てる環境が整っている。
							お年寄りに優しいまち	一人暮らしになっても誰かが声をかけてくれるので不安もなく、買い物もスーパーのサービスを利用している。 病気になった時はかかりつけ医が病院と連携。 介護サービスも利用しているので安心した暮らしを送ることが出来ている。
健康・福祉	協働	独居高齢者の見守り活動の推進	子ども達を含む市民が安全で住みよい市（町）にするための議論が十分に尽くされていないように思う。					
健康・福祉	人権	お互いの環境を尊重して接すること						

		①	②		③		④	
		みなさんから出していただいた具体的取組の中で、特に優先的にやっていきたいことは何ですか？ ※自分の出した取組も含みます。	左記①に取り組む中で、課題や難しいなと思うことはありますか？ また、その理由や原因は何ですか？		左記②に挙げた課題や原因などを解決するために、必要なものは何だと思いますか？		左記の取組を進めることで、将来どのような暮らしが想像できますか？ 取組ごとにお考え下さい。※想像する暮らしには、誰がどこでどんな暮らしをしているかイメージし、できるだけ具体的に考えてみましょう。	
分野	テーマ	取組	課題・難しいこと	その理由・原因	課題・原因	解決するために必要なもの	取組	想像する暮らし
市民生活・環境	防災	防災グッズの準備、災害発生時の連絡手段の確保	地域で非常食・非常用品を準備すること	町会・自治会への入会が減っている。	防災用品の準備	行政が指導して区域ごとの保管場所の推進を図る。		
市民生活・環境	防災	防災訓練	地域の誰が主導するのか	災害時に誰が地域の避難を主導するのか知らない。	災害時にとるべき行動への知識不足			
市民生活・環境	防災	避難所などのトイレの数の点検	避難所のトイレの件	実際に避難した人が1番困ったことだそうで、思っているよりも数が必要				
市民生活・環境	防災	避難場所及び非常用品等の充実	場所の確保	コロナ等によりたくさん必要	興味を持つ。	資金、人、場所		
市民生活・環境	防災	近隣住民と避難時の声掛けに使用する連絡網の作成	近隣住民の範囲と規模、責任者の決定	・緊急時を考えれば、連絡網は狭くして、すぐに助け合って避難できることが望ましい。 ・また、高齢者世帯ばかりの連絡網では支障を来すことも考えられる。 ・町会・自治会単位では予想される災害に違いもあり、緊急時の対応遅れが発生する。	・近隣住民の予想される災害の認識 ・近隣住民の範囲、世帯層の把握	・ハザードマップの簡略化と予想される災害の周知 ・予想される災害ごとに区別後、世帯層を考えて区分する。当然、行政の提案・指導が重要となる。	近隣住民としての助け合いや日常の交流が深められる。	子どもや老人への声掛け等みんなで見守り合える環境が整う。
市民生活・環境	防災	災害（大雨、台風、地震）への備えとして、ハザードマップの確認や避難場所の確認、備蓄品の準備等の実施	子ども達を含む市民が安全で住みよい市（町）にするための議論が十分に尽くされていないように思う。					
市民生活・環境	生活環境	子ども達と高齢者との交流場所を確保						
市民生活・環境	生活環境	子どもを地域で育てる。	継続的に話し合える場（できれば市民レベルで）をもって、地域ぐるみで協働しあうこと	地域には当然学校も含む。立場の違いにより多様な意見があるのでそれらを尊重しつつ解決策を見つけていくのは難しさがある。	お互いにリスペクトしあいつつ、解決策を見つけること	子ども達は将来の岸和田市を支えていく存在だということ、そしてその子ども達を育てていくのが先生だという認識を持つ。		
市民生活・環境	生活環境	子どもを産みやすく、育てやすい環境を整える。	生活環境	・核家族化、一人住まい他、高齢化によって人の交流が減って思いやりや助け合いが少なくなっている。 ・世代を超えた交流が必要	教育・生活	・遊びも生活も人とかかわらずに過ごすことが出来てしまう時代になってしまった。 ・人との交流、特に世代を超えた交流がなくなってしまった。 ・優秀な人が増えた反面、心を失った子ども・若者が増えて心配	・産業の発展 ・教育の安定 ・世代を超えた交流	・最終的に人々の安定につながっていくのではないかなと思う。 ・若い人達の就職も年金世代の生活も楽になってほしい。 ・安心して子どもを産めるまちになってほしい。
市民生活・環境	生活環境	食品ロスをなくす。	場所、人	一人ひとりの理解	興味を持つ。	資金、人、場所	食品等リサイクル	・ごみを減らす→環境によい ・食品、物を大切にする。
市民生活・環境	生活環境	ごみの分別を知る。						
市民生活・環境	生活環境	ノラ猫のTNR（捕まえ、避妊・去勢手術して、元の場所に戻すこと）	興味が無い、資金がない。	他人事	興味を持つ。	資金、人、場所	TNR（捕まえ、避妊・去勢手術して、元の場所に戻すこと）	・ごみを荒らされない。 ・ふん尿が減る。
市民生活・環境	生活環境	自分の行動が周りの環境にどのような影響を及ぼすか考える（特に言葉）。	生活環境、言葉の悪さ	・思いやりの心が少ない。 ・親しさを込めてわざと悪い言葉で接する風潮がある。 ・目上の人に対しても上から目線で接する（岸和田市の風土？）。	生活環境、言葉の悪さ	・子育て中の親が忙しく、心に余裕を持って子どもと接しないため。 ・地域全体で子育てするという意識付けが必要		

		①	②		③		④	
		みなさんから出していただいた具 体的取組の中で、特に優先的に やっていきたいことは何ですか？ ※自分の出した取組も含みます。	左記①に取り組む中で、課題や難しいな と思うことはありますか？ また、その理由や原因は何ですか？		左記②に挙げた課題や原因などを解決 するために、必要なものは何だ と思いますか？		左記の取組を進めることで、将来ど のような暮らしが想像できます か？ 取組ごとにお考え下さい。※想像す る暮らしには、誰がどこでどんな 暮らしをしているかイメージし、 できるだけ具体的に考えてみましょ う。	
分野	テーマ	取組	課題・難しいこと	その理由・原因	課題・原因	解決するために必要なもの	取組	想像する暮らし
都市基盤・産業	情報発信	まちの魅力を発信する。						
都市基盤・産業	情報発信	個人で知り得た情報を共有し議論 する場をつくる。	特になし	場をつくり、目標に向かい順次議 論する。				
都市基盤・産業	情報発信	産業の魅力を伝えるため、農業、 漁業、伝統工芸などにおいて、さ まざまな体験型の催しを開催す る。	各業界の賛同が得られるかどう か。		各業界の賛同が必要	主旨を十分理解してもらうととも に安全上の問題及び財政的な支援 が必要か。		
都市基盤・産業	情報発信	地場産業を地産地消で活用し、発 展を促す。						
都市基盤・産業	情報発信	魅力的な観光プランを検討し、観 光関連事業者と連携していく。	コロナ禍であること	今はプロモーションを打っても効 果が出ない。	コンテンツの拡充	アフターコロナに備えて、いち早 く受入体制を整えておく。	インバウンドに向けたコト消費	〈訪日観光客〉 長い間、旅行やイベント・行事に 参加できず、閉塞した生活があっ た中で、ワクワクする体験や感動 する経験を味わえてすぐくりフ レッシュになった。
					情報発信の方法	・自分の住んでいる地域に対して 関心を持ち、日頃から情報収集し ておく。 ・実際に訪れたり行事に参加した りして、自分の目で見て肌で感じ たりすることでリアルな体験を広 報紙やSNSで発信する。 ・訪日観光客の取り込みについて も、在日外国人に協力してもら い、外国語で発信する。		
都市基盤・産業	岸和田版コンパ クトシティ		岸和田版コンパクトシティの理解	行政側と市民側の意識に差があ る。	コンパクトシティへの理解	話し合いの機会を増やす。		
都市基盤・産業	岸和田版コンパ クトシティ	都市計画の見直しと土地区画整理 事業の施行	都市計画の見直し、土地区画整理 事業	・行政の問題 ・行政と土地所有者の問題（土地 所有者の同意が必要）	市が岸和田をどういうまちにした いという明確な理念	行政と地元の協力、事業者との合 意が必要	都市計画の見直しと土地区画整理 事業の施行	都市計画区域内と区域外との線引 きの見直しにより、都市部が増え る。土地区画整理事業を施行する ことにより整然とした街並みが形 成される。また計画的に商業施設 を配置すれば素敵な居住空間がで きる。
都市基盤・産業	岸和田版コンパ クトシティ	地域拠点の形成と維持及び公共交 通機関の整備と維持	市民が介入できるか。	行政の所管	行政の手腕	行政と地元の協力、事業者との合 意が必要	地域拠点の形成と公共交通機関の 整備	自分の圏域内で拠点の形成がで きれば、地区センターを中心に商業 施設（日常必需品の店舗）及び公 共交通機関の整備（圏域内に循環 バス）されれば、高齢になっても 日常生活には困らず、楽しい生活 ができる。
都市基盤・産業		道路の安全、拡張、整備	都市基盤	城下町だったことと畦道が大きく なった道であることによって、曲 がりくねっていたり細かったりす る。				
都市基盤・産業	岸和田版コンパ クトシティ	車を運転しない人へのライドシェ アサービス	誰がサービスを提供するのか。	自分なら絶対に使いたい。				

		①	②		③		④	
		みなさんから出していただいた具体的取組の中で、特に優先的にやっていきたいことは何ですか？ ※自分の出した取組も含みます。	左記①に取り組む中で、課題や難しいなと思うことはありますか？ また、その理由や原因は何ですか？		左記②に挙げた課題や原因などを解決するために、必要なものは何だと思いますか？		左記の取組を進めることで、将来どのような暮らしが想像できますか？ 取組ごとにお考え下さい。※想像する暮らしには、誰がどこでどんな暮らしをしているかイメージし、できるだけ具体的に考えてみましょう。	
分野	テーマ	取組	課題・難しいこと	その理由・原因	課題・原因	解決するために必要なもの	取組	想像する暮らし
都市基盤・産業	岸和田版コンパクトシティ	特殊出生率を上げるための子育て支援の実施	実施する施策の効果がでない。	子育てに直接効果のある施策を行う。	・市長や議会が判断出来るように正しく提案する機能がない。 ・15年後のイメージを正しく理解する（明確にする）。	・第三者のコンサルタントの助言が必要 ・近隣市町村の計画書の精査が必要	・少子化対策 ・教育対策	〈市民〉 ・将来に不安がなくワクワクする生活ができる。 ・働くところがあり、技術に見合った収入がある。 ・子どもが前向きで、時代に合った人になる。
都市基盤・産業	岸和田版コンパクトシティ	新婚世帯の住宅補助	実施する施策の効果がでない。	子育てに直接効果のある施策を行う。				
都市基盤・産業	岸和田版コンパクトシティ	行政サービスの改善（IT化、RPA化）	市役所勤務者を減らすことになる。	行政での判断には限界がある。				
都市基盤・産業	岸和田版コンパクトシティ	隣接市町村と連携して企業を誘致する。	隣接市町村と連携する気がない。	行政での判断には限界がある。				
都市基盤・産業		・新しい産業の振興（ITとか） ・地場産業の振興	産業	繊維・建築業等が下火になっている今、新しい未来型の産業を考えたい（農業も工場型等）。	新しい産業	・未来の見えるセンスのある人に話を聴きたい。 ・若い人達の話聴きたい。	・産業の発展 ・教育の安定 ・世代を超えた交流	・最終的に人々の安定につながっていくのではないと思う。 ・若い人達の就職も年金世代の生活も楽になってほしい。 ・安心して子どもを産めるまちになってほしい。
都市基盤・産業	岸和田版コンパクトシティ	子ども達の未来や自身の生活充実のため、どのようなまちになってほしいのかしっかりと考えることが重要	子ども達を含む市民が安全で住みよい市（町）にするための議論が十分に尽くされていないように思う。					

- 主な意見
- ・これまでのまちづくり市民懇話会、現在のとことん懇話会で、参加者（行政の方含む）から多くのご意見が出されているが、課題解決の方策の議論等が深掘りされず、中途半端にスケジュールを進めているように感じる。

・例えば、子育て支援の充実等、課題をしっかりと議論して進めていくやり方に変更する。

・懇話会で出たご意見に対して、重要と思われるテーマについては、現状と現状の施策の状況をしっかりと参加者に認識していただく。

・行政側からも現状を情報共有していただく。場合により、次回の宿題になってもいいと考える。

・本懇話会にて市民生活の課題がすべて取り上げることは難しいが、参加者の皆さんが日頃感じている問題が共有され、解決に向けて議論がなされることにより、参加者の方の達成感、ひいては市民生活の改善・充実がなされ、行政が充実されていくものと信じる。
- 20

STEP2 15 年後の将来像を検討する

第 11 回	2021 年 7 月 18 日(日)	次期総合計画の基本構想骨子案について/ 都市計画マスタープラン骨子案について/ 桃山学院大学の学生による発表 「次期総合計画の基本構想骨子案」と「都市計画マスタープラン骨子案(見直しの視点)」における、第 10 回からの変更点について意見交換した。 また、桃山学院大学の学生が「岸和田をアップデートする」ための手法について発表した。
第 12 回	2021 年 8 月 8 日(日)	「これまでの議論と今後の議論のつながり」「基本計画の議論の進め方」について共有・意見交換 これまでの議論と今後の議論のつながりについての疑問点を解消し、今後の「基本計画」の議論の進め方と取りまとめ方法について理解を深めた。

●次期総合計画基本構想と都市計画マスタープランの骨子案を共有

「次期総合計画の基本構想骨子案」と「都市計画マスタープラン骨子案(見直しの視点)」について、今後の計画策定において、「設定の背景となる資源、課題、ニーズが理解できるか」、「基本目標は適切か」、「3つの戦略は理解できるか」など、全体で議論を行いながら意見を吸い上げ、共有した。

□主な意見

- ・ 各項目で資源、課題は今までも話し合っていた事柄でよく理解できる。
- ・ 基本構想の骨子案について、みんなの意識付けとして良い機会だったと思う。
- ・ 人口減少についての関心の高さを感じた。
- ・ 最初から人口減少が前提になっている。岸和田の特徴や資源、課題などを踏まえた上で、「人口を増やすためにこういう計画にしていこう」というのを考えるべき。
- ・ “計画”という言葉が、総合計画・基本計画・実施計画とたくさん使われており分かりにくい。

最終的にどういうものにまとめようとしているのかが、見えなくなっている。

【資料】

- 次期総合計画 基本構想骨子案
- 都市計画マスタープランの見直し骨子案

◆将来像に込めた思い

個性きらめき：人情味ある市民が多く、岸和田への愛着心やプライドが活かされている

魅力あふれる：海から山までの豊かな自然と古くからの歴史・文化、農業・漁業など、魅力ある資源が活かされている

ホッとな：人にやさしく、いざというときにつながれる熱い心や、注目される熱い取組や場所があり（ホット）、住んでいても訪れても安心できる（ほっと）場所となっている

◆岸和田を強くする

“3つの戦略”に込めた思い

多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用：様々な分野で、すべての人が互いを認め合い、これまで築き上げてきた絆を発展させ、新住民や若い世代、事業者などが参加できる新しいコミュニティのあり方が実現され、まちづくりに活用されている

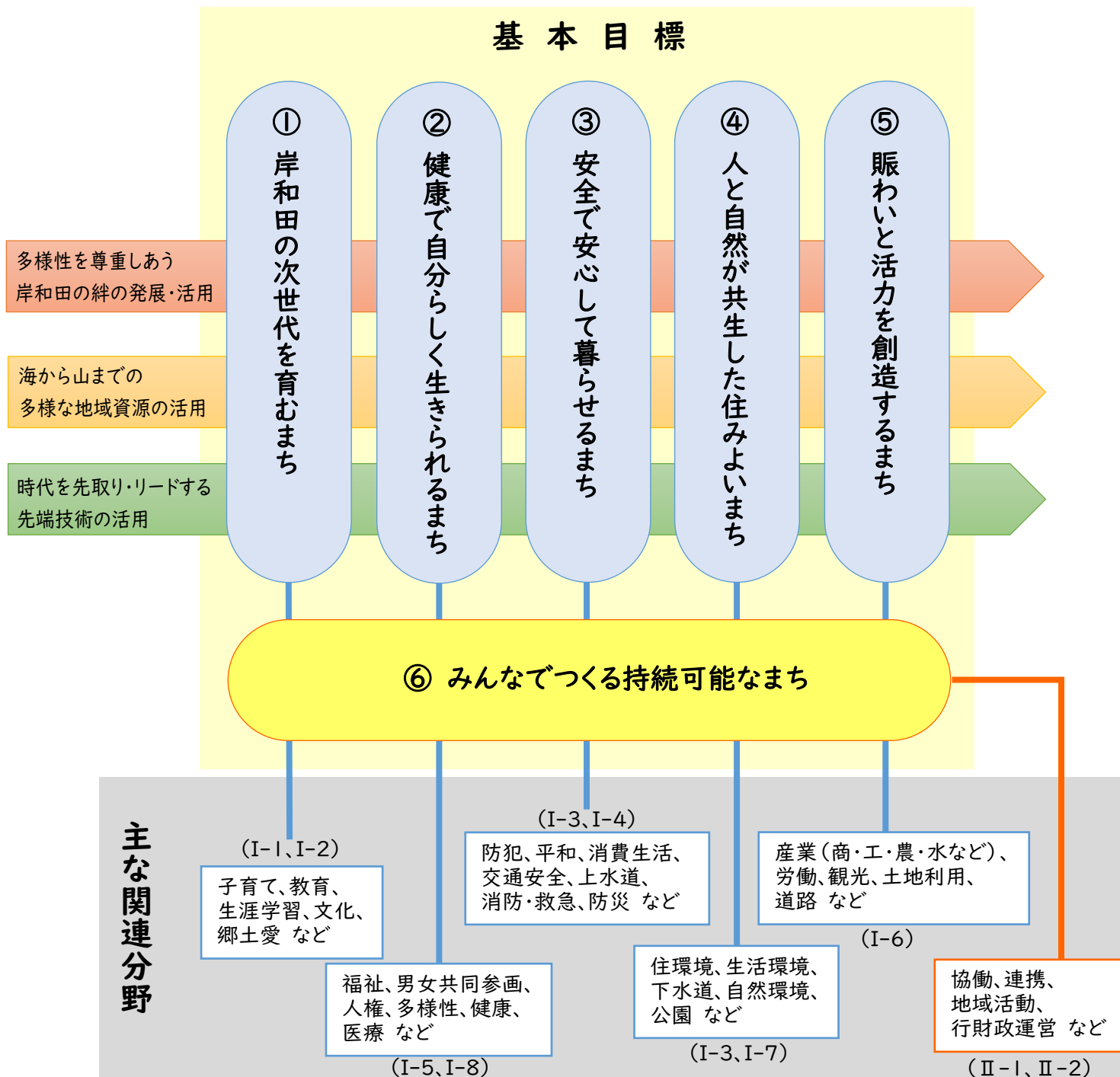
海から山までの多様な地域資源の活用：様々な分野で、海から山まである多様な資源がまちづくりに有効活用されている

時代を先取り・リードする先端技術の活用：様々な分野で、生活の利便性の向上や社会変化に柔軟に対応するため、情報技術が積極的に活用され、時代を先取りするとともに近隣地域全体をリードするまちになっている

将来像
(めざすまちの姿)

個性きらめき 魅力あふれる ホッとなまち 岸和田

岸和田を強くする”3つの戦略“



※主な関連分野の下部に、現行計画との関連性を示す体系番号を記載。

◆基本目標の設定の背景

① 岸和田の次世代を育むまち

資源：地元への愛着と人情味あふれる市民がいる、多くの社会教育関連施設や文化財が存在している

課題：少子化が進行している、子育て家庭に選ばれていない、教育や歴史・文化への関心が低く社会教育関連施設があまり活用されていない、待機児童が発生し働きやすい環境とはいえない、幼稚園の定員充足率が低い、施設が老朽化している

ニーズ：住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である

② 健康で自分らしく生きられるまち

資源：医療機関等が多く充実している、元気な高齢者が多い、地域コミュニティのつながりが強い

課題：高齢化が進行している、閉鎖的な面があり古い考え方が残っている、健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い、高齢単身世帯が増加している

ニーズ：多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である

③ 安全で安心して暮らせるまち

資源：市役所の窓口（サービスセンター）が多い、交通の便がよく生活利便性が高い市街地がある

課題：災害への危機意識が低い、激甚化する災害への対応が求められている、山間部の交通の便が悪い、交通事故に対する不安が解消されていない

ニーズ：地域で安心して暮らせるまちづくりが必要である

④ 人と自然が共生した住みよいまち

資源：海から山まで豊かな自然がある、公園が多い

課題：環境への負荷の低減やまちをきれいにする意識と行動が少ない、多様な資源をつなげる仕組みがない、公園や緑地の維持管理の負担が年々増加している

ニーズ：豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮した行動が必要である

⑤ 賑わいと活力を創造するまち

資源：府内有数の農業・水産業がある、技術力の高い製造業がある、歴史的な観光資源がある、岸和田特有の施設がある

課題：地域資源等が観光や市のアピールに活かしきれていない、だんじり祭だけのイメージがある、市内での従事者が減っている、まちに活気が見られない

ニーズ：地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である

⑥ みんなでつくる持続可能なまち

資源：町会などの地域のつながりが強い、地域で福祉活動が展開されている、地域に根付いた民間事業者がいる

課題：地元のつながりが強く転入者が入りにくい、新旧住民や世代間の交流の機会がない、地域活動の担い手が不足している、行政の財政基盤が不安定である

ニーズ：誰もが地域づくりに参加しやすい環境の確保や、広域的連携なども活用した持続可能で健全な行政運営の確保が必要である

▶将来人口

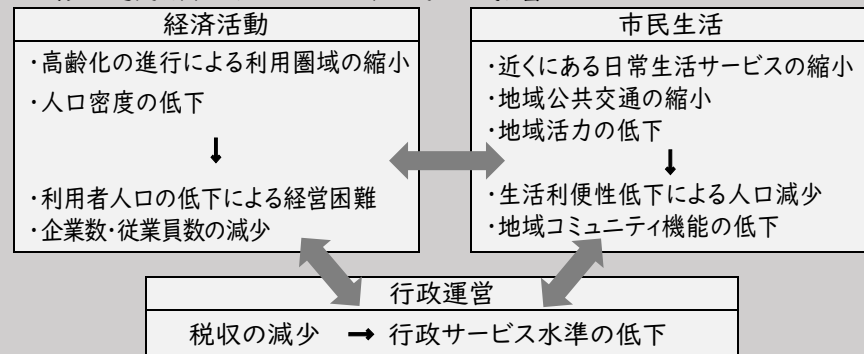
- 厳しい人口減少が予測される中（R16年の推計値：約166,000人）、将来のまちの活力や生活利便性を確保するため、子育て環境や住環境の充実など総合計画に定める施策を実施することによって子育て世代の転出入の均衡を図り、人口減少のスピードを緩やかにすることをめざします。

▶都市構造

<見直しの視点>

岸和田の特性、社会状況の変化、将来像や基本目標、岸和田を強くする“3つの戦略”等を踏まえつつ、「都市構造」の見直しを行います。

課 題：人口減少・超高齢社会がまち・生活に与える影響

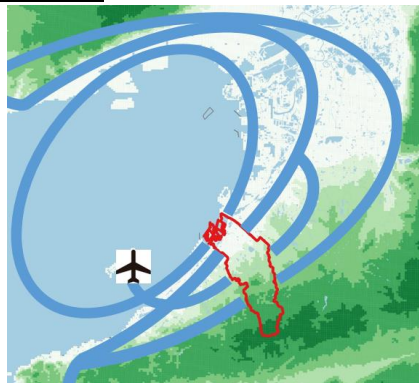


都市構造の方向性：・無秩序な市街地の拡散を抑制
・生活を支えるさまざまな機能が集積した拠点を適切に配置・形成されるよう誘導するとともに、拠点へのアクセス性を高める
・広域連携の強化

<見直しの骨子案>

● 広域連携型都市構造

人、物、情報が流れ、さまざまな交流と活動の活性化を推進するため、多様な連携を図ります。



○地域連携

地形や水系に沿って形成された自然・文化・産業など本市の多様な資源を有機的につなぎ・活かすため、海から山までの連携を推進

○泉州地域広域連携

関西国際空港をはじめとする泉州地域の資源やストックをつなぎ・活かすため、近隣市町とさまざまな場面で広域連携を推進

○大阪・関西圏広域連携

大阪・関西圏の魅力を高め、岸和田市の活性化につなげるため、広域ネットワークを活かした連携を推進

● 軸の設定

7つの軸 带状に形成された4つの区域を結び、人、物、情報が流れ、様々な交流と活動の活性化を図るために市域内を結ぶ「**地域連携軸**」と、泉州地域や大阪・関西圏を結ぶ「**広域連携軸**」を設定

地域連携軸により海と山をつなぎ、地形や水系に沿って形成された自然・文化を有機的につなぐとともに、**地域連携軸**と格子状をなす**広域連携軸**により、市域内及び市域を越えた交流・活動の発展を推進

<軸の機能と主な路線>

● 地域連携軸

- ・葛城地域連携軸（葛城の谷沿いに市域を結ぶ）
府道岸和田港塔原線・津田川水系
- ・中央地域連携軸（市の中央部に市域を結ぶ）
府道春木岸和田線・春木川水系
- ・牛滝地域連携軸（牛滝の谷沿いに市域を結ぶ）
府道牛滝山貝塚線・牛滝川水系

● 広域連携軸

- ・臨海広域連携軸（臨海区域で市内外を結ぶ）
阪神高速4号湾岸線、府道大阪臨海線
- ・都市広域連携軸（都市区域で市内外を結ぶ）
府道堺阪南線、南海線、国道26号、JR阪和線、府道大阪和泉南線、(都)泉州山手線
- ・田園広域連携軸（田園区域で市内外を結ぶ）
(都)泉州山手線、国道170号
- ・山間広域連携軸（山間区域で市内外を結ぶ）
阪和自動車道

※下線表示：見直し箇所

● 土地利用の基本方針

①山地・農地・市街地のバランスは、おおむね現状を保ち、環境との共生を重視した土地利用を推進

②景観、歴史、文化など地域の資源や個性を大切にするとともに、コミュニティのまとまりに配慮した土地利用形成を推進

③都市活力を再生する計画的な市街地の再編と整備に努め、産業振興と居住環境が調和した土地利用形成を推進

道路、鉄道、港湾など広域的輸送手段と連携し、効果的で持続可能な交通ネットワーク形成と生活・社会経済活動を支える都市的機能を備えた**拠点**形成を推進

④地形、地質、水系などの土地のもつ自然的条件に留意した土地利用を行い、災害に強いまちづくりを推進

● 拠点の設定

鉄道駅や交通結節点周辺に、地域の生活を支えるさまざまな機能が集積した拠点・産業の拠点など、地域特性を活かした拠点形成を推進



● 区域別の土地利用方針

4つの区域 本市は、地形に沿って带状に形成された土地利用の特性から4つの区域に区分

● **臨海区域**（おおむね海岸線～大阪臨海線）
・工業・流通・港湾業務及び供給処理業務機能を担う地域

● **都市区域**（おおむね大阪臨海線～泉州山手線）
・住宅・商業・工業などの用途を計画的に配置
・各鉄道駅周辺及び幹線道路沿道は、商業・流通・業務機能を担う地域
・市街化調整区域内農地や都市農地の保全・活用
・泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に地域特性を活かした広域交流拠点の形成と産業創出

● **田園区域**（おおむね泉州山手線～阪和自動車道）
・農業振興機能を担う地域
・丘陵地区に地域資源を活かした**地域拠点**の形成と産業創出
・幹線道路沿道は、地域経済の活性化を目的とした産業の立地については周辺土地利用との調和と環境保全を図りつつ、適切に誘導

● **山間区域**（おおむね阪和自動車道～府県境）
・森林を中心とした自然環境・景観の保全された地域

都市計画マスタープランの見直し骨子案について（見直しの視点）

見直しのプロセス

都市計画マスタープランの見直しは、第5次総合計画の策定と連携して行っており、各種調査やまちづくり市民懇話会についても総合計画の策定と一体的に実施しています。

計画の位置付けと役割

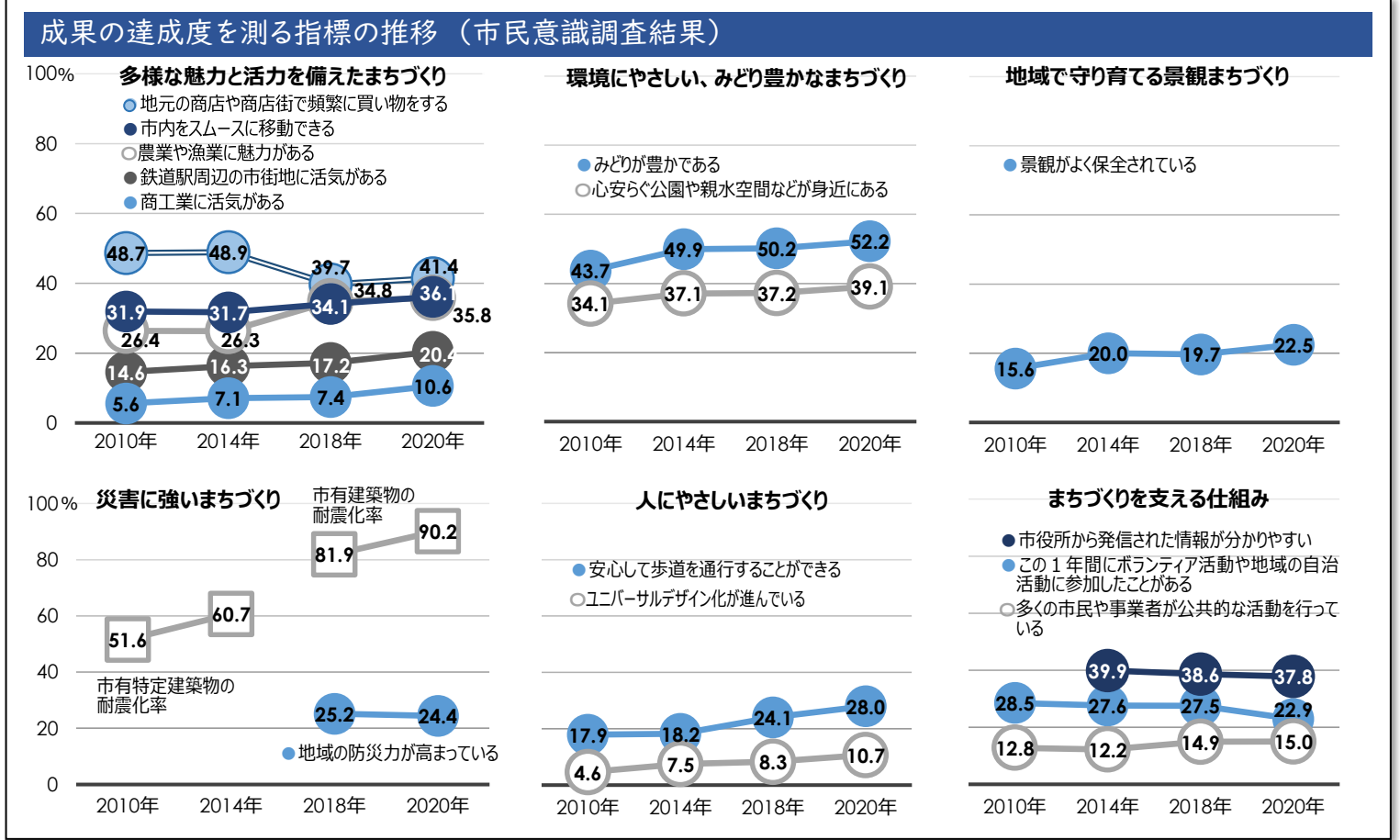
総合計画の基本構想を実現するために、土地利用や基盤整備を中心としたまちづくり方針を定めます。

本市が定める都市計画は、本計画に則すことが求められます。

また、地域でより詳細なまちづくりルールなどを定める際の指針として、都市計画制度によらないまちづくりの取組においても、市民・事業者・行政が共有する「まちづくり指針」としての役割を担います。

大阪府が定めるもの

岸和田市が定めるもの



骨子案（見直しの視点）

都市計画マスタープランに定める下記事項を中心に、「見直しの視点」を考慮しつつ、パブリックコメントでいただいたご意見や今後の第5次総合計画策定に向けた議論等を踏まえて、改定素案を作成していきます。

都市計画マスタープランの構成（現行）	見直しの視点（総合計画との整合）	見直しの視点（各テーマに横断的に反映）	【参考】第5次総合計画骨子案「都市構造」抜粋
1章-1. 土地利用計画の方針	総合計画基本構想骨子案 ＜基本目標＞ ① 岸和田の次世代を育むまち 住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくり ② 健康で自分らしく生きられるまち 多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境 ③ 安全で安心して暮らせるまち 地域で安心して暮らせるまちづくり ④ 人と自然が共生した住みよいまち 豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮した行動 ⑤ 賑わいと活力を創造するまち 地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業の発展 生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上 広域連携による賑わいの創出 ⑥ みんなでつくる持続可能なまち 誰もが地域づくりに参加しやすい環境の確保 広域連携なども活用した持続可能で健全な行政運営	＜生活利便性・快適な住環境＞ ・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導、無秩序な居住地拡散抑制 ・交通インフラの持続的な仕組みづくり ・地域の特性・課題に応じた対応策の検討（空き家等の利用促進、まちづくり制度の活用など） ＜健康・福祉＞ ・交流や活動の促進 → ・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導 ・交通インフラの持続的な仕組みづくり ・公園や広場の有効活用 ・農地の利用促進（新たな賃貸借制度の活用など） ＜安全・安心＞ ・災害リスクの低減に向けた多様な取組み（災害レッドゾーンの新たな建築抑制・災害イエローゾーンでの対策促進、避難場所など災害時の応急・復旧対策機能の適正な配置、既成市街地の適切な更新を誘導など） ＜地域・経済＞ ・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導、無秩序な居住地拡散抑制 ・工業・流通施設の適切な配置・集積を誘導 ・交通インフラの持続的な仕組みづくり ＜行政運営＞ ・人口減少・高齢化の進行に対応した効率的・効果的な行政経営 ＜協働＞ ・協働・連携の仕組みを再構築し、誰もが活躍できるまちづくり	
1章-2. テーマ別まちづくり方針	＜3つの戦略＞ ○ 多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用 ○ 海から山までの多様な地域資源の活用 ○ 時代を先取り・リードする先端技術の活用		
3章. まちづくりを支える仕組み			

●桃山学院大学の学生による発表

「よそ者」「若者」の視点から、現在や将来の岸和田市に対する意見をいただき、とことん懇話会において幅広い議論を引き出そうとすることを目的に、「岸和田をアップデートする ―若者も魅了するまちへ―」と題した学生たちによるプレゼンテーションを受けた。

市のPR動画についてと、府営蜻蛉池公園の活用についての2テーマに分かれて行われ、発表後に全体で意見交換をした。



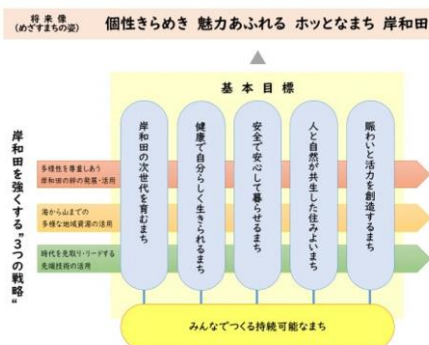
□主な意見

- ・若い感覚での SNS の発信方法を教えられた。また、世代を通しての公園の活用提案にも、期待を持った。
- ・学生さんの発表を聞かせてもらって、とても具体的な提案が数多くあり、とても分かりやすく共感できた。
- ・若い方がみんなのことに目を向けられていて、上手にまとめられていた。逆に市の目線は、私たちと話すには少し外れているのではないかと思います。学生さんは人の心を惹くために上手にまとめられて発表されている。
- ・すぐに実現できそうな内容で非常に良かった。

●これまでの振り返りと今後の進め方を共有

これまで議論してきた課題やニーズを踏まえて、6つの基本目標を細分化する「基本施策(基本計画)」を設定し、その中で施策の方向性や役割分担等を見開き1ページに整理するイメージを共有した。

次期総合計画 基本構想骨子案



10

基本施策のイメージ

例えば...

基本目標

基本施策(イメージ案)

基本計画に記載
(見開き1ページ)

- 安心して子どもを生み、育てられている — 施策の方向性、役割分担
- 子どもの健康や安全が保たれている — 施策の方向性、役割分担
- 子どもの個性や能力が豊かに育まれている — 施策の方向性、役割分担
- 生涯にわたり能力づくりが進められている — 施策の方向性、役割分担
- 誰もが活躍できる場が作られている — 施策の方向性、役割分担
- 郷土への愛着が増している — 施策の方向性、役割分担

13

□主な意見

- ・議論においては、柔軟性をもって、前向きに良いアイデアは取り入れるなどの意見だしができれば良い。
- ・今後の議論にあたっては、財政面など行政でできること・できないこともでてくると思うので、それも共有できればよい。
- ・今後の話の進め方について深められた。

◇成果と課題

改めて基本構想骨子案を説明し、理解促進を図ったため、多くの意見交換ができた。

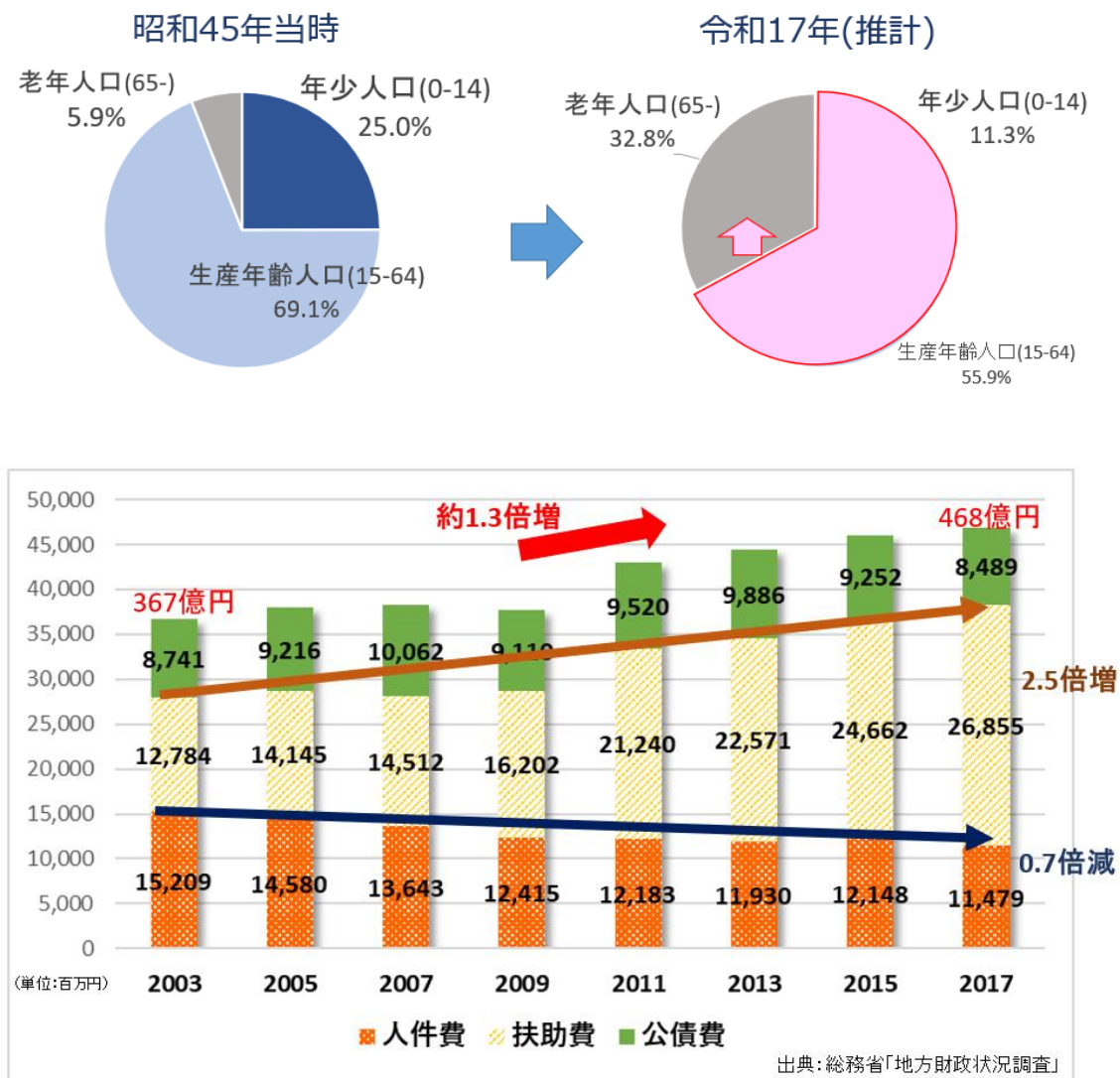
意見としては、「総合戦略の説明が必要」、「抽象度が高く理解しづらい」、「人口減少を前提とした計画でよいのか」などの意見があり、わかりやすさに向けての改善が必要であること、人口減少の中でも各種施策(子育て世代への重点など)を実施し、増加に向けての取組を進めることが必要であることが確認できた。

STEP3 将来像の実現に必要なことを考える

第13回	2021年 8月22日(日)	アクションカードの作成(これまで議論した「具体的なアクション」から整理) 将来人口の方向性について共有し、アクションカードの作成を通して、施策の方向性や公民の役割分担などの議論を行った。
第14回	2021年 9月12日(日)	アクションカード・プレイヤーカードの作成(新たな分野で、アクションカードの磨上げ・追加とプレイヤーカードの作成) 「市民(私)」の関わりについて、各アクションとプレイヤーを発表し、“協働の視点”を持ちながら、アクションの磨き上げを実施した。
第15回	2021年 9月26日(日)	アクションとプレイヤーについての議論(全体を見て、アクションの少ない分野について議論) 前回に引き続き、「市民(私)」の関わりについて、各アクションとプレイヤーを発表し、“協働の視点”を持ちながら、アクションの磨き上げを実施した。
第16回	2021年 10月17日(日)	基本計画への反映(個別目標やその方向性について整理) 具体的なアクションと基本計画への反映について共有し、みんなでつくる持続可能なまちについて講師を招きご講演いただいた。

●将来人口の方向性について

将来人口については、全体数ではなく構成比に着目した考え方や視点が必要となることを念頭に、全国的に出生率の向上が見込まれず、また市の財政状況も厳しい中で人口減少を最小限にとどめるためには、子育て世代をつなぎとめる施策が最重要であり、現役世代を増やす（特に子育て世代）取組とともに、現役世代に限らずみんなで社会を支えていくことが必要、つまり高齢者が社会参加しやすくなる取組も必要であることを共有した。



□主な意見

- ・人口の方向性の動向予測ができることで、必要なニーズを具体的にどう行っていくかを考えることができ、分かりやすい。

●アクションカード&プレイヤーカードの作成

取組を実際の行動に移せるよう「見える化」するために、市や地域で必要な具体的な取組をまとめる「アクションカード」と、その取組を進める市民・事業者・行政など各主体の関わりを示す「プレイヤーカード」を作成した。

なお、アクションカードの内容は基本計画の「施策の方向性」、プレイヤーカードの内容は基本計画の「公民の役割分担」にそれぞれ反映することとした。

アクションカード作成例（参考）

これまで議論した「具体的なアクション」から**アクションカード**を作成

①第8回・9回・10回で議論した具体的なアクション

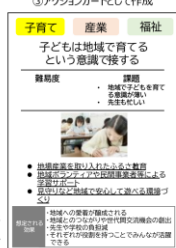


②具体的なアクションに向けて（参考：一部抜粋）

分野	教育・文化
取組	子どもは地域で育てるという意識で接する
課題	地域で子どもを育てる意識が薄い ・先生も忙しい
具体的な手法	・地域産業を取り入れたふるさと教育 ・地域ボランティアや民間事業者等による学習サポート ・見守りなど地域で安心して暮らせる環境づくり
想定される効果	・地域への愛着が醸成される ・地域とのつながりや世代間交流機会の創出 ・先生や学校の負担減 ・それぞれが役割を担うことでみんなが活躍できる

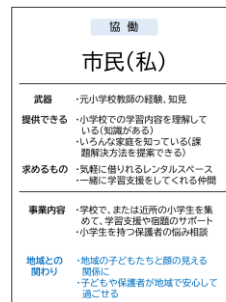
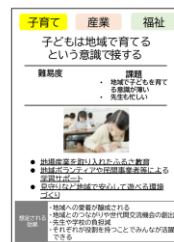
第8～10回での議論以外の新たな視点や解決策なども議論

アクションカードとして整理



プレイヤーカード作成例（参考）

アクションカードに基づき、**プレイヤーカード**を作成



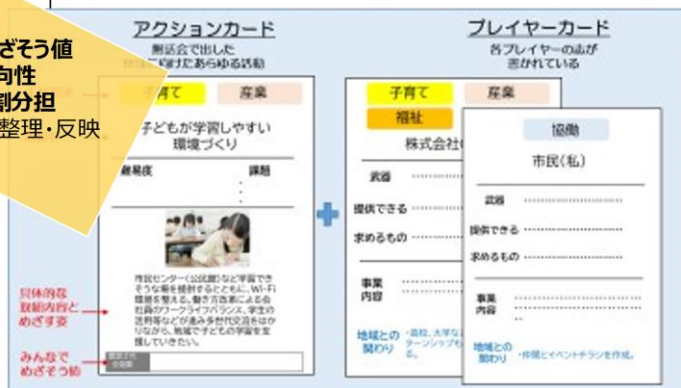
基本計画への反映

アクションカードや**プレイヤーカード**の内容は、行動計画案として集約し、その内容の必要性や妥当性の検討を経て基本計画の見開きページの、**施策の方向性**や**公民の役割分担**などにひもづけます。



具体的な取組（アクション）をカードとして“見える化”しておくことで、「行動に移せる計画」をめざす

・みんなでめざそう値
・施策の方向性
・公民の役割分担
などに、整理・反映



【資料】

- アクションカード・プレイヤーカード まとめ

○岸和田の次世代を育むまち

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		子どもを地域で育てる				
		子育て	福祉			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体的取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体的取組)	中間支援組織 (「⇒」具体的取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・地域コミュニティの希薄化 ・地域で活動するメンバーの高齢化、人手不足	地域での子どもの見守り	【地域住民】 ・子どもの顔を覚えて、気にかけて、連絡を取り合う ⇒子どもの安全見守り隊への参加 ⇒見守り隊の方と、地域の子供たちの交流の場の創出(登下校時の通学路の見守り以外での交流の機会)			・子育て支援地域協議会において、虐待防止、要支援、特定妊婦の支援の進行管理を実施 ・地域住民との協力のもと、通学路の安全見守りを実施 ◆虐待案件の増加に対応するための人員確保や民生委員・児童委員等、関係機関との連携と継続的な支援 ◆地域が抱える課題を踏まえた見守り協力者との連携強化や登下校時の巡回パトロールの実施	・子どもに「地域の人が見守ってくれている・育ててくれている」という意識の芽生え ・地域の人の活躍の場ができるほか、子どもに対する認識が変わり、距離が近くなる
	子ども食堂					
	知識・経験を地域に還元(地域で知識・経験を共有)	【地域住民・大学生・農業従事者・有資格者】 ・趣味や特技を生かし、子どもたち・子育て家庭と交流 ⇒リメイク、工芸品づくり(講座/一緒に楽しむ程度の集まり) ⇒スポーツ・音楽 ⇒進路・進学相談(大学生) ⇒農業体験(農業従事者等)	【地元企業】 ⇒地場産業の紹介、体験等イベントの実施(大規模/小規模)		◆集える場所の提供 ◆Wi-Fi環境の整備	・地域での交流の促進 ・地場産業への理解促進
・知りたい情報が手に入りにくい ・NPOの活動などを知らない	子育てに関する情報発信	・土日のイベントなどを利用	【NPO団体】 ・SNSを使った情報発信		・広報紙、ホームページ、スマートフォンアプリ、SNS、報道機関等への情報提供 ・市公式スマホアプリ「きしまる」で予防接種や妊産婦健診のスケジュール管理 ◆情報発信 ◆広報紙、ホームページ、スマートフォンアプリ、SNS、報道機関等への情報提供	
・親世代に余裕がない ・ボランティアでは続かない(弁当や足代が支給されると良い)	親子の居場所づくり		【NPO団体】 ・親が笑って過ごせる場づくり 【企業】 ・取組に対する協賛、SDGsの取組		・子ども家庭総合支援拠点(児童虐待予防など)の開設 ・妊娠前から子育て世代を支える子育て世代包括支援センター(母子健康)の開設 ◆地域で集まれる場所の提供 ◆養育者の身近な相談の場の提供と親支援事業の推進 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進	
・学校の先生の負担が大きい ・いきなり地域独自の取組を行うことは難しい	地域と学校の連携	【地域住民】 ⇒学校の清掃	【PTA】 【学校協議会】			・子どもに「地域の人が見守ってくれている・育ててくれている」という意識の芽生え ・地域の人の活躍の場ができるほか、子どもに対する認識が変わり、距離が近くなる
・地域では人材や団体に限りがある	市域を超えた連携	日常的な生活圏(市外)での良いところを見習う	⇒地域外の人材の受け入れ ⇒地域外の団体との連携強化			・広域での効率的な取り組み ・弱みの補完・強みの提供
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		子どもを育てやすい環境づくり				
		子育て				
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・少子化が進行している ・子育て家庭に岸和田市が選ばれていない ・待機児童が発生し、働きやすい環境とはいえない ・幼稚園の定員充足率が低い(待機児童発生と相反) ・地域のつながりが希薄化 ・コロナ禍で子育てサロン等が閉鎖されている	子育て支援	【大学生】 ⇒コロナ禍で地元にいることを利用し、保育所や学童支援(アルバイト)	⇒未就学児(とその親)が集える場所の提供	・サポートセンターの役割強化	・子ども家庭総合支援拠点(児童虐待予防など)の開設 ・妊娠前から子育て世代を支える子育て世代包括支援センター(母子健康)の開設 ・保育事業者への運営支援 ・放課後児童クラブの増設、定員拡充 ・各市立公民館でのキッズルームの開催 ◆医療費助成など財政的支援 ◆情報発信 ◆市政への若い人などの意見の反映 ◆民間施設との協力体制を強化 ◆放課後児童クラブの効果的な事業推進の検討	
・少子化が進行している ・子育て家庭に岸和田市が選ばれていない ・待機児童が発生し、働きやすい環境とはいえない ・幼稚園の定員充足率が低い(待機児童発生と相反)	子どもの安全確保(治安、通学路の安全確保等)	⇒地域住民が主体となった通学路の見守り	地域で活動する様々な団体 ⇒見守り活動への参加		・地域住民との協力のもと、通学路の安全見守りを実施 ◆地域が抱える課題を踏まえた見守り協力者との連携強化や登下校時の巡回パトロールの実施 ◆危険な箇所(道路等)の改善	・地域の中での顔の見える関係づくり(子どもに指導することが可能になる) ・地域団体が参加することで、自分たちの活動に興味を持ってもらい、子供や親に参加をしてもらう。
	生活にかかる費用の負担を軽くする		【社会福祉協議会】		・ひとり親家庭への経済的支援 ・子ども医療費助成(中学3年生へ拡充)、児童手当(全国)の助成 ・3歳～5歳保育料無償化(全国) ・就学奨励費、中学への入学準備金の支給	
	交通の利便性を良くする				◆渋滞の緩和に向けた取組	
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		学力の向上(学力に縛られる必要はない)				
		子育て		教育		
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
【Eグループの議論】 ・親が教育について考える機会や時間がない ・スポーツの分野でも子どもが活躍できる場が必要 【追加課題】 ・学力に課題がある【全国平均より低い(2019)】 ・教育や歴史・文化への関心が低い ・社会教育施設があまり活用されていない ・自習スペースが少ない	【Eグループ議論】 ・魅力ある学校づくり ・スポーツ・文化などスキルを持った子どもが活躍できるしくみ	勉強することがカッコいいという意識の醸成	【事業者】 ⇒空き店舗を活用したフリースペースや自習スペースの整備 【地域の団体】 ⇒プログラミングを無償で教える機会の提供(堺市や和泉市では実施している団体あり) 【大学】 ⇒大学のサークル活動でスポーツ等を教える機会の提供 ⇒大学の留学生在が英語や外国の文化を教える機会の提供 【高校】 小学校(小学生)との交流		※すでに行政で取り組んでいることがあるので、記載 ◆市内の府立高校や市立産業高校との連携推進(小学生と高校生の交流の場を設ける) ◆知識を育む・能力を磨ける活動のできる機会・場所の提供(小学校の図書館開放、自習やスケートボードの練習のできる場所等) ◆空き家や利用の少ない公共施設を使ったフリースペースや自習スペースの整備 ◆自然豊かな体験ができる場の提供(トンボ池公園・自然館の連携)	・いろいろなカッコよさがあることを許容する多様性 ・様々な活動に触れる機会を設けることで、人生の選択肢を増やす ・コロナ禍でこれからも遠隔授業は一定残ると想定されるため、大学生が地域で活躍できる場を提供することで、地域との交流が促進される
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		学力の向上				
		子育て		教育		
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
【Eグループの議論】 ・親が教育について考える機会や時間がない ・スポーツの分野でも子どもが活躍できる場が必要 【追加課題】 ・学力に課題がある【全国平均より低い(2019)】 ・教育や歴史・文化への関心が低い ・社会教育施設があまり活用されていない	【Eグループ議論】 ・魅力ある学校づくり ・スポーツ・文化などスキルを持った子どもが活躍できるしくみ	・「教えられる」より「学びたい」という方が楽しい。 ⇒自発的に勉強したくなる環境をつくる(みんなで問題を解きあう環境づくりなど) ・親が勉強を見る ⇒YouTubeの動画を一緒に観るなど、楽しみながら学ばせてあげる ・動機づけをする ⇒勉強・努力をした結果、楽しい将来(やりたい仕事等)につなげている大人を知る機会をつくる	・大学生による勉強方法等の講座		連携先の大学の活用 ◆大学との連携を強化 ⇒勉強の仕方を知る、勉強をしてどのようなことにつながるか(大学生になるとこんなことができる)などを知る機会を作る	
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		今にあった道德の構築				
		教育	子育て	郷土愛		
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・地域の祭りだが個人への負担（町会費）が大きい ・まちが汚いことが岸和田市のイメージダウンにつながる ・祭礼団体が清掃を行っているが、祭りの翌日にしているため、まちが汚い状態が翌日まで続いている ・荒々しいイメージ等もあり、曳く人も減っている	祭りへの愛着（きれいな祭りに）	・ゴミへの意識強化 ⇒だんじり終了後、道路などの清掃活動（既に実施中） ⇒ポイ捨てしない	・ゴミへの意識強化 ⇒ボランティア・町会での清掃活動（既に実施中） ⇒祭りを行っている人側からゴミ問題などの発信 ⇒ごみ捨て場所の指定（狭い場所で見ると危険） ・安全に見ることができるようにする ⇒見る場所の設定 ・若者等の参加者に対して、神事であることの再認識を促す （荒々しい→楽しいイメージへ！）		◆ポイ捨てしない仕組みづくり ⇒ゴミ箱の増設	
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		祭りへの後方支援				
		郷土愛	文化			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・岸和田在住でも触れる機会がない人もいる（友人等のつながりがないと曳くコミュニティに参加しづらい、町の法被を着ている必要がある（町の住民でなくても良い、借りても良い））	・だんじりの技術に関心をもってもらう ・祭りに触れられる機会の創出 ・だんじりの歴史を学ぶ機会の創出	・祭りに興味ある人の案内支援 ・「だんじり」を間近で見る、触れる機会の創出支援 【例】 ⇒貝塚でだんじりの彫り物をしていた ⇒蟬蔵蔵駅の北西・三の丸神社（だんじり発祥の地）でだんじり展示、祭りの起源について表示板がある	・「だんじり」を間近で見る、触れる機会の創出支援 ⇒だんじり会館の活用 ・だんじりの変遷（開始当時は長持に車輪が付いていた程度だった）を知ってもらおう ⇒地域のお年寄りが案内人になって紹介（生きがいに） ・（曳行中は）危険であるため、だんじりをゆっくり見学できる機会の提供 ⇒ゆっくり見学することができる時間帯等の情報提供（なければ） ・荒々しい内容だけでなく、彫り物や歴史などを知ることのできる機会の提供（「だんじり」と「祭り」を同時に見るのではなく、「だんじり」そのものに着目してもらえるような取組を行う） ⇒YouTube、SNS等を使い幅広い世代、岸和田市外の人にも知ってもらおう		◆「だんじり」を間近で見る、触れる機会の創出支援 ◆だんじり会館の活用	
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

基本目標：岸和田の次世代を育むまち

基本目標：岸和田の次世代を育むまち						
施策の方向性：		子どもを育てやすい環境づくり				
		子育て				
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・共働き世帯が増え、子どもと接する時間が減少 ・親と子どものコミュニケーションの時間の確保 ・会社によって育休・産休の取りやすさに差がある	働きながら子育てしやすい環境づくり	・育休・産休が気兼ねなく取りやすい環境のサポート ・性別に関係なく取りやすいよう、周囲の理解 ・父親も休みやすい環境づくり ⇒法律、権利等の理解促進	・雇用側の努力(気持ちよく休みやすい環境づくり) ⇒上の立場が率先して育休等を取得してPR		◆雇用側の努力(気持ちよく休みやすい環境づくり) ⇒上の立場が率先して育休等を取得してPR	
	共働きの悩み相談	・悩み相談・経験談共有など、同じ共働きで不安に感じている立場の人たちと交流(子育てに関して相談できる団体があれば参加する)			・地域子育て支援センターでの相談受付 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進	
・高齢者が携わることが多いが、何かあったとき助けられない可能性 ・町内だけでも「この子は誰の子」などの情報が分かる方が手助けしやすいと思う	子どもの見守り	・高齢者はセンサー的な役割。若い人等とは役割分担。誰でもできる。 ⇒何でも自分で解決しないといけないと重荷に感じる必要はないのでは。旗を持たずとも、散歩等しながら意識するだけでもよい ・登下校時の散歩等による見守り活動 ・小学校での見守り活動への参加(見守り隊のベスト着用) ・下校時間に買い物に行くなど、日常生活の中で子どもの見守りができるような工夫をする ・子ども食堂の活動支援	【PTA】 【学校協議会】		・地域住民の協力のもと、通学路の安全見守りを実施 ◆見守り協力者との連携強化や登下校時の巡回パトロールの実施 ◆夕方の帰宅を促すチャイムなどの工夫(例：阪南市「地域の方も子どもを見守りましょう」)	・子どもにとって旗を持って見守るのは交通安全等のため助かる ・活動を通じて、子どもたちが挨拶してくれるので交流ができるようになる
・待機児童等により、兄弟姉妹が別々の保育園に通わなければならない場合、保護者の送迎の負担が大きい。	「保育ステーション」の設置		・送迎などの支援(駅などに、一旦子どもを集めて、そこから各保育所へ送迎する)		◆送迎などの支援(駅などに、一旦子どもを集めて、そこから各保育所へ送迎する)	保護者の負担軽減
ニーズ	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である					

○健康で自分らしく生きられるまち

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち						
施策の方向性： 多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり【高齢者】 福祉 多様性 高齢者（＝老年人口、年金受給）65歳以上が、100年時代の中、社会の状況						
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・老人クラブに入りたい人はいるが、引っ張る人がいない ・孫育てのお手伝いなどで高齢者は、忙しい ・シルバー人材センターで仕事を見つけない（年齢制限、スキルや金額が合わない。） ・シルバーの登録者数が右肩下がり ・公的な仕事をシルバーと障害者作業所など取り合い等が発生している	高齢者が活躍する機会の創出（学校などで子どもに学習支援を行うなど）	⇒地域の人へのあいさつ・声掛け（中学校ですで行われている） ⇒高齢者支援に関心を持つ	・高齢者が活躍できる仕事を増やしていく ・高齢者のリスクリングの仕組み	【老人クラブ、グランドゴルフチームなど】 ⇒就労や地域活動の推進 【その他】 ・高齢者の引っばっていく担い手が生まれる支援	・老人クラブやシルバー人材センターを通じた就労や地域活動の推進支援 ・生きがいづくりの機会の提供 ◆生きがいづくりのための活動の推進と高齢者への就労の場の提供（民間事業者への周知含む） ◆高齢者のリスクリングの仕組みの推進 ◆高齢でも働ける仕事の情報発信 ◆障害者優先調達推進法の推進	・高齢者がいきいきと生活できる
・二人世帯であっても地域との孤立により、支援が必要になってきている	独居高齢者などの見守り活動の推進	⇒地域の人へのあいさつ・声掛け		【自立支援型地域ケア会議】 ・各種団体の連携促進 【老人クラブ、グランドゴルフチームなど】 ・つながり創出 【地域包括支援センター】 ・情報共有	・介護制度の安定運営、多種の専門職との協働による「自立支援型地域ケア会議」の開催による支援体制の構築 ◆地域における情報収集や実態把握の推進、地域福祉を担う法人等との協力体制の強化	・高齢者が安心して生活できる
・リビング活動が認知されていない ・買い物難民の方がある	買い物に出てきてもらう場づくり（移動販売など）	・サービスの継続性を確保するため、積極的に利用する	【事業者】 ・地域、生協、社協とのサポート活動が行われている	【社会福祉協議会】 ・導入支援	・生協などとの協定締結	・つながりができる
ニーズ 多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である						

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち						
施策の方向性： 多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり【障害者】 福祉 多様性						
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・地域住民としてなかなか具体にはどうしたらいいのかわからない ・個別の事業所できつかけづくりは難しい	障害者・児の連続した、継続的な支援のため、縦いつながりづくり	⇒地域の人へのあいさつ・声掛け ⇒経験者は、育児相談に乗れる	【子ども会】 ⇒障害児も子ども会に参加できるようにサポートする 【団体】 ・専門職をそれぞれの団体に入れていく	【岸和田障害者・児関係団体連絡協議会】 ・障害者学級の運営・支援 ⇒リビングへの参加促進	・手話言語条例の制定と手話の理解促進、手話普及の推進 ・雇用や社会参加の機会の充実 ◆外出や余暇活動等の社会参加の機会を増やすとともに生きがいを感じられるための支援の推進	・縦いつながりを作ること、地域の取組みに参加しやすくなる
ニーズ 多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である						

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち						
施策の方向性：		多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり【外国人】				
		福祉	多様性			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・宗教に対する配慮も必要	外国人が地域に溶け込むための取組み	⇒地域の人へのあいさつ・声掛け ⇒新聞などからの情報収集	・子ども食堂との連携 ⇒みんなが集える場にする(こども食堂は、地域の居場所であることを広げていく)	【国際親善協会】 ⇒国際交流団体等への参加・支援と連携の推進 ⇒国際交流ボランティア活動 【岸和田市人権協会】 ⇒研修・啓発・相談事業	・公民館での日本語学校の実施 ・人権問題に係る相談体制の整備 ◆人権問題に係る相談体制の充実	・偏見、異なる言語や文化の壁を解消
ニーズ		多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である				

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち						
施策の方向性：		多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり【こども】				
		福祉	多様性			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・子どもの居場所だが、貧困家庭が利用する場所のイメージになっている。 ・海外にルーツがある子の場合、宗教上の制約もある	子ども食堂を活かした社会教育の強化	⇒地域の人へのあいさつ・声掛け	【教育関係者】 ⇒定年後の教育指導(学習指導など) ・外国人	【社会福祉協議会】 ⇒子ども食堂の導入・運営相談、支援 ・子ども食堂は、市内13か所で運営	◆社会福祉協議会へ補助金による間接的な支援	・子どもの心の成長につながる
・地域のコミュニティに参加するハードル・デメリットもある(気を遣う・・・など) ・仕事の時間的な制約など現役だと難しい	子育てなど悩む方の支え合いの場づくり(同世代がつながれるコミュニティ)	・民生委員さんをはじめとしたつながりを生かして弱音を言える場所づくり ・つながりづくりや学習支援 ⇒PTAなどへの参加	・PTAのつながりを活かした取組 【団体】 ・専門職をそれぞれの団体に入れていく	【地域子育て支援センター、子育て世代包括支援センター(母子健康)】 ・情報共有	・子ども家庭総合支援拠点(児童虐待予防など)の開設 ・妊娠から子育て世代を支える子育て世代包括支援センターの開設 ◆養育者の身近な相談の場の提供と親支援事業の推進 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進	・安心して子育てができる
・ヤングケアラーの実情を知らない	・ヤングケアラーへの支援	・知恵を出しあう機会を作る		【要保護児童対策地域協議会】 ・ヤングケアラーの概念の構成機関への周知 ・ヤングケアラーの実態把握	・要保護児童対策地域協議会の調整 ◆学校での生活アンケートによる実態把握	
ニーズ		多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である				

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち

基本目標：健康で自分らしく生きられるまち						
施策の方向性：		健康づくり				
		健康				
各主体の関わり						
課題	取組	市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	想定される効果
健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い 特定健診受診率が低い【府平均30.1%に対して、28.3%（2019）】 健康寿命が短い【府平均より男性0.5歳、女性0.9歳短い（2015）】 高齢化率の上昇	個人の健康づくりの推進	・自己管理を進める（ウォーキング、ハイキング、職場での健康推進活動への参加） ・かかりつけ医を決めておく	・健康につながる取組に協力する		・健康づくりのサポート ◆ウォーキングが楽しくなる場（公園など）づくり ◆健康保険の利用状況に応じたインセンティブの導入（府レベル）	・高齢者の仕事づくりにもつながる
	【地域での取組】若者と高齢者が一緒にやってできる取り組み	・地域の取組みへの参加	【町会等】 ・月一で、朝に体操とゴミ拾いをする（クリーン＆ジョイフル）	・若者が発信した時に、高齢者が一緒にやろうといえる仕組みづくり	・いきいき100歳体操、かみかみ100歳体操など地域への周知を実施	・地域を歩くため、若い人たちがつながりができる ・コミュニケーションの場づくりが健康づくりにつながる
	地域医療の戦略的な推進	・まずはかかりつけ医に相談	【地域の医療機関】 ・主幹となる病院との連携を強める		・市民病院は二次医療機関としての役割を遂行（がんや緩和ケアに特化） ◆保健所と病院の関係の強化 ◆医師会との連携強化 ◆地域医療の構図の整理	・役割分担と連携により、市民の健康を守ることができる
	多様性を踏まえた健康づくり	・情報収集（地域どのような人がいて、困っているのかを知る）			・障害者への歯科診療を実施 ◆医療的ケア児への支援強化 ◆情報弱者への健康情報などの発信の工夫（新型コロナなど）	
ニーズ	多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である					

○安全で安心して暮らせるまち

基本目標：安全で安心して暮らせるまち

基本目標：安全で安心して暮らせるまち						
施策の方向性：						
市民自らの行動に結びつく災害情報の集約・提供・共有・発信・拡散						
防災						
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・情報を発信するだけではなく、市民との共有や市民の声を受け入れる仕組み・場づくり、体制が必要(気軽に相談できる、情報を得られる手法) ・地域活動で役職がない人や町会未加入者は、防災に関する情報を収集する機会が、それ以外のより少ない ・広報紙を見ない人がある ・過去の災害情報(全国)を活用できていない ・防災に関心がない人に関心を持ってもらうための取組や方法がない ・海岸部、平野部、山間部など地形に応じた対策や、地域のコミュニティや活動など地域特性に応じた対策、災害の種類に応じた対策など多岐にわたる ・人的ネットワークにつながらない人も多い(自治会未加入者、独居高齢者など) ・インターネットが通信できない場合の対応	・個人、団体、行政が様々な災害情報を提供、発信、共有できる場づくり(災害情報のハブ) ・各年代ごとに適切な、的確に情報が届く(届きやすい)発信方法を多様化する(若者向けにYouTube、市内店舗と連携した防災啓発(スーパーの店内放送、市アプリ「きしまる」) ・モノ、カネをかけずにできる(すぐにできる)ことから取り組む。 ・防災時の災害情報窓口の一本化	⇒個人の知識や経験を地域に広める(住宅関連の仕事の経験から、ブルーシート養生方法を伝える) ⇒個人の取組を地域に知ってもらう(防災頭巾を制作しているため、作成方法の指導や頭巾を提供する)	事業者や団体に属さない人に対する情報発信 ⇒ラヂオきしまるで情報発信 ・避難場所を分かりやすく表示をする。マンションや企業等が避難場所となった場合にも、貼り紙をするなど、表示する	情報発信のハブ機能 (ハブ機能としては、災害の多様化、海岸部と山間部で災害のリスクが異なることから、様々な主体の意見を取りまとめる必要がある) (市役所も困っていることがあれば、それを事業者や市民に対して共有し、不足する情報を集めるなど、連携を促す取組が必要である) ・テレビ岸和田やラジオ岸和田など、地元のマスメディアを活用した情報発信を行う ・合同防災訓練、防災情報、企業のBOPを地域や事業者、市民と共有するためには、市役所が「間に入り、積極的に動く	・ウェブサイトでの情報提供 ・市民への意識の醸成 ◆来庁者への情報提供 ◆情報発信の流れ、順番を決める ◆電柱の活用(津波の高さ記す) ◆市民と情報を共有するパブリックスペースの設置(危機管理課が、市民と気軽に情報交換したり、市民が相談できたりする窓口にしたい) ◆市役所手続きの待ち時間に防災啓発 ・市役所内各部局間の情報共有を強化する。 ・自治会未加入者への情報提供を行う ・企業や団体が行う防災対策や成果を幅広く情報収集・発信する。 ・SNSを活用した情報発信	・災害時の優先順位がわかる(各自で判断し行動できる) ・各自が、よい状況を選択、情報を収集できるようになる ・個人や組織同士が、情報共有によって状況認識や行動様式が統一され、全体としての確かな災害対応ができるようになる ・自治会未加入者への情報提供が進み、地域とのつながりが生まれる
ニーズ	地域で安心して暮らせるまちづくりが必要である					

基本目標：安全で安心して暮らせるまち

基本目標：安全で安心して暮らせるまち						
施策の方向性：						
交通安全						
交通安全						
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・交通事故に対する不安が解消されていない(歩行者や自転車の通行が危険な道がある、交通マナーが悪い) ・ながら運転(スマホ、食事)が危ない ・公共交通が不便な場所は、車がないと生活が困難となる ・高齢者の免許返納 ・交通マナーの悪さから、岸和田市のイメージ低下につながる	・自動車運転手だけではなく、歩行者や自転車も含めた、子どもから大人まで、地域全体の交通マナーの向上 ・地域の交通事情や特性に合った啓発の実施 ・高齢者の免許返納に向けた啓発 ・警察と連携した交通安全活動の実施 ・日常の一部、買い物時や通院時の意識啓発の実施	・SNSを活用した情報発信 ・免許返納に向けた、家族のサポートの充実支援、家族から高齢者への意識付け ・警察と合同で交通安全活動、見守りを実施	・買い物難民に対する配達サービスの実施	・交通安全協会と連携した情報発信 ・交通に関する情報の収集とSNSを活用した発信 ・買い物難民対策等を実施している事業者と、行政の取組をつないで、情報を共有する	・交通安全講習等、啓発する場所の提供 ・SNSを活用した情報発信 ・免許返納者に対する買い物タクシーチケットの配布	・交通事故が減る ・安心、安全に暮らせるまちとなる
ニーズ	地域で安心して暮らせるまちづくりが必要である					

○人と自然が共生した住みよいまち

基本目標：人と自然が共生した住みよいまち						
施策の方向性：		脱炭素・地球温暖化対策				
		環境				
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・環境への負荷の低減 多様な資源をつなげる仕 組みがない ・省エネに取り組む市民 の割合が低下している 【64.9%（2015）→60.9% （2020）】 ・リサイクル率が低下して いる【14.7%（2015）→ 12.2%（2019）】 ・脱炭素への対応が求め られている	脱炭素を意識し行動す る	・節電や省エネを心がける ⇒切れた電球はLED化する ⇒冷蔵庫内を整理する ⇒使用しない家電はコンセント を抜く（待機電力カット） ⇒省エネ商品を購入する ⇒短い距離なら自転車や徒歩 で移動する（交通利便性も確 保する） ⇒自宅以外の施設を利用しエ アコンの使用を少なくする ・ごみを減らす（二酸化炭素の 排出抑制） ※4Rの取組が脱炭素社会の 実現につながる	・脱炭素商品の開発・販売 ・会社内で脱炭素の取組を推 進 ⇒照明のLED化など節電を進 める ⇒社用車を電気自動車に更新 ⇒省エネ製品の導入 ⇒ペーパーレスの推進 ・働き方の工夫を推進 ⇒在宅勤務やテレワークを進 める ・大学などの学校でもペーパー レスを進める		・住宅等における太陽光発電 機器等の設置に対する補助 ◆再生可能エネルギーの導入 促進	
ニーズ	豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮した行動が必要である					

〇賑わいと活力を創造するまち

基本目標：賑わいと活力を創造するまち						
施策の方向性：		魅力的な観光プランを検討				
		産業	観光			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・岸和田市には核となるコンテンツがなく、本市だけでは観光客を見込めない ・岸和田市には観光要素が点在している、移動が不便	・コアな旅行者の獲得のためのコンテンツづくり（周辺エリアとの連携・旅行会社などプロフェッショナルな事業者の参入、暮らしの利便性の活用） ・食べ物を起点に民間の活力を利用 ・自転車旅の人気を引き込む ・BMXの推進 ・移動手段の確保	・SNSでの発信 ⇒有名ユーチューバーにタグ付け ⇒点在する観光資源を線にするために、空き家を活用した店舗や立ち寄れる場所づくり（例：地域の人とかかわりあいながら、日本の昭和の暮らし再現など）	⇒だんじり祭に関わる職人の作業見学・体験学習（だんじり大工・彫物・法被・提灯） ⇒農産業・飲食店が名物づくり ⇒BMXの推進（周知・参加しやすいイベント実施など） ⇒レンタサイクル（コインロッカーの利用特典・ホテルの荷物一時預かり） ⇒相乗りタクシー	【岸和田市観光振興協会】 ・岸ぶら運営、テーマ別観光コース、岸ぶらがーによる地域魅力の発信 【KIX泉州ツーリズムビューロー】 ・観光ルート等の発信 ⇒インフルエンサーなどによる泉州一体をPRする定期配信型旅番組（検索にヒットしやすい情報発信） ⇒カテゴリー別（食・歴史・イベント・レジャースポットなど）に抽出し興味を引くようなアビール ⇒レンタサイクル ⇒相乗りタクシー ⇒レンタサイクルの活用促進（観光ルートとあわせて貸出場所・特典情報の発信）	・エリアマネジメント推進室の設置（周辺エリアとの連携・旅行会社などプロフェッショナルな事業者の参入によるコーディネート） →【KIX泉州ツーリズムビューロー】 ◆Go Toトラベルのような旅行クーポン制度 ⇒レンタサイクルの活用促進（観光マップに貸出場所・特典情報掲載） ⇒コミュニティバスの観光活用	・泉州地域全体で観光魅力を高め、岸和田市にも足を運んでもらう ・関空⇄大阪・京都・神戸の間で1日回遊してもらう
・遠方からの観光客を見込めない ・移動手段の不足		【地域住民】 ⇒地域の催事や観光資源のマップ作成 ⇒だんじり囃子教室の実施→太鼓の全国大会参加（だんじり関係者でなくても参加できる）	⇒だんじり祭に関わる職人の作業見学・体験学習（だんじり大工・彫物・法被・提灯）を小学校・中学校行事として実施 ⇒観光行事マップの作成（市内各地域の催事　だんじり、お盆なども含めて開催日・場所・内容を一枚もので見れる地図） ⇒BMXの推進（春木地区以外の市民への周知・参加しやすいイベント実施など）	【岸和田市観光振興協会】 ・岸ぶら運営、テーマ別観光コース、岸ぶらがーによる地域魅力の発信	◆観光行事マップの作成（市内各地域の催事　だんじり、お盆なども含めて開催日・場所・内容を一枚もので見れる地図）	・まず、市民・近隣市の人々が楽しめるまちに ・そのなかで磨かれ特化したものができれば、より離れた地域からも来てもらえるようになる
ニーズ	地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である					

基本目標：賑わいと活力を創造するまち						
施策の方向性：		子育てしながら働きやすい環境づくり				
		産業	子育て			
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）	
・企業内保育所が少ない、増やす必要がある ・子育てしながら働ける環境がほしい ・子どもを二人以上育てるためには経済的負担がある ・出会いの場、離婚に対する不安	・企業内保育所の充実（預かり支援） ・子育ての知見のある方にあずかってもらう、高齢者にも手伝ってもらう ・未就学児と中学生くらいまでの支援の両方が必要 ・子育て世代の悩み相談の窓口、小さい子どものものはあるが、小学生は？ ・子育て世帯のための講座（親としての考え方やしつけなど）	・地域活動に参加し、子育て・教育について話す場づくり ・結婚と同時に離婚もフランクに話せる場づくり ・子育て経験のある人からのサポート	・休暇が取りやすい環境づくり ⇒進学塾（河合塾など）による親サポート ⇒病後児保育のできる施設の設置 ⇒事業者による顧客を対象とした婚活支援（安心して参加しやすい） ・鉄道事業者による高架下活用などによる育児施設（子どもの数がないと成り立たない）	⇒婚活サイト運営・婚活パーティー開催	コミュニティの場づくり ・地域子育て支援センター：育児相談、センター開放、子育て講座 ・家庭児童相談：子育てや家庭内の問題について相談 ・チャピッコホーム：小1～6年の保護者が就労、就学、出産、疾病、障がい、看護や介護により保育が必要な場合 ・病児保育事業：幼児～小3 民間2施設 ・保育コンシェルジュ：利用者支援専門員 ・認定こども園施設整備支援、民間保育園・民間認定こども園地域型保育事業者等運営支援補助 ◆公民館で子育て講座開催 ◆チャピッコホームの条件緩和 ◆保育施設（病後児保育含む）を増やすための民間保育施設への補助制度 ◆ベビシッター利用に助成金 ◆婚活支援（行政による安心な婚活サイト運営・婚活パーティー開催や婚活パーティーの場所の貸し出しなど） 【その他】 ・子育て世代の経済状況の改善 ◆保育士が病児保育できるように資格制度変更	・婚活支援、子育て支援によって、子育てしながら働きやすい環境
ニーズ	地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である					

基本目標：賑わいと活力を創造するまち						
施策の方向性：		企業誘致				
		産業		観光		
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
・岸和田の人は土地を手放したくないので大規模誘致ができない ・上場企業が少ない ・市内企業が認知されていない	企業誘致・起業増加	⇒地域企業の魅力発信	⇒地域企業の魅力発信	【岸和田商工会議所】 ・経営・創業相談、セミナー開催 【Kishi-Biz】 ・起業、売上アップ相談 ⇒事業者相談 ⇒地域企業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり）	・基盤整備・企業誘致：岸之浦町（府）、岸の丘町（市支援）など ・産業集積促進地区における企業立地促進に関する助成、産業集積促進地区における産業支援 ◆都市基盤整備を行い利便性良く ◆誘致企業へに税制優遇（既存事業あり） ◆地域企業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり） ◆事業用地の確保	地域に根付いた、企業・事業者の増加
・後継者不足 ・市内企業が認知されていない ・今岸和田にある会社が地域雇用・新規誘致に結び付いているのか	市内企業の継続・活性化	・今ある企業を大切にすること ・地産地消の意識向上 ⇒地域の商店等を利用 ⇒地域企業の魅力発信	【池田泉州銀行】 ・岸和田合同企業説明会の開催 ⇒地域企業の魅力発信 【大学】 ・大学生と企業のマッチング ⇒地域企業の魅力を大学生をターゲットに発信し、市外・県外へ情報拡散を狙う	【岸和田商工会議所】 ・経営・創業相談、セミナー開催、岸和田合同企業説明会の開催、岸和田・貝塚合同就職面接会の開催 【Kishi-Biz】 ・起業、売上アップ相談 ⇒後継者不足に悩む企業のとりまとめとマッチング ⇒地域企業の魅力発信	・様々な企業の方の話を聞く機会の創出 ・岸和田合同企業説明会の開催 ・岸和田・貝塚合同就職面接会の開催 ◆後継者不足に悩む企業のとりまとめとマッチング ◆地域企業の魅力発信	地域に根付いた、企業・事業者の増加
・後継者不足 ・農林漁業の魅力が認知されていない	農林漁業の新規就労者を増やす取組	・地産地消の意識向上 ⇒地産地消 ⇒地域産業の魅力発信	⇒地域産業の魅力発信	【JAいずみの】 ・農業経営、農作物の栽培、共同選果・共同販売、施肥や農薬の散布など指導・相談、求人情報の発信 【一般財団法人大阪府みどり公社】 ・農地中間管理事業、農業経営相談所 【大阪府稲作着網漁業協同組合】 ・入札制度の導入、地蔵浜みなとマルシェなど ⇒新規就労者支援 ⇒後継者不足に悩む事業者情報のとりまとめとマッチング ⇒地域産業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり）	・農業基盤整備の支援（府・市） ・関係機関と協力し営農・就業支援を実施（準農家制度・青年就農給付金など） ◆新規就労者支援 ◆後継者不足に悩む事業者情報のとりまとめとマッチング ◆地域産業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり）	農業や漁業の仕事しての魅力を発信することにより、新たな担い手を確保
ニーズ	地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である					

基本目標：賑わいと活力を創造するまち						
施策の方向性：		シティセールスの取組				
課題	取組	各主体の関わり				想定される効果
		市民 (「⇒」具体の取組)	事業者・団体等 (「⇒」具体の取組)	中間支援組織 (「⇒」具体の取組)	行政 (「◆」今後必要となる取組)	
まちのイメージが悪い(治安が悪いイメージがある) 地域資源等が市のアピールに活かしきれていない だんじり祭だけのイメージがある まちに活気が見られない	・きれいな街をつくる(イメージアップのために、できることから) ・他地域から持たれているガラの悪いイメージを払拭するには、長期的な取組が必要 ・教育の推進(一人一人の意識改善、正しい判断ができる人を育てるために、教育の推進が必要)	⇒ごみを出さないまちづくり(堆肥の機械設置など) ⇒まちの定期清掃など ⇒植樹・緑化 ⇒定期的な公共施設の清掃・緑化実施	⇒リサイクル教育の推進 ⇒植樹・緑化 ⇒定期的な公共施設の清掃・緑化実施		⇒リサイクル教育(ごみの分別)の推進 ⇒植樹・緑化の促進(樹木に名前をつけることによるボランティア促進、植樹助成など) ⇒地域による公共施設の清掃・緑化の促進 ⇒教育の推進	・まちのイメージを改善し、子育て世代・企業に選んでもらえるまちに
ニーズ	地域資源(人・モノ・取組など)を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である					

これまで議論してきた「アクションカード」と「プレイヤーカード」等が、次期総合計画にどのような施策体系で整理され、基本計画へ反映されるのかを共有した。

[illegible][illegible]

アクションカード・プレイヤーカード

7

【基本目標】岸和田の次世代を育むまち

【基本目標】岸和田の次世代を育むまち

個別目標 ▶ 安心して子どもを生み、育てられている

現状と課題

個別目標

個別目標を取り巻く現状と課題

みんなでめざそう値

達成状況を測る
みんなでめざそう値
(指標)

関連する分野別計画

関連する分野別計画

子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合
25.9% ▶ 30.9%

地域子育て支援センターの利用者数
10,513人 ▶ 11,000人

働きながら子育てができていると感じている市民の割合
17.3% ▶ 22.3%

保育所の入所待機児童数
38人 ▶ 0人

● 岸和田市子ども・子育て支援事業計画
● 第4次岸和田市地域福祉計画・地域福祉活動推進計画
● 岸和田市保健計画アレルギー・障害ききわめ2次計画・岸和田市子育て計画

個別目標の方向性と公民の役割分担

市 民 団 体・事業者 など 行 政

【方向性Ⅰ】妊産婦や乳幼児の健康づくりを進める

【方向性Ⅱ】妊娠を望む家庭や子育て家庭の負担の軽減を進める

個別目標の方向性
公民の役割分担

SDGsとの関連性

9

□主な意見

- ・若い世代の考えをもっと知る必要がある。そこに将来へのアクションのヒントがあるのでないか。
- ・当事者性をどう持ってもらうのか、そのためにどんな方法があるのかなどを考えていくかが大事。
- ・市民、中間支援、行政それぞれの役割は大事だが、取組を知らなかったら活用できないので、情報発信や情報を吸収しようとする意識も大切。
- ・今後も、異なる立場の人同士が相互に理解しながら、自分ならどんなことができるかを話し合えたらいい。

●木藤亮太氏の講演

「みんなでつくる持続可能なまち」を考えるため、地域づくりや協働に関する取組を実践されている木藤亮太氏をお呼びし、「自分たちのまちは自分たちでつくる」をテーマにご講演いただいた。



○宮崎県日南市油津商店街の取組

若者たちを始め地元の人たちが自らのアイデアでどんどんチャレンジしようと思い始めたこと。油津商店街に行けば、やりたいことが実現する。そういうわくわくするような空気感が、商店街再生の大きな原動力になっている。

○取組のポイント

- ・まずは、商店街の一角にあった空き店舗をカフェとして再生し、地域の人が集える場を創出。木藤氏が借金をして開店に取り組みむことで、地域の人々の見る目も変わってくる。
- ・まちづくり会社を立ち上げ、銀行から融資を受けて、官民協働で空き店舗の改修事業に取り組み。民間もリスクを負って取り組みむことで、市民からの出資が集まる。
- ・店舗が改修され、経営者が必要となってくる。30～40代の地元の若者から起業家の卵を探して、支援しながらお店をつくっていく。熱い想いと覚悟(リスク・借金)を持った取組が地域の盛り上がりにつながる。
- ・ずっと人がいるまちにするために、東京のIT企業を誘致。「若者がチャレンジするまち」というブランディングが企業を呼び込み12の企業が立地(東京資本、100人近くが商店街で働いている)。
- ・一番のポイントは、「株式会社油津応援団」を設立し、自走する仕組みをつくっていること。家賃収入や視察の受け入れなどで、年間4～5千万円を売上、人を雇いながら、持続的に取組を展開。
- ・まちの活性化は、「一人ひとりが課題意識をもって考え、動くこと」が継続的に起こり得るまちになることが大事。チャレンジの連鎖、応援の連鎖が起き続けていることで、まちが変わったように見えている。

◇成果と課題

具体的なアクションの議論は深くなるため、より時間が必要であるというご意見のもと、全3回議論した。さらに、主体の議論を加え、協働の視点なども議論し、具体的な取組の精査を行い、基本計画の個別目標やその方向性につながる議論が進められた。

一方、コロナ禍での祭りをきっかけに、地域のコミュニケーションの課題が浮き彫りになった。

第 17 回	2021 年 10 月 書面開催	自分の活動を通して協働について考える 今後の持続可能な地域づくりに必要な対話の場や参加について議論するため、参加者の取組状況などについて確認した。
第 18 回	2021 年 11 月 14 日(日)	協働の仕組みについて整理 参加者の地域での対話の状況や地域で合意形成を図りながら、みんなでまちづくりを進めていくための場や協働の仕組みづくりについて検討した。

●「協働」について議論

地域や団体での対話状況や課題について事例を紹介し、地域でどのような場や対話の仕組みがあればよいか意見交換した。

『地域におけるまちづくり活動』について（事例紹介）

（事例 1）地域のまちづくりを考える場がない。

町会や地区市民協はあるが、議論することができない。

◆ 修斉地区での取組（～修斉地区市民協議会まちづくり専門委員会～）

【目的】修斉地区の魅力や資源を再発見・再認識し、地区の将来像（まちづくり基本構想）をみんなで策定する

【取組内容】構想策定に向けて、勉強会、総会、ワークショップ等を実施

◆ ゆめみヶ丘での取組（～ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会～）

【取組】ゆめみヶ丘岸和田に関わる全ての市民等（土地を所有している方、地区に住まわれている方、商・工の事業を営まれている方、農業を営まれている方、自然地で活動されている方など）の支え合いによる、まちづくり

◆ 光明校区での取組（～光明校区の未来をつくる福祉懇談会～）

【目的】光明校区に暮らす住民の声を聴きながら、わがまちの現状や課題、そして近い将来地域に訪れる変化を予測し、これからのまちづくりに必要な仕組みを考えること

【きっかけ】第4次地域福祉計画・地域福祉活動推進計画の重点プログラム

12

『地域におけるまちづくり活動』について（事例紹介）

（事例２）地域に住んでいる人が、どのようなことに困っているかわからない

◆ 常盤校区での取組（～常盤校区の未来をつくる住民懇談会プロジェクト～）

- ・全世帯へのアンケートを実施
- ・各町の傾向も分析

ex) 上松台西町での取組

「上松台西町地域助け合いふれあいサポート」
高齢者が困っていることをお手伝いするサポート隊を実施（小門さん）

◆ 光明校区での取組（～光明校区の未来をつくる福祉懇談会～）

- ・全世帯へのアンケートを実施
- ・校区内で活動する各種団体へのアンケートを実施

14

【資料】

第18回とことん懇話会でのグループワークまとめ

○Aグループ

どんな場が必要？

- ・現状は井戸端会議を実施しているが、定例で議論する場を持ちたい。ただし、忙しい人も多く、なかなか実現できていない。
 - 若い方は、所得を増やすために、働く必要があり、地域活動に割く時間がない。
 - 子育て世帯で忙しくても納得のいく理由があれば参加する。
 - 高齢者は時間に融通がきく。できる人が取り組む。やっている姿を見せる。(やってもらった経験があれば、次の世代にも助け合い・支えあいの意識がつながる。)
- ・地区でのタウンミーティングの実施や公民館まつりを活用するなど、多様な情報が交わる場（ふれることのできる場）があるとよい。
- ・地域の組織にまずは参加しないと何もできない。

目的を明確化するには？

- ・マンションの管理組合で実施した防災訓練では、はしご車にも来てもらい、たくさんの方に参加いただいた。高層マンションでもあり、防災に対する意識が高いので、参加してもらえる。
 - お子さんが来やすいように、お菓子を配ったことも効果的であった。
 - 取組に参加するきっかけをつくることが大事。
- ・テーマ型組織では後継者・担い手不足が昔から課題となっており、地縁型組織についても同様の課題が顕在化してきている。
 - 組織の取組（課題認識）が実情にあっているか、検証（取組の棚卸）が必要である。

「つながり・支えあい」ってどうやってつくる？

- ・宣伝ができていない（活動の場や内容を知ってもらえていない）ことが課題であり、チラシなどを置いてもらえる場があるとよい。
- ・イベントの実施にあたっては、関係機関との連携が必要。
- ・各主体の足りないものを補う（ジョイントする）仕組みが必要。
 - 中間支援組織の役割が重要。
 - 地域での取り組みを包括する組織が必要。（ボラ連・社協などで、ボランティア組織だけでなく、NPO や一社なども参画できるように会則を変更してきている経緯がある。）
- ・各組織の取組・補助金等の情報を知らないことが課題。情報発信や共有のしくみが必要。
 - ローカルメディアの活用
 - 市の広報紙の活用（市が主催のイベント以外は有料の広告欄での掲載となる）

■どのように行動する？取組をどうやって動かすか？

- ・イベントなどを一過性のものとせず、次につなげていくことが必要。
 - 他の地区での取り組み・他の組織との連携などにつなげる仕組みが必要。
 - 多様な情報にふれることのできる場があるとよい。
- ・まずは、各主体が実施している活動の棚卸が必要である。その上で、各主体の役割の整理を行う必要がある。
- ・各団体の活動をつなぐ組織・包括する組織が必要である。
- ・市民一人ひとりができることに取り組む。
 - できるには3段階（企画する・協力する・参加する）あり、それぞれできることから取り組む。

OBグループ

どんな場が必要？

【現 状】

- ・若い人は、個人の問題を地域で解決するという意識が薄いのではないか
- ・自治会回覧で封入アンケートを行ったが、そこから何か行動しないと意味がない

【参加のきっかけ】

- ・子育ての悩みがきっかけで、近隣住民で同じ課題を共有することが大切だと思った
- ・働いている時は地域活動に慎重であったが、引退後、地域貢献をしたいと考え、小学校の見守り活動に参加

【コミュニティ・活動の場】

- ・まず目的があり、それを達成するために町会・ボランティアといった場を考える必要がある
- ・対面型の会議は重要であるが、zoom の活用など、時代のニーズやメンバー構成に対して見直しの意識が必要
- ・参加しやすい環境で、多世代間でのコミュニケーションの場 → 会議に参加しやすい状況を作るべき（資料の事前共有、時間設定など）
- ・目的先行のテーマ型団体は、目的が明確であり、活動を広げることによって、参加者が集まる

目的を明確化するには？

- ・きっかけの事例）地域内で孤独死があったことが活動のはじまり
→ 校区でとったアンケートを町に照らして再度アンケートを行い、課題を洗い出し、試験運行的に活動をはじめた
- ・世代ごとに課題が違う
→ 目的を細分化し、年代ごとの課題や興味に対応した部会をつくることによって、若い世代の参加促進につなげる。また細分化された部会をつなげたり、他のボランティア団体と連携したり、集合体としてまとめていく役割も必要
- ・地域の困っていることの把握
- ・台風の際、有事の時こそつながりが大切と実感
→ 平常時と有事で議論の仕方が異なることは意識するべき

「つながり・支えあい」ってどうやってつくる？

- ・転入者への町会・自治会情報の周知
→ 事例 「入会のすすめ」を作成し、引っ越ししてきた人にポスティング
- ・町内のお手伝いに時々・少しだけ参加できる仕組みの構築
- ・なんかおもしろそう、意見言いたいという感覚を持ってもらうこと、参加のきっかけづくりをどれだけできるかが重要
- ・参加のきっかけづくり → 目的の細分化による参加ベネフィットの明確化
- ・まずは見学からでもいいので参加してもらい、目的や活動を知ってもらう

〇Cグループ

【地域の課題】

- ・光明地区では、役員のなり手が少なく町会の加入者が減っている
- ・役員は時間が制約される。やりがいがない。自らやりたいと思わない。
- 困りごとを解決するだけがまちづくりじゃない。
- 今の課題だけでなく将来に向けて考えていくもの。
- ・そもそもまちづくりとは？定義、イメージ。
- どんなことでもまちづくりにつながる。（防災・環境……、ハードもソフトも）
- 今あるいいところ、まちの資源・魅力の視点をもちつつ、今ある課題、将来考えられる課題の解決を図る。
- 市民の住みよさを追及するもの。市民の生活力をどう高めるか。
- ボトムアップで市民の意見を吸い上げ活かすことが大事
- ・まちづくりに興味がない、（組織や会議があることを）知らない人が多い（当事者意識が低い）。
- 知ってもらう機会（周知活動）が大事。

どんな場が必要？

【現状】

- ・場がなかったわけではない。志ある人は活動している人もいる
- ・市民の中で分断が起きている
- ・町会ごとに温度差がある。地域にあったやり方が必要。
- ・古くからの町は、従来通り・持ち回りで仕方なく、というのがよく見られる。
- ・若い人はそもそもまちづくりに興味がない、関心がない人が多い

【場づくり】

- ・テーマを決めてまちづくりを進めていく新しい組織（市民・行政・民間を取りまとめる組織）
- ・町会や市民協議会は今までの延長でしか議論できない。困りごとを解決するには有効だが、将来を考えるまちづくりには限界がある。
- ・古くから住んでいる人、よそ者、子どもなど、様々な立場・幅広い年齢の人たちが話せる、意見を伝えられる場。
- ・志が高い方たちだけでは、かえって話にくいこともある。ゆるいつながりでなんでも話せる場

目的を明確化するには？

- ・自分の町で問題になっていることなど、現状を多くの人に知ってもらうことが大事。
- ・まちづくりへの取組を知らない人が多いので知ってもらうための取組をする

「つながり・支えあい」ってどうやってつくる？

■どのように行動する？取組をどうやって動かすか？

- ・学校の授業でまちづくりをカリキュラムに取り入れたら興味を持つのでは？
- ・市民の当事者意識が低いのが課題だが、まちの将来を考えている人がそもそも少ないので、成功事例をやって徐々に市民意識を高めていく方がよい
- ・これからまちをつくっていく世代の人が参加できる・参加したくなるような仕組みづくり
- ・（まちの将来を担う）若い世代にまちづくりに興味をもってもらい、知ってもらう機会（周知）

- ・まちづくりを考えるとこんな特典があるような誘い方？
- ・岸和田出身の有名人に参加してもらうなど
- ・身近な立場で、何かに特化した方（子育てに成功した方、料理研究好き）などに参加してもらうと、お互いの関心も高まるのでは。

ODグループ

どんな場が必要？

【議論に関すること】

- ・市の審議会等への市民委員としての参加では、意見が出しづらい雰囲気がある
- 参加者のレベル感（知識・経験）を合わせる
- ・役員就任が自発的でない人が多い
- ・役員（実際に動く人）に気を遣って本音と言えない
- やる気のある人が集まった会議、本音と言える会議にすること

【組織に関すること】

- ・町という単位でまちづくりを考えることは難しい
- ・町会等は報告事項とだんじりの話題が主で、意見を言い合う場ではない
- ・みんなが集まっている機会を活かしていない（イベント等の運営の話に終始している）
- 校区ごと連合町会ごとに、まちづくりについての分科会等をつくる
- 横、縦のつながりをつくる
- 今の活動を見直し、話し合える場に更新する
- 子ども会の活動をベースとして、市民全体の取組に

目的を明確化するには？

- ・行政からの話題提供

「つながり・支えあい」ってどうやってつくる？

- ・交流会等での意見をちゃんと拾って、場を変えて議論する
- ・今の会を活かす（こども会、高齢者の会など）
- ・日常的な近所づきあいをつくる

【町会の活動】

- ・防災の視点や子どもに関わることなど多くの方が関心を持っているであろうことをアピールし、参加を促す
- ・町会費の使い道等の情報を伝える
- ・町会への加入方法を周知する
- ・転入者に対し、負担にならない範囲で挨拶、町会への勧誘をする

【課題】

- ・個人情報の取り扱い
- ・町会長等は連合町会などのつながりがあり情報も入ってくるが、住民１人１人まではなかなか行き渡らない
- ・町会未加入者に回覧板が回らないので、町会活動が分からない（情報が無いために加入を躊躇っている人もいる）

□主な意見

- ・今後の課題、若い世代にどう関心を持ってもらい参加できるような環境づくりを行えばよい等、今後の活動につながる議論ができた。
- ・まちづくりについて今は特に意識を持っていない市民の方にも、まちづくりを考える輪に入ってもらうには、どう進めたらいいかも考えていきたい。
- ・最初は「子育て」等、自分事として考えられるテーマで集まり、自己中心的な行動・動機が実は地域のためになっている、という流れになればよい。

◇成果と課題

地域のつながりの課題から、持続可能な地域を作っていくためには、「市民がまちづくりに

ついて関心を持ってもらいやすい環境や仕組みをつくること」や、「様々な世代が集まり、もっと緩やかな雰囲気に参加できる場づくりが求められる」という意見があった。また、先進的に進められている地域(光明校区や常盤校区)、kcp などの紹介もあった。市内の先進的な取組を参考に、それぞれの地域で緩いつながりをつくることが今後求められることが分かった。

第 19 回	2021 年 11 月 28 日(日)	アクションとプレイヤーのとりまとめ 将来像の実現のための取組について、これまで議論してきた各主体の役割について、協働の視点から議論、整理した。
第 20 回	2021 年 12 月 12 日(日)	基本計画素案について整理 現在の総合計画の基本計画の考え方の共有などを行い、具体的な行動につなげていくための自分事化に向けての進め方について検討した。

●アクションカード&プレイヤーカードのまとめ

これまでは1つのアクションに対して、市民はなにができるか、事業者や団体はなにができるか、行政はなにができるかという1つのプレイヤーの視点で議論をしてきたが、1つのアクションに対して、市民と事業者が協働すればなにができるか、市民と行政が協働すればなにができるかという協働の視点を踏まえ、「アクションカード」と「プレイヤーカード」を再整理した。

【資料】

- 第 19 回とことん懇話会でのグループワークまとめ(市民の役割等の抽象化)

○岸和田の次世代を育むまち

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(1)安心して子どもを生み、育てられている	妊産婦や乳幼児の健康づくりを進める		・健診を受けない、受けられない人がある	・健診の推進	＜健診をしっかり受ける＞ ・健診をしっかりつける			＜個別訪問など、妊産婦や乳幼児の健康管理を支援する＞ ・保健師などへの相談・訪問
	妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消や精神的負担、経済的負担の軽減を進める	子どもを地域で育てる	・知りたい情報が手に入りにくい ・NPOの活動などを知らない ・親世代に余裕がない ・ボランティアでは続かない（弁当や足代が支給されると良い）	子育てに関する情報発信	＜イベントやSNSを活用して情報を発信する＞ ・土日のイベントなどを利用	＜イベントやSNSを活用して情報を発信する＞ 【NPO団体】 ・SNSを使った情報発信		＜スマホアプリ等を活用した子育てに関する情報発信や情報管理を推進する＞ ・広報紙、ホームページ、スマートフォンアプリ、SNS、報道機関等への情報提供 ・市公式スマホアプリ「きしまる」で予防接種や妊産婦健診のスケジュール管理 ◆情報発信 ◆広報紙、ホームページ、スマートフォンアプリ、SNS、報道機関等への情報提供
				親子の居場所づくり		＜親子で楽しめる場を提供する＞ 【NPO団体】 ・親が笑って過ごせる場づくり ・子ども食堂を活用した交流の場の創出 ＜子育てに関する取組へ協賛する＞ 【企業】 ・取組に対する協賛、SDG s の取組		＜子育て家庭が安心して過ごせる場を提供する＞ ・子ども家庭総合支援拠点（児童虐待予防など）の開設 ・妊娠期から子育て世代を支える子育て世代包括支援センター（母子健康）の開設 ◆地域で集まれる場所の提供 ＜子育て家庭が安心して相談できる場や機会を提供する＞ ◆養育者の身近な相談の場の提供と親支援事業の推進 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進
	子どもを育てやすい環境づくり	・少子化が進行している ・子育て家庭に岸和田市が選ばれていない ・待機児童が発生し、働きやすい環境とはいえない ・幼稚園の定員充足率が低い（待機児童発生と相反）	生活にかかる費用の負担を軽減する				＜保健師など専門職への相談を仲介する＞ 【社会福祉協議会】 ・保健師などへの相談	＜子育て家庭の経済的な支援を行う＞ ・ひとり親家庭への経済的支援 ・子ども医療費助成（中学3年生へ拡充）、児童手当（全国）の助成 ・3歳～5歳保育料無償化（全国） ・就学奨励費、中学への入学準備金の支給
(2)働きながら子育てができている	保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられている環境づくりを進める	働きながら子育てしやすい環境づくり		待機児童対策				＜保育の量の確保を行う＞ ＜放課後児童クラブの量の確保を行う＞
				企業内保育所の充実（預かり支援）		＜子どもを預けられる施設を整備する＞		
		子どもを育てやすい環境づくり	・共働き世帯が増え、子どもと接する時間が減少 ・親と子どものコミュニケーションの時間の確保 ・会社によって育休・産休の取りやすさに差がある ・待機児童等により、兄弟姉妹が別々の保育園に通わなければならない場合、保護者の送迎の負担が大きい ・働いているかに関わらず、保育を必要とする人が子どもを預けやすい、送迎しやすくなるための仕組みや場が必要	働きながら子育てしやすい環境づくり	＜性別に関係なく、育休産休を取りやすい環境をつくる＞ ・育休・産休が気兼ねなく取りやすい環境のサポート ・性別に関係なく取りやすいよう、周囲の理解 ・父親も休みやすい環境づくり ⇒法律、権利等の理解促進	＜従業員が育休産休を取りやすい環境をつくる＞ ・雇用側の努力（気持ちよく休みやすい環境づくり） ⇒上の立場が率先して育休等を取得してPR		＜働き方改革を率先し、職員が働きやすい職場環境を整える（再掲）＞ ◆雇用側の努力（気持ちよく休みやすい環境づくり） ⇒上の立場が率先して育休等を取得してPR
				共働きの悩み相談	＜共働き世帯と交流し、悩みや経験を共有する＞ ・悩み相談・経験談共有など、同じ共働きで不安に感じている立場の人たちと交流（子育てに関して相談できる団体があれば参加する）			＜子育て家庭が安心して相談できる場や機会を提供する（再掲）＞ ・地域子育て支援センターでの相談受付 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進
				保育所へ預けやすい・送迎しやすい環境づくり		＜子どもの保育所等への送迎を支援する＞ ・保育ステーション等（駅などに、一旦子どもを集めて、そこから各保育所へ送迎する）		＜保育の量の確保を行う（再掲）＞ ◆送迎などの支援 ⇒保育ステーション等（駅などに、一旦子どもを集めて、そこから各保育所へ送迎する）
		子育てしながら働きやすい環境づくり	・企業内保育所が少ない、増やす必要がある ・子育てしながら働ける環境がほしい ・子どもを二人以上育てるためには経済的負担がある ・出会いの場、離婚に対する不安 働きやすい環境	・企業内保育所の充実（預かり支援） ・子育ての知見のある方にあずかってもらう、高齢者にも手伝ってもらう ・未就学児と中学生くらいまでの支援の両方が必要 ・小学生以上の子どもを含む子育て世代の悩み相談の窓口 ・子育て世帯のための講座（親としての考え方やしつけなど）	＜地域活動に参加し、子育てや教育について話す場をつくる＞ ・地域活動に参加し、子育て・教育について話す場づくり ＜結婚や離婚について経験を話せる場をつくる＞ ・結婚と同時に離婚もフランクに話せる場づくり ＜子育て経験のある人からサポートを受けられる場づくり＞ ・子育て経験のある人からのサポート	＜子どもの都合での休暇が取りやすい環境をつくる＞ ・休暇が取りやすい環境づくり ＜子どもを預けられる施設を整備する＞ ⇒進学塾（河合塾など）による親サポート ⇒病後児保育のできる施設の設定 ＜顧客向けに婚活を支援する＞ ⇒事業者による顧客を対象とした婚活支援（安心して参加しやすい） ＜遊休不動産などを活用して子育て施設を整備する＞ ・鉄道事業者による高架下活用などによる育児施設（子どもの数がいらないと成り立たない）	＜婚活サイトの運営や婚活パーティーを開催する＞ ⇒婚活サイト運営・婚活パーティー開催	＜子育て家庭が安心して相談できる場や機会を提供する（再掲）＞ ・働く子育て世代専門の相談所・コミュニティの場づくり ・地域子育て支援センター：育児相談、センター開放、子育て講座 ・家庭児童相談：子育てや家庭内の問題について相談 ＜保育の量の確保を行う（再掲）＞ ・チビッコホーム：小1～6年の保護者が就労、就学、出産、疾病、障がい、看護や介護により保育が必要な場合 ・病児保育事業：幼児～小3 民間2施設 ・保育コンシェルジュ：利用者支援専門員 ・認定こども園施設整備支援、民間保育園・民間認定こども園地域型保育事業者等運営支援補助 ＜様々な学習を手軽に行える機会を提供する＞ ◆公民館で子育て講座開催 ＜放課後児童クラブの量の確保を行う（再掲）＞ ◆チビッコホームの条件緩和 ＜保育の量の確保を行う（再掲）＞ ◆保育施設（病後児保育含む）を増やすための民間保育施設への補助制度 ◆ベビシッター利用に助成金 ＜地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）＞ ◆婚活支援（行政による安心な婚活サイト運営・婚活パーティー開催や婚活パーティーの場所の貸し出しなど） ＜子育て家庭の経済的な支援を行う（再掲）＞ 【その他】 ・子育て世代の経済状況の改善 ◆保育士が病児保育できるように資格制度変更

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」「◆」今後必要となる取組）
(3)子どもの健康と安全が保たれている	健診などによる疾病の早期発見・予防など 子どもの健康づくりを進める							<健康診断などにより、疾病などの早期発見と予防を 回り、子ども健康管理を支援する>
	食育や体力づくりなど子どもの健康な身体 づくりを進める							<学校生活において給食を通した食育を推進する> <運動を通した体力向上を推進する>
	登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地 域で過ごせる環境づくりを進める	子どもを地域で育てる	・地域コミュニティの希薄化 ・地域で活動するメンバーの高齢化、人手不足 ・こどもの貧困化 ・子ども食堂がどこでされているのか等、情報が少ない （協力したい時にどうすればいいかわからない） ・世代によって情報の入手の仕方が異なる ・子ども食堂が子どもの食事だけに限らず、子育て 世代、高齢世代など多世代が交流する施設とな れる可能性がある	地域での子どもの見守り	<見守り隊に参加し、地域の子どもたちと交流する> 【地域住民】 ・子どもの顔を覚えて、気にかけて、連絡を取り合う ⇒子どもの安全見守り隊への参加 ⇒見守り隊の方と、地域の子供たちの交流の場の創出 （登下校時の通学路の見守り以外での交流の機会）			<通学路の巡回パトロールなど、学校や登下校時や地 域での安全対策を実施する> ・地域住民との協力のもと、通学路の安全見守りを実施 <児童虐待に関する相談や早期発見・早期対応等の 体制を強化する（再掲）> ◆虐待案件の増加に対応するための人員確保や民生委員・児童委員等、関係機関との連携と継続的な支援 ◆地域が抱える課題を踏まえた見守り協力者との連携 強化や登下校時の巡回パトロールの実施
				子ども食堂	<活動団体へ寄附する> ・活動団体に対して、お金や物資の寄附をする <子どもを通じて多世代交流の機会をつくる> ・子ども食堂を活用した多世代交流による憩いの場、情 報交換の場づくり	<活動情報を広く発信する> 【福祉団体】 ・活動の情報発信 ・受け取る人に合った情報発信（複数の手段で情報発 信） <子どもを通じて多世代交代の機会をつくる> ・子ども食堂を活用した多世代交代による憩いの場、情 報交換の場づくり		<スマホアプリ等を活用した子育てに関する情報発信や 情報管理を推進する（再掲）> ・活動の情報発信 ・受け取る人に合った情報発信（複数の手段で情報発 信）
				子どもの安全確保（治安、通学路の安全確保 等）	<通学路等で子どもたちの登下校を見守る> ⇒地域住民が主体となった通学路の見守り	<見守り隊に参加する> 地域で活動する様々な団体 ⇒見守り活動への参加		<通学路の巡回パトロールなど、学校や登下校時や地 域での安全対策を実施する（再掲）> ・地域住民との協力のもと、通学路の安全見守りを実施 ◆高齢化や人手不足など地域が抱える課題を踏まえた 見守り協力者との連携強化や登下校時の巡回パトロー ルの実施 ・危険な箇所（道路等）の改善
				交通の利便性を良くする				<交通事故を未然に防ぐための必要な施設の整備する （再掲）> ◆渋滞の緩和に向けた取組（通学時間帯の速度制限 等）
		子どもを育てやすい環境づくり	・少子化が進行している ・子育て家庭に岸和田市が選ばれていない ・待機児童が発生し、働きやすい環境とはいえない ・幼稚園の定員充足率が低い（待機児童発生と相 反） ・高齢者が携わることが多いが、何かあったとき助けられ ない可能性 ・町内だけでも「この子は誰の子」などの情報が分かる方が 手助けしやすいと思う ・地域のつながりが希薄化 ・コロナ禍で子育てサロン等が閉鎖されている	子どもの見守り	<散歩や買い物など日常生活の中で子どもたちを見守 る> ・高齢者はセンサー的な役割。 若い人等とは役割分担。誰でもできる。 ⇒何でも自分で解決しないといけないと重荷に感じる必 要はないのでは。旗を持たずとも、散歩等しながら意識 するだけでもよい ・登下校時の散歩等による見守り活動 ・小学校での見守り活動への参加（見守り隊のベスト着 用） ・下校時間に買い物に行くなど、日常生活の中で子ども の見守りができるような工夫をする <子ども食堂の活動を支援する> ・子ども食堂の活動支援	【PTA】 【学校協議会】		<通学路の巡回パトロールなど、学校や登下校時や地 域での安全対策を実施する（再掲）> ・地域住民の協力のもと、通学路の安全見守りを実施 ◆見守り協力者との連携強化や登下校時の巡回パト ロールの実施 ◆夕方の帰宅を促すチャイムなどの工夫（例：阪南市 「地域の方も子どもを見守りまよう」）
				子育て支援	<アルバイトやボランティアとして、保育所や学童を支援 する> 【大学生】 ⇒コロナ禍で地元にいることを利用し、保育所や学童支 援（アルバイト）	<未就学児の親子が集える場所を提供する> ⇒未就学児（とその親）が集える場所の提供	<サポートセンターの役割を強化する> ・サポートセンターの役割強化 <団体間の連携を強化する> ・ふれあいサポート、社会福祉協議会と連携をしている。	<子育て家庭が安心して相談できる場や機会を提供す る（再掲）> ・子ども家庭総合支援拠点（児童虐待予防など）の開 設 ・妊娠前から子育て世代を支える子育て世代包括支援 センター（母子健康）の開設 <保育の量の確保を行う（再掲）> ・保育事業者への運営支援 <放課後児童クラブの量の確保を行う（再掲）> ・放課後児童クラブの増設、定員拡充 ・各市立公民館でのキッズルームの開催 <子育て家庭の経済的な支援を行う（再掲）> ◆医療費助成など財政的支援 <スマホアプリ等を活用した子育てに関する情報発信や 情報管理を推進する（再掲）> ◆情報発信 ◆市政への若い人などの意見の反映 ◆民間施設との協力体制を強化 ◆放課後児童クラブの効果的な事業推進の検討 <市民活動に参加しやすい環境づくりを進める（再 掲）> ◆大学生の地域活動の支援、大学生の協力に対する認 証制度（就職活動等に活かせる証明など）

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(3)子どもの健康と安全が保たれている （再掲）	障害のある子どもの発達支援とともに、家庭生活での負担軽減を進める		・障がい者等の実態がしっかり市民周知されていない					＜総合通園センターなど、障害のある子どもと家庭の支援体制を強化する＞ ・障害のある子どもたちが等しく教育を受けることができる環境の整備 ←現在の取組状況の公開
	児童虐待に関する相談の充実や早期発見・早期対応を進める	子どもを地域で育てる ＜想定される効果＞ ・子どもに「地域の人が見守ってくれている・育ててくれている」という意識の芽生え ・地域の人の活躍の場ができるほか、子どもに対する認識が変わり、距離が近くなる ⇒子どもの変化に気づける距離感をつくる	・児童虐待に関する早期発見	子どもと話す機会の創出	＜見守り隊等を通じて、地域で子どもと話す機会を増やす＞ ・地域でこどもと話す機会を増やす（見守り隊の方とのコミュニケーション等） ⇒子どもの変化に気づく			＜児童虐待に関する相談や早期発見・早期対応等の体制を強化する＞
(4)子どもの個性や能力が豊かに育まれている	適正な就学・就園や経済的な支援により教育の機会を確保する							＜安心して通学・通園できる環境を整える＞ ＜経済的な支援を行う＞
	子ども一人ひとりが輝けるための適切な支援を行う	学力の向上（学力に縛られる必要はない） ＜想定される効果＞ ・いろいろなカッコよさがあることを許容する多様性 ・様々な活動に触れる機会を設けることで、人生の選択肢を増やす ・コロナ禍でこれからも遠隔授業は一定残ると想定されるため、大学生が地域で活躍できる場を提供することで、地域との交流が促進される	・親が教育について考える機会や時間がない ・スポーツの分野でも子どもが活躍できる場が必要 ・学力に課題がある【全国平均より低い（2019）】 ・教育や歴史・文化への関心が低い ・社会教育施設があまり活用されていない ・自習スペースが少ない	・魅力ある学校づくり ・スポーツ・文化などスキルを持った子どもが活躍できるしくみ	＜自発的に勉強したくなる環境づくり＞ ・勉強することがカッコいいという意識の醸成 ・「教えられる」より「学びたい」という方が楽しい ⇒自発的に勉強したくなる環境をつくる（みんなで問題を解きあう環境づくりなど） ＜YouTubeを活用するなど、楽しみながら学習ができる工夫をする＞ ・親が勉強を見る（子どもが楽しめる取組） ⇒YouTubeの動画を一緒に観るなど、楽しみながら学ばせてあげる ＜知識が将来に役立っている事例を見せる＞ ・動機づけをする ⇒勉強・努力をした結果、楽しい将来（やりたい仕事等）につなげている大人を知る機会をつくる	＜空き店舗等を活用し、自習スペースなどを整備する＞ 【事業者】 ⇒空き店舗を活用したフリースペースや自習スペースの整備 ＜プログラミング教育の機会を提供する＞ 【地域の団体】 ⇒プログラミングを無償で教える機会の提供（堺市や和泉市では実施している団体あり） ＜大学生がスポーツや外国文化、勉強法などを子どもに教える機会を提供する＞ 【大学】 ⇒大学のサークル活動でスポーツ等を教える機会の提供 ⇒大学の留学生が英語や外国の文化を教える機会の提供 ・大学生による勉強方法等の講座 ＜小学生と高校生が交流する機会を設ける＞ 【高校】 小学校（小学生）との交流	＜子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な支援を行う＞ ＜子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる（再掲）＞ ◆市内の府立高校や市立産業高校との連携推進（小学生と高校生の交流の場を設ける） ◆知識を育む・能力を磨ける活動のできる機会・場所の提供（小学校の図書館開放、自習やスケートボードの練習のできる場所等） ◆空き家や利用の少ない公共施設を使ったフリースペースや自習スペースの整備 ◆自然豊かな体験ができる場の提供（トンボ池公園・自然館の連携） ＜学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る（再掲）＞ ・連携先の大学の活用 ◆大学との連携を強化 ⇒勉強の仕方を知る、勉強をしてどのようなことにつながるか（大学生になるとこんなことできる）などを知る機会を作る	
	2つの個別目標の方向性とアクションの方向性以下が同じとなっているので、整理。一つにまとめるか要検討。							
	学校園の適正な施設整備や魅力ある運営を行う	学力の向上（学力に縛られる必要はない） ＜想定される効果＞ ・いろいろなカッコよさがあることを許容する多様性 ・様々な活動に触れる機会を設けることで、人生の選択肢を増やす ・コロナ禍でこれからも遠隔授業は一定残ると想定されるため、大学生が地域で活躍できる場を提供することで、地域との交流が促進される	・親が教育について考える機会や時間がない ・スポーツの分野でも子どもが活躍できる場が必要 ・学力に課題がある【全国平均より低い（2019）】 ・教育や歴史・文化への関心が低い ・社会教育施設があまり活用されていない ・自習スペースが少ない ・一学級の人数が多く、先生が子どもを見きれていないのでは？	・魅力ある学校づくり ・スポーツ・文化などスキルを持った子どもが活躍できるしくみ	＜自発的に勉強したくなる環境づくり＞ ・勉強することがカッコいいという意識の醸成 ・「教えられる」より「学びたい」という方が楽しい ⇒自発的に勉強したくなる環境をつくる（みんなで問題を解きあう環境づくりなど） ・親が勉強を見る（子どもが楽しめる取組） ⇒YouTubeの動画を一緒に観るなど、楽しみながら学ばせてあげる ＜知識が将来に役立っている事例を見せる＞ ・動機づけをする ⇒勉強・努力をした結果、楽しい将来（やりたい仕事等）につなげている大人を知る機会をつくる	＜空き店舗等を活用し、自習スペースなどを整備する＞ 【事業者】 ⇒空き店舗を活用したフリースペースや自習スペースの整備 ＜プログラミング教育の機会を提供する＞ 【地域の団体】 ⇒プログラミングを無償で教える機会の提供（堺市や和泉市では実施している団体あり） ＜大学生がスポーツや外国文化、勉強法などを子どもに教える機会を提供する＞ 【大学】 ⇒大学のサークル活動でスポーツ等を教える機会の提供 ⇒大学の留学生が英語や外国の文化を教える機会の提供 ・大学生による勉強方法等の講座 ＜小学生と高校生が交流する機会を設ける＞ 【高校】 小学校（小学生）との交流	＜子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な支援を行う＞ ＜子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる（再掲）＞ ◆市内の府立高校や市立産業高校との連携推進（小学生と高校生の交流の場を設ける） ◆知識を育む・能力を磨ける活動のできる機会・場所の提供（小学校の図書館開放、自習やスケートボードの練習のできる場所等） ◆空き家や利用の少ない公共施設を使ったフリースペースや自習スペースの整備 ◆自然豊かな体験ができる場の提供（トンボ池公園・自然館の連携） ＜子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る（再掲）＞ ・連携先の大学の活用 ◆大学との連携を強化 ⇒勉強の仕方を知る、勉強をしてどのようなことにつながるか（大学生になるとこんなことできる）などを知る機会を作る ＜教育行政を円滑かつ効果的に運営し、活力ある学校づくりを進める＞ ・教育制度の見直し ⇒少子化対策として1学級少人数制など ＜学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る（再掲）＞ ◆大学生の地域活動の支援、大学生の協力に対する認証制度（就職活動等に活かせる証明など）	

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(4)子どもの個性や能力が豊かに育まれている（再掲）	地域と連携し、子どもの社会的な心を育む	子どもを地域で育てる ＜想定される効果＞ ・地域での交流の促進 ・地場産業への理解促進 ・子どもに「地域の人が見守っている・育ててくれている」という意識の芽生え ・地域の人の活躍の場ができるほか、子どもに対する認識が変わり、距離が近くなる ・広域での効率的な取り組み ・弱みの補完・強みの提供	・学校の先生の負担が大きい ・いきなり地域独自の取組を行うことは難しい ・地域では人材や団体に限りがある	地域と学校の連携	＜学校の清掃に参加する＞ 【地域住民】 ⇒学校の清掃	【PTA】 【学校協議会】		＜学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る＞ ◆大学生の地域活動の支援、大学生の協力に対する認証制度（就職活動等に活かせる証明など） ＜子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる＞ ＜児童・生徒の不安や悩みに対する相談や指導の体制を整える＞
				市域を超えた連携	＜近隣市町村の良いところを見習う＞ 日常生活な生活圏（市外）での良いところを見習う	＜地域外の人材を受け入れ、地域外の団体との連携を強化する＞ ⇒地域外の人材の受け入れ ⇒地域外の団体との連携強化		＜市民活動に参加しやすい環境づくりを進める（再掲）＞
		多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり ＜想定される効果＞ ・子どもの心の成長につながる ・子ども食堂を活用して、子育て世代、高齢世代など多世代が交流する施設となれる可能性がある	・子どもの居場所だが、貧困家庭が利用するイメージになっていて利用のハードルとなっている ・海外にルーツがある子の場合、宗教上の制約もある	子ども食堂を活かした社会教育の強化	＜近所であいさつや声掛けをする＞ ⇒地域の人へのあいさつ・声掛け	＜定年後も学習指導などを行う＞ 【教育関係者】 ⇒定年後の教育指導（学習指導など） ・外国人 ＜子ども食堂を活用して多世代交流の機会をつくる＞ ・高齢世代などに関わることで、子どもたちの成長につながる	＜子ども食堂の運営や支援を行う＞ 【社会福祉協議会】 ⇒子ども食堂の導入・運営相談、支援 ・子ども食堂は、市内13か所で運営	＜困ったときに、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを支援する（再掲）＞ ◆社会福祉協議会へ補助金による間接的な支援
	地域を担う人材育成を進める				＜親子で地域活動に参加する＞	＜子どもや若者が参加しやすい地域での取組を企画する＞	＜子どもや若者が参加しやすい地域での取組を企画する＞	＜時代を先取りする高等教育の機会や場、教育内容の充実を図る＞
(5)生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている	様々な学びの活動や知識・経験の活用を進める	子どもを地域で育てる ＜想定される効果＞ ・地域での交流の促進 ・地場産業への理解促進		知識・経験を地域に還元（地域で知識・経験を共有）	＜趣味や特技を活かし、子どもたちと交流する＞ 【地域住民・大学生・農業従事者・有資格者】 ・趣味や特技を生かし、子どもたち・子育て家庭と交流 ⇒リメイク、工芸品づくり（講座/一緒に楽しむ程度の集まり） ⇒スポーツ・音楽 ⇒進路・進学相談（大学生） ⇒農業体験（農業従事者等）	＜地場産業を紹介し、体験型イベントなどを開催する＞ 【地元企業】 ⇒地場産業の紹介、体験等イベントの実施（大規模/小規模）		＜様々な学習を手軽に行える機会を提供する＞ ◆集える場所の提供 ＜多くの市民が学べる環境（場）を整える＞ ◆公共施設等における無料Wi-Fiの整備
	スポーツへの親しみや参画を進めるとともに、スポーツで活躍できる環境づくりを進める							＜スポーツ活動に参加できる機会を提供する＞ ＜安全にスポーツができる環境（場）を整える＞
	芸術や文化への親しみや参画を進めるとともに、芸術・文化で活躍できる環境づくりを進める							＜芸術や文化に触れる機会を提供する＞ ＜芸術や文化に触れる環境（場）を整える＞
(6)誰もが社会参加し、活躍できる場が作られている	働きたい人の就労機会の確保を進める							＜就職困難者の地域での雇用を創出するための支援を行う＞
	市内事業所の労働環境の向上を進める			失敗してもやり直しのできる仕事づくり（チョコレートの方づくりなど）				＜市内事業所の勤労者の福祉対策を支援する＞ ＜市内で働く労働者の権利が守られる環境づくりを支援する＞
	障害者の雇用促進と生きがいづくりを進める							＜障害者の雇用や社会参加の機会や場を充実させる＞
	高齢者の雇用促進と生きがいづくりを進める	多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり ＜想定される効果＞ ・高齢者がいきいきと生活できる	・老人クラブに入りたい人はいるが、引っ張る人がいない ・孫育てのお手伝いなどで高齢者は、忙しい ・シルバー人材センターで仕事を見つけることができていない（年齢制限、スキルや金額が合わない。） ・シルバーの登録者数が右肩下がり ・公的な仕事をシルバーと障害者作業所など取り合い等が発生している ※上記の課題が起こっているのは何故か？ （実体験なのか、確認が必要。）	高齢者が活躍する機会の創出（学校などで子どもに学習支援を行うなど）	＜近所であいさつや声掛けをする＞ ⇒地域の人へのあいさつ・声掛け（中学校ですで行われている） ＜高齢者への支援に関心を持つ＞ ⇒高齢者支援に関心を持つ	＜高齢者が活躍できる仕事やリスキングの仕組みをつくる＞ ・高齢者が活躍できる仕事を増やしていく ・高齢者のリスキング（新たな学び直し）の仕組み ＜高齢者へ就労や地域活動への参加を推進する＞ 【老人クラブ、グランドゴルフチームなど】 ⇒就労や地域活動の推進	＜高齢者の活動を指導する担い手を支援する＞ 【その他】 ・高齢者の引っばっていき担い手生まれる支援	＜高齢者の就労の場を提供する＞ ・老人クラブやシルバー人材センターを通じた就労や地域活動の推進支援 ・生きがいづくりの機会の提供 ◆生きがいづくりのための活動の推進と高齢者への就労の場の提供（民間事業者への周知含む） ＜様々な学習を手軽に行える機会を提供する（再掲）＞ ◆高齢者のリスキングの仕組みの推進 ◆高齢でも働ける仕事の情報発信 ＜障害者の雇用や社会参加の機会や場を充実させる（再掲）＞ ◆障害者優先調達推進法の推進

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(7)郷土への愛着が増している	郷土の歴史や文化に触れる機会をつくる	祭りへの後方支援	・岸和田在住でも触れる機会がない人もいる （友人等のつながりがないと曳くコミュニティに参加しづらい、町の法被を着ている必要がある（町の住民でなくても良い、借りても良い））	・だんじりの技術に関心をもってもらう ・祭りに触れられる機会の創出 ・だんじりの歴史を学ぶ機会の創出 ・伝統工芸の周知	<だんじりを身近に感じられる機会を支援する> ・祭りに興味ある人の案内支援 ・「だんじり」を間近で見、触れる機会の創出支援【例】 ⇒貝塚でだんじりの彫り物をしていた ⇒蛸地蔵駅の北西・三の丸神社（だんじり発祥の地）でだんじり展示、祭りの起源について表示板がある	<だんじりを身近に感じられる機会を支援する> ・「だんじり」を間近で見、触れる機会の創出支援 ⇒だんじり会館の活用 <高齢者が案内人となり、だんじりの歴史や芸術文化を紹介する> ・だんじりの変遷（開始当時は長持に車輪が付いていた程度だった）を知ってもらう ⇒地域のお年寄りが案内人になって紹介（生きがいに） ・（曳行中は）危険であるため、だんじりをゆっくり見学できる機会の提供 ⇒ゆっくり見学することができる時間等の情報提供（なければ） ・荒々しい内容だけでなく、彫り物や歴史などを知ることのできる機会の提供（「だんじり」と「祭り」を同時に見るのではなく、「だんじり」そのものに着目してもらえるような取組を行う） <SNSなどを活用し、幅広い世代にだんじりを広める> ⇒YouTube、SNS等を使い幅広い世代、岸和田市外の人にも知ってもらう		<郷土の歴史や文化に触れることのできる環境をつくる> ◆「だんじり」を間近で見、触れる機会の創出支援 ◆だんじり会館の活用 <観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出、広域観光を推進する（再掲）> <地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）> ・各町の彫り物や気を引くものの発信支援 ⇒だんじりの走っている風景だけでなく、技術等魅力をしっかり伝える ⇒SNSの活用、ふるさと納税における動画制作物などの返礼品の提供
		市民の芸術・文化活動の支援		・芸術や文化活動に触れられる機会の創出	<芸術文化系の展示会に出展したり、参加する> ・芸術や文化活動への出展や参加 ⇒自泉会館で切り絵展の開催をしている			<地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）> ・市民等取組に対する広報活動支援
	岸和田の歴史や文化の保存・活用を進める	今にあった道徳の構築	・地域の祭りだが個人への負担（町会費）が大きい ・まちが汚いことが岸和田市のイメージダウンにつながる ・祭礼団体が清掃を行っているが、祭りの翌日にしているため、まちが汚い状態が翌日まで続いている ・荒々しいイメージ等もあり、曳く人も減っている	祭りへの愛着（きれいな祭りに）	<祭りに参加する側の意識の醸成、マナー向上を図る> ・ゴミへの意識強化 ⇒だんじり終了後、道路などの清掃活動（既に実施中） ⇒ポイ捨てしない	<祭りの主催者がポイ捨てへの注意喚起を図る> ・ゴミへの意識強化 ⇒ボランティア・町会での清掃活動（既に実施中） ⇒祭りをしている人側からゴミ問題などの発信 ⇒ごみ捨て場所の指定（狭い場所で見ると危険） <安全に観覧できる場所を設ける> ・安全に見ることができるようになる ⇒見る場所の設定 <だんじり祭りは神事であると改めて発信する> ・若者等の参加者に対して、神事であることの再認識を促す（荒々しい→楽しいイメージへ！）		<衛生的で清潔なまちをつくる> ◆ポイ捨てしない仕組みづくり ⇒ゴミ箱の増設 <資源の有効活用を徹底し、ごみの減量化を推進する（再掲）>

アクションの方向性がわかりにくい。個別の方向性に対して、中身が弱い。（歴史や文化の保存・活用の取組は祭りだけではなく、もっとあるはず。）
⇒引き続き祭り以外にも取組み関わりを検討

○健康で自分らしく生きられるまち

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(1)健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している	健康意識の向上や疾病予防を進める	健康づくり	・健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い ・健康づくりに関心をもっている人少ない ・特定健診受診率が低い【府平均30.1%に対して、28.3%（2019）】 ・健康寿命が短い【府平均より男性0.5歳、女性0.9歳短い（2015）】 ・高齢化率の上昇 ・市民生活に大きな影響を与えているコロナウイルス対応 ・興味の対象が多様な中、「みんな」による「協働」が難しい ・地域のつながりが強い一方、入れない、疎外感もある、仲間の広がりが出にくいのが悩み ・情報収集が難しい ・取組みが長続きしない	個人の健康づくりの推進	＜ウォーキングや運動など様々な機会を利用し、自己管理を進める＞ ・自己管理を進める（ウォーキング、ハイキング、職場での健康推進活動への参加） ＜かかりつけ医をもつ＞ ・かかりつけ医を決めておく ＜健康診断や予防接種を受け、疾病の早期発見や予防に努める＞ ＜家族や周りの人、専門機関に相談する＞	＜健康増進イベント等を開催、協力する＞ ・健康につながる取組に協力する ・大会の呼び掛けなどする	＜民間の中間支援によるニーズにあった関係づくり＞ ・行政ではやりにくい、できないところをやれるのが中間支援（民間） ・専門家を巻き込む仕組みづくり（どう関係性を作っていくか）※健康づくりだと医師や薬剤師など・・・	＜情報の発信など、健康意識を高め、自主的な健康づくりを支援する＞ ・健康づくりのサポート ◆ウォーキングが楽しくなる場（公園など）づくり ＜国民健康保険制度を適正に運営する（再掲）＞ ◆健康保険の利用状況に応じたインセンティブの導入（府の取組みを活用し、市独自も導入） ＜薬物防止や自殺予防など心の健康管理を支援する＞
				若者と高齢者が一緒にあってできる取り組み	＜地域の健康づくりの取組に参加する＞ ・地域の取組みへの参加 ・どのような取組みがあるか情報収集を行う	＜町会などは、ラジオ体操やごみ拾いなどの取組を組み合わせ、異世代交流の機会をつくる＞ 【町会等】 ・月一で、朝に体操とゴミ拾いをする（グリーン＆ジョイフル） 【各種団体】 ・大会の呼び掛けなど	＜健康づくりを通して、地域でつながれる仕組みをつくる＞ ・若者が発信した時に、高齢者が一緒にやろうという仕組みづくり（相互理解の促進）	＜介護予防の適切な推進を図る＞ ・いきいき100歳体操、かみかみ100歳体操など地域への周知を実施 ＜疾病などの早期発見と予防を推進する＞
				多様性を踏まえた健康づくり	＜健康づくりなどの情報を積極的に収集する＞ ・情報収集（地域どのような人がいて、困っているのかを知る） ・興味がある人同士のクチコミによる情報収集・関係性の構築	＜各種団体の取組み紹介をする＞ ＜定例的な取組を進める＞	＜健康づくりにおける協働＞	＜情報の発信など、健康意識を高め、自主的な健康づくりを支援する（再掲）＞ ◆情報弱者への健康情報などの発信の工夫（新型コロナなど）
(2)医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている	医療体制の充実により、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりを進める	健康づくり	・健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い ・特定健診受診率が低い【府平均30.1%に対して、28.3%（2019）】 ・健康寿命が短い【府平均より男性0.5歳、女性0.9歳短い（2015）】 ・高齢化率の上昇	地域医療の戦略的な推進	＜まずはかかりつけ医に相談する＞ ・まずはかかりつけ医に相談	＜地域の医療機関は、市民病院など高度医療機関と連携する＞ 【地域の医療機関】 ・主幹となる病院との連携を強める		＜二次医療機関（地域の基幹病院）としての市民病院の診療体制を整える＞ ・市民病院は二次医療機関としての役割を遂行（がんや緩和ケアに特化） ＜常に、必要な医療サービスを必要ときに提供できる地域医療の体制を整える＞ ◆保健所と病院の関係の強化 ◆医師会との連携強化 ◆地域医療の構図の整理 ・障害者への歯科診療を実施 ＜社会生活を支える障害福祉サービス等を提供する（再掲）＞ ◆医療的ケア児への支援強化 ＜いざというときに応急処置や救急医療を受けられる体制を整える＞

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(3)多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、安心して生活できる環境が整っている	個々の人権や多様な価値観の尊重意識を広げる	多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり ＜想定される効果＞ ・偏見、異なる言語や文化の壁を解消 ・相互理解が深まる	・宗教に対する配慮も必要 ・地域のつながりが強い一方、入れない、疎外感もある	外国人が地域に溶け込むための取組み	＜地域の人にあいさつや声掛けを行い、関係性を築いていく＞ ⇒地域の人へのあいさつ・声掛け ＜海外にルーツのある人を理解するために、情報収集に努める＞ ⇒新聞などからの情報収集 ＜国際交流のイベントなどに参加する＞	＜子ども食堂やリビング、フリースクールなど、みんなが集える場を作る＞ ・子ども食堂との連携 ⇒みんなが集える場にする （子ども食堂は、地域の居場所であることを広げていく） ・フリースクールとの連携	＜国際交流などを通じたつながりを創出し、相互理解を促進する＞ 【国際親善協会】 ⇒国際交流団体等への参加・支援と連携の推進 ⇒国際交流ボランティア活動 ＜新しい人権などの理解促進のための研修会や啓発活動、相談業務などを実施する＞ 【岸和田市人権協会】 ⇒研修・啓発・相談事業	＜多様な価値観の醸成のための機会を創出するとともに、これまでの人権問題の解決を図るための相談体制を整える＞ ・公民館での日本語学校の実施 ・人権問題に係る相談体制の整備 ◆人権問題に係る相談体制の充実
				LGBTQへの理解促進と環境整備	＜LGBTQへの理解を深める＞ ＜新しい人権問題などに関心を持つように努める＞		＜LGBTQなどの理解促進のための研修会や啓発活動、相談業務などを実施する＞	＜新たな人権問題の解決を図るための検討を進め、共生のまちづくりを推進する＞ ◆新しい人権問題（SNS上の人権侵害、SOGIなど）への対応
	男女共同参画の取組を進める				＜家事や育児、介護など夫婦や家族で分担するなど助けあう＞ ＜DVなどの困りごとがあれば、身近な人や専門機関に相談する＞	＜地域の役員など男女が協力しあい、対等な関係のもとで活動する＞		＜男女が対等に社会参加できる環境をつくる＞ ＜DVの防止とDV被害者の支援を行う＞
	物理的な隔たりがなく、適性に合わせた使いやすい環境をつくる		・公共施設のユニバーサル化 →様々な当事者のことを知る・想像できることが必要 例：2階の学校体育館（ユニバーサルデザインに対応していない）		＜点字ブロックなどの利用者に配慮した行動をとる＞ ＜住宅などを新築する際には、ユニバーサルデザインに配慮する＞	＜店舗などを新築する際には、ユニバーサルデザインに配慮する＞		＜公共施設のユニバーサルデザイン化を推進する＞ ＜ユニバーサルデザイン化を支援する＞
(4)地域で支え合え、助け合える関係が築けている	常日頃から、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを進める	誰もが地域で安心・活躍できるまちづくり（多様性の尊重） ＜想定される効果＞ ・安心して子育てができる ・当事者意識のある主体的に動ける市民が増える	・地域のコミュニティに参加するハードル・デメリットもある（気を遣う・・・など） ・仕事の時間的な制約など現役だと難しい ・ヤングケアラーの実情を知らない ・PTA負担が大きい	子育てなど悩む方の支え合いの場づくり（同世代がつながれるコミュニティ）	＜悩みごとなど、民生委員や専門機関へ相談する＞ ・民生委員さんをはじめとしたつながりを活かして弱音を言える場所づくり ＜近隣との交流を深め、つながりをつくる＞ ・つながりづくりや学習支援 ＜地域の福祉活動に積極的に参加し、地域の取組に触れる＞ ⇒学校と保護者とをつなぐ支援活動（PTAなど）への参加	＜民生委員がつながれる場をつくる＞ ＜各団体の取組を整理する＞ ・PTAのつながりを活かした取組 ・PTA等活動の中身の整理 ⇒本当に必要であるか等、それぞれの各種団体がやっていることが時代に合っているのかを精査することが、今後各団体が存続していくことにつながるのではないか。（活動の棚卸が必要である。） ＜各種専門職を採用し、支援の幅を広げる＞ 【団体】 ・専門職をそれぞれの団体に入れていく	＜子育てをする同世代がつながれる機会をつくる＞ ＜子育ての情報発信を推進する＞ 【地域子育て支援センター、子育て世代包括支援センター（母子健康）】 ・情報共有	＜児童虐待に関する相談や早期発見・早期対応等の体制を強化する（再掲）＞ ・子ども家庭総合支援拠点（児童虐待予防など）の開設 ＜子育て家庭が安心して相談できる場や機会を提供する（再掲）＞ ・妊娠期から子育て世代を支える子育て世代包括支援センターの開設 ◆養育者の身近な相談の場の提供と親支援事業の推進 ◆地域子育て支援センターの相談業務のICT化の推進 ＜葬儀や埋葬が支障なく行われるようにする＞
				ヤングケアラーへの支援	＜ヤングケアラーへの理解を深める＞ ＜近所や専門機関に相談する＞ ・知恵を出しあう機会を作る	＜地域で気軽に集える場を作る＞	＜ヤングケアラーの実態を把握する＞ ＜ヤングケアラーへの支援を推進する＞ 【要保護児童対策地域協議会】 ・ヤングケアラーの概念の構成機関への周知 ・ヤングケアラーの実態把握	＜困ったときに、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを支援する＞ ＜学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る（再掲）＞ ＜家族介護者を支援する（再掲）＞ ・要保護児童対策地域協議会の調整 ◆学校での生活アンケートによる実態把握

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(5)介護や医療保険、障害者支援などの福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心してきている	利用者に適した介護サービスを提供する				＜自分に適した介護サービスの提供を受ける＞ ＜介護技術や介護方法を学ぶ＞ ＜介護保険料を納付する＞	＜サービスの提供を通して、利用者の生きがいがいつくりに貢献する＞	＜家族介護などの支援を進める＞ ＜高齢者やその家族、地域住民からの相談を幅広く受け付け、各種サービスにつなげる＞	＜利用者の状況に適した良質な介護サービスを提供する＞ ＜家族介護者を支援する＞
	医療保険制度を適切に運営する				＜医療保険を適正に利用する＞ ＜ジェネリック医薬品などを活用する＞ ＜国民健康保険料を納付する＞	＜ジェネリック医薬品などを推奨する＞		＜国民健康保険制度を適正に運営する＞ ＜高齢者の医療制度を適正に運営する＞
	高齢者が地域で安心して生活できる環境をつくる	多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり ＜想定される効果＞ ・つながりができる ・高齢者が安心して生活できる ・緩いつながりを作ること、地域の取組みに参加しやすくなる ・子どもの心の成長につながる	・リビング活動が認知されていない ・買い物難民の方がいる ・二人世帯であっても地域との孤立により、支援が必要になってきている（50、80問題） ・地域住民としてなかなか具体にはどうしたらいいのかわからない ・個別の事業所できっかけづくりは難しい ・子どもの居場所だが、貧困家庭が利用する場所のイメージになっていて利用のハードルとなっている。 ・海外にルーツがある子の場合、宗教上の制約もある ・がんの在宅見取りなど終末期に向けた生活の場の問題	買い物に出てきてもらう場づくり（移動販売など）	＜リビング活動等、地域の取組に参加する＞ ・サービスの継続性を確保するため、積極的に利用する	＜地域、事業者と連携し、買い物支援を実施する＞ 【事業者】 ・地域、生協、社協とのサポート活動が行われている	＜地域の高齢者の困りごとへ支援する＞ 【社会福祉協議会】 ・導入支援	＜困ったときに、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを支援する（再掲）＞ ・生協などの協定締結
				独居高齢者などの見守り活動の推進（50、80問題への対応）	＜普段からあいさつし、地域との交流を深める＞ ⇒地域の人へのあいさつ・声掛け ＜地域の見守り活動に参加する＞	＜地域でのつながりを創出・維持する＞ 【老人クラブ、グランドゴルフチームなど】 ・つながり創出	＜専門職間での連携や情報共有を強化する＞ 【自立支援型地域ケア会議】 ・各種団体の連携促進 【地域包括支援センター】 ・情報共有	＜地域での生活を支援する取組を推進する＞ ＜利用者の状況に適した良質な介護サービスを提供する（再掲）＞ ・介護制度の安定運営、多種の専門職との協働による「自立支援型地域ケア会議」の開催による支援体制の構築 ◆地域における情報収集や実態把握の推進、地域福祉を担う法人等との協力体制の強化 ＜在宅生活が困難な高齢者を支援する＞ ＜高齢者が経済的に自立できる環境を整える＞
	障害者が地域で安心して生活できる環境をつくる	多様性の尊重と互いに助け合える関係づくり ＜想定される効果＞ ・つながりができる ・高齢者が安心して生活できる ・緩いつながりを作ること、地域の取組みに参加しやすくなる ・子どもの心の成長につながる	・リビング活動が認知されていない ・買い物難民の方がいる ・二人世帯であっても地域との孤立により、支援が必要になってきている ・地域住民としてなかなか具体にはどうしたらいいのかわからない ・個別の事業所できっかけづくりは難しい ・子どもの居場所だが、貧困家庭が利用する場所のイメージになっていて利用のハードルとなっている。 ・海外にルーツがある子の場合、宗教上の制約もある ・障害者のグループホームへの入居なども含めて、生活の場そのものの問題と支援する問題（生活の場づくり）	障害者・児の連続した、継続的な支援のため、緩いつながりづくり	＜普段からあいさつし、地域との交流を深め、相談しやすい環境をつくる＞ ⇒地域の人へのあいさつ・声掛け ⇒経験者は、育児相談に乗れる	＜障害の有無にかかわらず子どもどうしが交流できる場づくり＞ 【子ども会】 ⇒障害児も子ども会に参加できるようにサポートする ＜各種専門職を採用し、支援の幅を広げる＞ 【団体】 ・専門職をそれぞれの団体に入れていく	＜障害者学級の運営・支援を行う＞ 【岸和田障害者・児関係団体連絡協議会】 ・障害者学級の運営・支援 ＜地域での集まれる場に参加しやすい環境づくり＞ ⇒リビングへの参加促進	＜多様な価値観の醸成のための機会を創出するとともに、これまでの人権問題の解決を図るための相談体制を整える（再掲）＞ ・手話言語条例の制定と手話の理解促進、手話普及の推進 ＜社会生活を支える障害福祉サービス等を提供する＞ ・雇用や社会参加の機会の充実 ＜重い障害によって生じる経済的な負担を軽減する＞ ◆外出や余暇活動等の社会参加の機会を増やすとともに生きがいが感じられるための支援の推進
	健康づくり		・健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い ・特定健診受診率が低い【府平均30.1％に対して、28.3％（2019）】 ・健康寿命が短い【府平均より男性0.5歳、女性0.9歳短い（2015）】 ・高齢化率の上昇	多様性を踏まえた健康づくり	＜地域でどんな人が困りごとを抱えているのか等について情報収集するように努める＞ ・情報収集（地域どのような人がいて、困っているのかを知る）	＜地域で介護者を支援する＞ ＜地域で障害者が自立した生活を送れるようにサポートする＞	＜利用者サービスをつなげる取組を進める＞	＜社会生活を支える障害福祉サービス等を提供する（再掲）＞ ・障害者への歯科診療を実施 ◆医療的ケア児への支援強化 ＜健康意識を高め、自主的な健康づくりを支援する（再掲）＞ ◆情報弱者への健康情報などの発信の工夫（新型コロナなど）
	生活困窮者などに必要な支援を行う				＜人それぞれの事情に応じ、自立した生活をするように努める＞	＜地域で支え合いの活動を推進する＞	＜必要としている人に適切にサービスが提供されるようにつなげる＞	＜生活に困窮する市民が安定した生活を送れるよう経済的支援や自立支援をする＞
	良質な住宅供給を進める		・高齢者の住居問題 ⇒独居でなくなる人もいる、その後オーナーに貸しづらくなる。障害者のグループホームへの入居なども含めて、生活の場そのものの問題と、支援する問題がある。 ・がんの在宅見取りなど、終末期に向けた問題をどうとらえるのかなどは課題になっている。 生活支援体制の話もしている。 ・住居の供給だけではなく、「生活をどう地域で支えていくのか？」という視点がいる。 支援するための拠点をどう作っていくか	・独居高齢者・障がい者等への生活の場づくり	＜建築や開発行為は、法令等を遵守し、周辺の環境に配慮する＞ ＜所有する建物の管理を適正に行う＞	＜建築や開発行為は、法令等を遵守し、地域の環境に配慮する＞ ＜所有する建物の管理を適正に行う＞	＜地域の住宅状況の情報を共有する＞	＜適正な住宅の供給を促進する＞ ＜地域での生活を支援する取組を推進する（再掲）＞
	戦争被害者などが安心して生活できる環境をつくる				＜平和の尊さを子どもたちに伝える＞			＜戦争被害者などの福祉の増進を図る＞

○安全で安心して暮らせるまち

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(1)平和で、事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている	平和への意識向上を進める							＜平和の尊さを学べる機会や場をつくる＞
	交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める	交通安全 ＜想定される効果＞ ・交通事故が減る ・安心、安全に暮らせるまちとなる	・交通事故に対する不安が解消されていない（歩行者や自転車の通行が危険な道がある、交通マナーが悪い） ・ながら運転（スマホ、食事）が危ない ・公共交通が不便な場所は、車がないと生活が困難となる ・高齢者の免許返納 ・交通マナーの悪さから、岸和田市のイメージ低下につながる	・自動車運転手だけではなく、歩行者や自転車も含めた、子どもから大人まで、地域全体の交通マナーの向上 ・地域の交通事情や特性に合った啓発の実施 ・高齢者の免許返納に向けた啓発 ・警察と連携した交通安全活動の実施 ・日常の一部、買い物時や通院時の意識啓発の実施	＜SNS等を活用した情報発信＞ ・SNSを活用した情報発信 ＜家族で免許返納を支援する＞ ・免許返納に向けた、家族のサポートの充実支援、家族から高齢者への意識付け ＜警察と合同で交通安全活動を行う＞ ・警察と合同で交通安全活動、見守りを実施 ＜自転車を放置しない＞ ・放置自転車をしな ＜自転車マナーを守る＞ ・自転車マナー（左側通行など）を守る	＜買い物難民へ配達サービスを実施する＞ ・買い物難民に対する配達サービスの実施	＜交通安全協会などと連携し、交通に関する情報収集とSNSを活用した情報発信を行う＞ ・交通安全協会と連携した情報発信 ・交通に関する情報の収集とSNSを活用した発信 ＜買い物難民とサービス事業者、行政の仲介をする＞ ・買い物難民対策等を実施している事業者と、行政の取組をつないたり、情報を共有する ＜交通マナーを啓発する＞ 【岸和田交通安全協会】 ・自転車マナーの啓発	＜交通マナーやルール、交通安全意識の高揚と対策を図る＞ ・交通安全講習等、啓発する場所の提供 ・SNSを活用した情報発信 ＜地域での生活を支援する取組を推進する（再掲）＞ ・免許返納者に対する買い物タクシーチケットの配布 ＜交通事故を未然に防ぐための必要な施設の整備する＞ ⇒ガードレール、カーブミラー、自転車道レーンなどの整備
	空家を適正に管理するとともに、建築物の安全性を確保する				＜所有している空き家などを確認し、適切に管理する＞		＜行政と連携し、空き家管理などの相談を受け付ける＞	＜空家等の対策とともに、建築指導や開発許可などを行う＞
	安全安心な水を安定的に供給する							＜安全でおいしい水を供給する＞
	防犯意識の向上とともに、犯罪が減少する環境づくりを進める				＜自転車カゴへのひたたり防止ネットの活用や防犯ブザーを持ち歩くなど、防犯意識を高める＞		＜警察などと連携し、防犯意識を啓発するための情報発信を行う＞	＜市民一人ひとりの防犯意識を高め、犯罪の防止に取り組むとともに、地域の自主活動を支援する＞
	安心して、サービスや物の購入など消費行動が行える環境づくりを進める				＜消費者トラブル等に関する正確な情報の収集に努め、適切な買い物をする＞			＜安全な消費生活を送れるよう、相談体制や情報提供を充実する＞

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(2)災害などの非常時への準備が進められ、災害に負けない環境になっている	災害被害を最小限にする強靱な基盤の整備を計画的に進める					＜BCP（事業継続計画）を作成する＞		＜自然災害などに備え、災害に強い社会基盤の整備を進める＞ ＜地震による建物の被害を最小限に抑えるための整備を進める＞ ＜浸水被害を最小限にするための整備を進める＞
		地域・事業者・行政における防災訓練・災害への備え ＜想定される効果＞ ・地域や市民の災害に対する危機意識が高まる ・地域間や市民と市民の連携の強化が進む ・連携が進むことで、事業者や市民、行政などが、防災意識の向上で不足するものを補うことで、防災キャンプ等の新しい取組ができる ・避難所の運営は、市職員をあてにするのではなく、協働で生き抜くための取組につながる ・市民や行政、事業者が連携した復興につながる ・女性の視点を入れてはどうか ⇒子育て世代、障がい者、高齢者など	・危機感がない、継続性がない ・災害時を想定した訓練の機会がない地域もある ・発災時に本当に困ることの想定が難しい（仮設トイレ、停電時、ペット（動物）、インターネット通信障害など） ・自治会加入者のみの防災訓練になっている ・人的ネットワークにつながらない人も多い（自治会未加入者、独居高齢者など） ・海岸部、平野部、山間部など、地形に応じた対策や、地域のコミュニティや活動など地域特性に応じた対策、災害の種類に応じた対策など多岐にわたる ・コロナ禍に対応した備え ・防災に関心がない人に関心を持ってもらうための取組や方法がない ・防災訓練のやり方が分からない ・近隣のコミュニティ間の連携	・自助意識の強化 ・支援防災センター等の活用 ・防災セットの準備・管理強化 ・児童の避難訓練 ・日常からの防災の支え合いに向けた話し合い ・普段の生活や団体での取り組み、関心の高いことを応用した、防災への関心を持つきっかけづくり(防災と言わない防災)。 ・災害時のガイドライン、ルールの作成 災害後の復興も視野に入れたガイドライン、ルールの作成（どう復興していくのか、岸和田市がシミュレーションする必要があるのではないか） ・近隣住民との連絡網の作成 ・子ども、男女、高齢者、障害者など様々な立場の被災時ニーズの違いを把握する ・防災キャンプなど、無理なく無駄なく続けることができる防災企画の立案や参加	＜防災キャンプに参加するなど積極的に防災を学び、理解する＞ ・（住民に寄り添いながら）防災地域への理解 ⇒防災キャンプの実施 ・積極的に防災を学ぶ意識の醸成 ＜防災訓練・キャンプ等に参加するなど、積極的に防災を学び、理解し災害に備える＞ ⇒防災訓練には特定・一部の人の参加になっている ⇒防災の要素（災害時に役立つスキル）が含まれるキャンプを防災にかつようすることで、楽しみながら防災につながる	＜BCP（事業継続計画）を作成する＞ ・BCPの作成 ＜災害時に各企業の技術や専門性を活かせるよう企業間の連携を強化する＞ ・既存の事業者間の関わりを活かした連携強化 ⇒企業と連携した防災キャンプの実施（日常や訓練、災害発生時、市の登録企業や団体との連携したり、プレイヤーカードの提供できるもの（ブルーシート作業できるなど）で、防災キャンプの内容の充実を図る） =企業内で培われた技術や専門性を災害時に活かせるよう登録する	＜多くの事業者や団体に向けて災害時における連携の強化を促す＞ ⇒防災キャンプの実施 ・事業者間の関わりを促す ⇒社会福祉協議会の防災ボランティアネットワーク会議など、できるだけ多くの団体・人が参加できるように連携を強化。 市民・団体・行政の関係性を平時から構築しておく	＜市民や地域の災害対応力を高める＞ ・消防団や水防団などの地域防災力の充実強化 ⇒防災福祉コミュニティ等に対する防災講座や防災意識の啓発の実施 ・企業ができることや提供できることを見える化する ◆一般的に学ぶことができない災害時の注意事項を収集して、積極的に発信する ＜災害被害者の福祉の増進を図る＞
	発災時にみんなが迅速に柔軟に対応できる環境づくりを進める	個人でできる防災訓練・災害への備え ＜想定される効果＞ ・災害に対する危機意識が高まる ・被災した後の復興に向けて、市民が生き延びていける ・行政や事業者と連携した迅速な復興	・危機感がない、継続性がない ・個人・家庭での防災意識の醸成が進まない（防災グッズの準備など） ・自助（自分の命は自分で守る）・共助の意識の醸成が進まない ・啓発資料を作成しても観る人・行動する人が少ない ・防災に関心がない人に関心を持ってもらうための取組や方法がない	・児童の避難訓練 ・家庭で防災を考える機会の創出 ・家族間で、災害時の対策を話し合う（チェックリスト作成） （具体案として、チェックリスト付きのはがきサイズのカードとし、表面：地域のコト、裏面：家族のコト、避難場所・手段・連絡方法等を記載） ・自分で情報を取りに行くための訓練（情報の取捨選択） ・近所との付き合いやネットワークづくり	＜家庭で災害時の避難について相談・準備する＞ ・避難経路や連絡方法などについて具体的に話をする ・防災物品を準備しておく ＜普段から隣近所や地域住民とコミュニケーションをとる＞ ＜防災の知識や経験、取組を地域で共有し広める＞ ⇒個人の知識や経験を地域に広める（住宅関連の仕事の経験から、ブルーシート養生方法を伝える） ⇒個人の取組を地域に知ってもらう（防災頭巾を制作しているため、作成方法の指導や頭巾を提供する） ⇒消防団の経験を活かし、ハザードマップの見方、使い方を説明する ＜避難訓練や防災キャンプへ参加する＞ ⇒避難訓練や防災キャンプへの参加 ・防災カードの作成	＜防災への啓発を行う＞ ・企業が、自社社員に対して啓発活動を行う ＜発災時に、社屋において社員だけでなく市民も避難できるよう、場所を共有し開放する＞ ・企業で行う避難訓練において、社員が避難する場所を共有する ・避難場所が危険な場所もあるので、企業の立地が安全であれば、そこを避難場所として開放する ・企業が実施する防災訓練を地域や市民と一緒に実施する ・マンション等も避難場所として開放する	＜避難行動要支援者など、地域住民の状況を事前に把握する＞ ・地域住民の状況（高齢者の健康状態や介助が必要かなど）を事前に把握しておく	＜市民や地域の災害対応力を高める＞ ・避難時のリュックサックや避難場所情報のウェブサイトへの掲載 ・避難所運営マニュアルのウェブサイトへの掲載 ・防災カードの配布（市役所で自由にとれるように）
		市民自らの行動に結びつく災害情報の集約・提供・共有・発信・拡散 ＜想定される効果＞ ・災害時の優先順位がわかる（各自で判断し行動できる） ・各自が、よい状況を選択、情報を収集できるようになる ・個人や組織同士が、情報共有によって状況認識や行動様式が統一され、全体としての的確な災害対応ができるようになる ・自治会未加入者への情報提供が進み、地域とのつながりが生まれる	・情報を発信するだけではなく、市民との共有や市民の声を受け入れる仕組み・場づくり、体制が必要（気軽に相談できる、情報を得る手法） ・地域活動で役職がない人や町会未加入者は、防災に関する情報を収集する機会が、それ以外の人より少ない ・広報紙を見ない人がいる ・過去の災害情報（全国）を活用できていない ・防災に関心がない人に関心を持ってもらうための取組や方法がない ・海岸部、平野部、山間部など地形に応じた対策や、地域のコミュニティや活動など地域特性に応じた対策、災害の種類に応じた対策など多岐にわたる ・人的ネットワークにつながらない人も多い（自治会未加入者、独居高齢者など） ・インターネットが通信できない場合の対応	・個人、団体、行政が様々な災害情報を提供、発信、共有できる場づくり（災害情報のハブ） ・各年代ごとに適切、的確に情報が届く（届きやすい）発信方法を多様化する（若者向けにYouTube、市内店舗と連携した防災啓発（スーパーの店内放送などのアナウンス）町内放送、市アプリ（しまるJ） ・モノ、カネをかけずにできる（すぐにできる）ことから取り組む ・発災時の災害情報窓口の一本化	＜防災の知識や経験、取組を地域で共有し広める＞ ⇒個人の知識や経験を地域に広める（住宅関連の仕事の経験から、ブルーシート養生方法を伝える） ⇒個人の取組を地域に知ってもらう（防災頭巾を制作しているため、作成方法の指導や頭巾を提供する）	＜災害時にはラジオや貼紙を活用し、情報を発信する＞ ・事業者や団体に属さない人に対する情報発信 ⇒ラヂオきしむで情報発信 ・避難場所を分かりやすく表示をする。マンションや企業等が避難場所となった場合にも、貼紙をするなど、表示する	＜行政や市民、事業者に対する情報のハブ機能を担う＞ ・情報発信のハブ機能（ハブ機能としては、災害の多様化、海岸部と山間部で災害のリスクが異なることから、様々な主体の意見を取りまとめる必要がある） （市役所も困っていることがあれば、それを事業者や市民に対して共有し、不足する情報を集めるなど、連携を促す取組が必要である） ＜地元のマスメディアを活用した情報発信を行う＞ ・テレビ岸和田やラジオ岸和田など、地元のマスメディアを活用した情報発信を行う ・合同防災訓練、防災情報、企業のBCPを地域や事業者、市民と共有するためには、市役所が間に入り、積極的に動く	＜災害が起こったときに迅速に対応できる環境を整える＞ ・公衆無線LAN設備の強化 ・市役所内各部局間の情報共有を強化する ＜市民や地域の災害対応力を高める（再掲）＞ ・ウェブサイトでの情報提供 ・市民への意識の醸成 ◆来庁者への情報提供 ◆情報発信の流れ、順番を決める ◆電柱の活用（津波の高さ記す） ◆市民と情報を共有する（ブリックススペースの設置（危機管理課が、市民と気軽に情報交換したり、市民が相談できたりする窓口にしたい） ◆市役所手続きの待ち時間に防災啓発 ◆自治会未加入者への情報提供を行う ・企業や団体が行う防災対策や成果を幅広く情報収集・発信する ・SNSを活用した情報発信 ・市が率先して、積極的に情報を発信することが重要
	火災予防や火災被害を最小限にとどめる取組を進める							＜防火意識の醸成及び、住宅、事業所、危険物施設の火災発生防止に努める＞ ＜消防行政を円滑に推進するとともに、職員の人材育成により消防活動能力の向上を図る＞

○人と自然が共生した住みよいまち

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組） 市民と事業者・団体を繋ぐ組織 啓発、サポート	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(1)良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている	環境汚染による健康被害の発生を防ぐ		・排気ガスが原因で喘息になる子どももいる ・バス等の便数が減ることですらにバス等の利用者が減少し、結果的にマイカー利用による排気ガスの排出が増える		＜普段から環境に配慮した生活を心掛ける＞ ・生活排水への配慮 ⇒ウーロン茶に油を分解する効果があるので、茶殻で油汚れを落とす ・排気ガスの抑制 ⇒公共交通機関の利用	＜公共交通機関の利用やテレワークの推進で、排気ガスを抑制する＞ ・排気ガスの抑制 ⇒テレワークの推進（車の利用を減らすことで排気ガスを減らす） ⇒社内でのノーマイカーデーの推奨 ⇒公共交通機関による通勤の推奨 ＜環境にやさしい製品を開発する＞ ・環境にやさしい商品の開発 ⇒ハイブリッドカーの開発など	＜環境保全活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者のニーズのマッチング等 ・自然保全系団体の把握	＜環境汚染の状況を把握し、改善指導、啓発を行う＞
	まちの美化を進める	自分の行動が周りの環境にどのような影響を及ぼすか考える ＜想定される効果＞ ・街なかからごみが減る（ポイ捨てが減る） ・イメージが改善する	・まちが汚いイメージ ・共用部にゴミ箱があるから捨てられる ・モラルが低い、当事者意識が低い ・祭りのときは特にひどい ・職場の紙ごみが多い ・ペーパーレス化が進んでいない	・ごみのポイ捨て等のマナーについて広報（声掛けも） ・共用部にゴミ箱を置かない ・ごみを持ち帰る ・一人ひとりの意識改革 ・ポイ捨てを抑制するオモシロ看板の設置（ユーモアのある表現で子どもから募集するなど） ・ワカメプロジェクト ・孤立支援	＜一人ひとりがマナーを守り、また日常生活でごみを減らす工夫をする＞ ＜ごみ拾いの習慣化など、美化意識を向上させる＞ ・一人ひとりがルール、マナーを守る ・小さなことであっても、まずは自分、次に家族、その次に地域…といったように、徐々に波及させていけば、大きな効果を生む ・何かのついでにごみ拾い ・一人ひとりが意識しながら"見られている"ことの意識づけ ⇒WEB明細通知の利用 ⇒行政や民間事業者のゴミ分別の取り組みに参加してみる ⇒オモシロ看板を絵・デザインが得意な人と一緒に作成する ⇒ペットの散歩やウォーキングのついでにごみ拾い（個人でも仲間とでも） ・ゴミ出して安否確認	＜ペーパーレスや脱プラスチックを推進する＞ ・企業内でのペーパーレス化の推進 ・脱プラの推進 ＜ゴミ屋敷とその住人に対する支援をする＞ ・ゴミ屋敷への支援	＜美化活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者のニーズのマッチング等	＜衛生的で清潔なまちをつくる＞ ・きれいなまちづくり条例の設置 ・不法投棄防止のため、府、警察、関係者、市民、ボランティア団体との連携による啓発活動やパトロールの取組強化 ＜広域的視点や時代を先取りした施策を積極的に推進する＞ ◆業務で保管する紙の量を50%削減 ＜汚水を適切に処理するなど、水質汚濁を防止する＞
(2)人が緑と触れ合っている	まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める		・公園の植栽管理 ・手入れが出来ずに庭木を撤去してしまう ・植木の剪定を請け負ってくれる人（シルバー人材センターなど）の知識が低い ・隣人同士の植栽トラブル	・先進事業者とのタイアップ ・「緑の保全×観光」などの取組（市民・団体・事業者・行政が連携して、緑の保全をその他のコンテンツに結び付ける取組）	＜アドプト・ロード・プログラムなど植栽活動に参加する＞ ・アドプト・ロード・プログラムなどに参加する	＜町会・自治会が家庭の植栽剪定を取りまとめる＞ ・自治会で植栽のマネジメント ⇒自治会で自宅庭木の剪定希望者を集い、自治会（団体）で申し込むことで割引 ＜アドプト・ロード・プログラムなど植栽活動に参加する＞ ・アドプト・ロード・プログラムなどに参加する	＜緑化活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者のニーズのマッチング等 ・自然保全系団体の把握	＜市民の緑化意識の向上と地域緑化の推進を図る＞ ◆学校のフェンスやネットを植栽に変更 ＜市民に親しまれる親水空間や公園づくりを推進する（緑道含む）＞ ＜森林を適正に保全・活用する＞
	貴重な自然環境と生物多様性の保全・活用を進める	自然の保全 ＜想定される効果＞ ・観光のコンテンツになったり、転入の要因になったりする ・自然と共存した過ごしやすい場所があると観光にも繋がる ・楽しい体験をすることでリフレッシュ、ストレス解消につながる ・共通の志向の仲間ができる ・保全活動の取組が災害活動にも役立つ（機材の使用方法など）	・子どもが外で遊べる場所が減った ・自然の中で遊べる場所が減った ・自然と触れ合う機会、身近な自然が減った ・まちの景色が変わった ・ボランティアスタッフの高齢化 ・ボランティア活動への参加の敷居が高い ・自然保全活動への企業の取組が減った（コロナもあった）	豊かな自然を守る	＜家族で自然保全活動へ参加する＞ ・環境保全活動への参加 ⇒子どもが体験、遊ぶ ⇒夏休みの自由研究の題材として取り入れる ⇒親子で楽しむ ＜自然を体験できるイベントなどに参加する＞ ・自然を体験する ⇒様々な取組に少しずつ関わる ⇒ボランティアツアーに参加する	＜学生ボランティアを養成し、ボランティアツアーを開催するなど自然保全活動に取り組む＞ 【ボランティア団体】 ・環境保全活動 ・ボランティアツアーの開催 ・学生ボランティアの養成	＜自然保全活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者のニーズのマッチング等 ・自然保全系団体の把握	＜市内にある貴重な自然を保全する＞ ＜水と緑をつなぐネットワークづくりを推進する＞

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組） 市民と事業者・団体を繋ぐ組織 啓発、サポート	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(3)次世代に引き継げる地球環境になっている	ゴミの減量と資源の有効活用など4Rを進める	4R（Refuse、Reduce、Reuse、Recycle）の推進	・ごみの分別への理解 ・事業者の事業ごみへの意識改革 ・収集事業者による分別方法の相違 ・家庭内で分別方法・判断が共通認識されていない ・ごみ処理のプロセスの情報共有ができていない ・最新情報がいき渡っていない（町内会に入っていないと配られない） ・他市とごみ袋の値段が違う ・（ごみ出し）町内会に入っていない人との兼ね合い ・不用品を譲り合えるシステムを活用して再利用に心がけることが必要 ・事業者は地域との連携を求めている	・ゴミの分別、取り組み、意識改革、知ってもら ⇒子どもだけではなく、PTA・町会など大人も一緒に取り組む ・学校による、ごみの焼却場の見学（大人も一緒に） ・ごみ処理のプロセスを知る（リサイクルの出口） ・ごみ処理に係るコストを具体的に数値で提示（コスト意識の醸成） ・ごみの所有者の明記 【リデュースの視点】 ・ごみを出さない生活。原材料による調理。加工品を購入しない。 ・プラスチックは買わない。出さない。 【リサイクルの視点】 ・分別方法の周知（広報誌、SNS、YouTube等のツールを使い分けた、世代に合わせた媒体による周知。文字より絵・動画が有効） ・家庭内での意識づけ→分別シールを配布、家庭内での話し合い 【リユースの視点】 ・不要になったものを必要としている人へ譲る 【リフューズの視点】 ・いらないものを買わない、もらわない	＜家庭や地域でごみの分別や不用品についての知識・情報を共有する＞ ・知識がある、情報を知っている人が、知らない人に教える ⇒ごみの分別方法が市ホームページに載っていることを家族に教える ⇒自治体で行われているコンタクトレンズケースの回収や衣料メーカーでの衣類回収に参加する ⇒コンビニで割りばしやスプーンをもらわない ⇒家庭内での意識啓発 ⇒地域活動時に地域の人に分別方法を呼びかける ⇒不要になった用品を譲り合う（フリマアプリの活用など） ＜エコバッグやマイボトルを利用したり、環境に配慮した製品を購入する＞ ・レジ袋を有効活用する ⇒ゴミ袋として使用する ・マイボトルを持参してペットボトルは買わない ⇒マイボトル持参を習慣づけ ・環境意識の高い企業の商品を買う	＜市民や事業者・団体で環境への課題を共有し、節電などハードルの低い取組から実践する＞ ・市民と学校、地域団体との課題共有・実践 ⇒社員同士で節電を呼びかける ・個人が参加しやすい・取り組みやすい（ハードルの低い）4R事業の展開 ＜過剰包装の廃止やラベルレスの製品を提供する＞ ・過剰な梱包材や容器を減らす ⇒包装・容器を減らすように務める ・ペットボトルのラベルレス ⇒通販やコンビニだけではなく、身近なスーパーでも販売する	・市民団体と企業をマッチング ＜リサイクル活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者の二重のマッチング等	＜資源の有効活用を徹底し、ごみの減量化を推進する＞ ・ゴミの減量化をめざし、ゴミ袋の有料化を実施 ・グリーンセンターでの施設見学受付（団体） ・岸和田・貝塚3Rふれあいフェアの開催 ・子ども服の交換会（クリーンセンター） ・ペットボトルの蓋の回収 ◆事業系ごみの多量排出者への減量化や分別指導 ◆ごみの種類ごとのごみ箱を設置することで、分別の意識付けが行える ◆分別しなければいけなければ損するかなどを数値で示す ◆学校内での分別教育 ◆コスト意識の醸成機会の創出 ＜ごみを適切に処理する＞
	省エネや再生エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める	脱炭素・地球温暖化対策	・環境への負荷の低減 多様な資源をつなげる仕組みがない ・省エネに取り組む市民の割合が低下している【64.9%（2015）→60.9%（2020）】 ・リサイクル率が低下している【14.7%（2015）→12.2%（2019）】 ・脱炭素への対応が求められている	脱炭素を意識し行動する	＜LED電球への付け替えやエアコン使用時間を短縮するなど、普段の生活の中で脱炭素を意識した行動を心掛ける＞ ・節電や省エネを心がける ⇒切れた電球はLED化する ⇒冷蔵庫内を整理する ⇒使用しない家電はコンセントを抜く（待機電力カット） ⇒家庭内でルール化（子ども実践） ⇒省エネ商品を購入する ⇒短い距離なら自転車や徒歩で移動する（交通利便性も確保する） ⇒自宅以外の施設を利用しエアコンの使用を少なくする ・ごみを減らす（二酸化炭素の排出抑制） ※4Rの取組が脱炭素社会の実現につながる	＜脱炭素商品を販売する＞ ・脱炭素商品の開発・販売 ＜LED電球への付け替えやペーパーレスの推進など、環境に配慮する＞ ・会社内で脱炭素の取組を推進 ⇒照明のLED化など節電を進める ⇒社用車を電気自動車に更新 ⇒省エネ製品の導入 ⇒ペーパーレスの推進 ⇒社員同士で節電を呼びかける ・働き方の工夫を推進 ⇒在宅勤務やテレワークを進める ・大学などの学校でもペーパーレスを進める	＜省エネ活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める＞ 【ボランティアセンターなど】 ・ボランティアメンバーなどの人材（担い手）育成、市民と事業者の二重のマッチング等 ・自然保全系団体の把握 ・（長期使用後の）太陽光パネルの廃棄についての検討や、設置基準についての検討が必要ではないか。 ・「詳細については〇〇計画に記載」等の記載の検討が必要ではないか。	＜省エネルギー化や再生エネルギーの推進による地球温暖化対策を推進する＞ ・住宅等における太陽光発電機器等の設置に対する補助 ◆再生可能エネルギーの導入促進 ・空き家や公共施設等のレンタルオフィス化やその支援

○賑わいと活力を創造するまち

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(1)活発な経済活動が行われている	地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める	企業誘致 ＜想定される効果＞ ・地域に根付いた、企業・事業者の増加	・後継者不足 ・市内企業が認知されていない ・今岸和田にある会社が地域雇用・新規誘致に結び付いているのか	市内企業の継続・活性化	＜地域の商店や企業等を利用し、地産地消に努める＞ ・今ある企業を大切にする ・地産地消の意識向上 ⇒地域の商店等を利用 ⇒地域企業の魅力発信	＜地域の企業の魅力を発信する＞ 【池田泉州銀行】 ・岸和田合同企業説明会の開催 ⇒地域企業の魅力発信 ＜地域の企業と学生をマッチングさせる＞ 【大学】 ・大学生と企業のマッチング ⇒地域企業の魅力を大学生をターゲットに発信し、市外・県外へ情報拡散を狙う	＜企業経営を支援する＞ 【岸和田商工会議所】 ・経営・創業相談、セミナー開催、岸和田合同企業説明会の開催、岸和田・貝塚合同就職面接会の開催 【Kishi-Biz】 ・起業、売上アップ相談 ＜地域の企業の魅力を発信し、企業間や学生とのマッチングを支援する＞ ⇒後継者不足に悩む企業のとりまとめとマッチング ⇒地域企業の魅力発信 【商店街組合など】 ・空店舗等の情報とりまとめとマッチング、商店街イベントの実施など	＜既存事業者が、地域のポテンシャルを活かした取組が行える環境を整える＞ ・様々な企業の方の話を聴く機会の創出 ・岸和田合同企業説明会の開催 ・岸和田・貝塚合同就職面接面接会の開催 ◆後継者不足に悩む企業のとりまとめとマッチング ＜地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）＞ ◆地域企業の魅力発信 ＜商業施設の活性化に向けた取組を支援する＞
	新たに市内で創業する事業者や個人事業主が、市内の資源を活用し、活動しやすい環境づくりを進める	企業誘致 ＜想定される効果＞ ・地域に根付いた、企業・事業者の増加	・岸和田の人は土地を手放したくないので大規模誘致ができない ・上場企業が少ない ・市内企業が認知されていない	企業誘致・起業増加	＜地域の企業の魅力を発信する＞ ⇒地域企業の魅力発信	＜地域の企業の魅力を発信する＞ ⇒地域企業の魅力発信	＜企業経営を支援する＞ ＜地域の企業の魅力を発信する＞ 【岸和田商工会議所】 ・経営・創業相談、セミナー開催 【Kishi-Biz】 ・起業、売上アップ相談 ⇒事業者相談 ⇒地域企業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり）	＜企業誘致と創業を支援する＞ ・基盤整備・企業誘致：岸之浦町(府)、岸の丘町(市支援)など ・産業集積促進地区における企業立地促進に関する助成、産業集積促進地区における産業支援 ◆都市基盤整備を行い利便性良く ◆誘致企業へに税制優遇（既存事業あり） ◆事業用地の確保 ＜地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）＞ ◆地域企業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、しくみづくり）
	農業や水産業など、地域で安全な食が生産され、消費される環境づくりを進める	企業誘致 ＜想定される効果＞ ・農業や漁業の仕事をして魅力を発信することにより、新たな担い手を確保	・後継者不足 ・農林漁業の魅力が認知されていない	農林水産業の新規就労者を増やす取組	＜地域の産業の魅力を発信し、地産地消に努める＞ ・地産地消の意識向上 ⇒地産地消 ⇒地域産業の魅力発信	＜地域の産業の魅力を発信する＞ ⇒地域産業の魅力発信 ＜地域資源を活用し製品化を推進する＞ ⇒地域資源を活用した商品開発 ⇒市民への周知 ⇒クラウドファンディングなどの実施	＜農業経営を支援する＞ 【JAいずみの】 ・農業経営、農作物の栽培、共同選果・共同販売、施肥や農業の散布などの指導・相談、求人情報の発信 【（一財）大阪府みどり公社】 ・農地中間管理事業、農業経営相談所 ＜水産業の新たな経営体制の構築と魅力発信＞ 【大阪府鯉巾着網漁業協同組合】 ・入札制度の導入、地蔵浜みなどマルシェなど ⇒新規就労者支援 ⇒後継者不足に悩む事業者情報のとりまとめとマッチング ＜地域の産業の魅力を発信する＞ ⇒地域産業の魅力発信（キャンペーンなど、横断的・効果的発信のしかけ、仕組みづくり）	＜農業生産を維持するための支援を行い、地域で消費できる環境を整える＞ ・農業基盤整備の支援（府・市） ・関係機関と協力し営農・就農支援を実施（淳農家制度・青年就農給付金など） ＜農業者の育成や農地の適正な保全・活用を支援する＞ ◆新規就労者支援 ◆後継者不足に悩む事業者情報のとりまとめとマッチング ＜地域資源の情報発信を効果的に行う（再掲）＞ ◆地域産業の魅力発信（キャンペーンなど横断的・効率の発信のしかけ、仕組みづくり） ＜漁業生産を維持するための支援を行い、地域で消費できる環境を整える＞

体系		アクションとプレイヤーのとりまとめ（懇話会議論のまとめ）						
個別目標	個別目標の方向性	アクションの方向性	課題	取組	各主体の関わり			
					市民 （「⇒」具体の取組）	事業者・団体等 （「⇒」具体の取組）	中間支援組織 （「⇒」具体の取組）	行政 （「◆」今後必要となる取組）
(2)観光資源が活かされている	関西国際空港をはじめとした資源を活用し、国際化を進める	・外国人をターゲットにした観光プランの作成	・外国人が観光地をめぐるには言葉の壁がある ・JR阪和線東岸和田駅に特急が停まらないため、岸和田市に立ち寄ってもらえない	・民泊（日本の暮らしを体験できるような、空き家活用など） ・外国人の観光案内を行うボランティア募集（学生等にとって外国語学習の場にも） ・案内板のビクトグラム表示				<市民の国際性が養われる機会や場を整える>
	観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める	魅力的な観光プランの作成（プロの起用） <想定される効果> ・泉州地域全体で観光魅力を高め、岸和田市にも足を運んでもらう ・関空⇄大阪・京都・神戸の間で1日回遊してもらう ・まず、市民・近隣市の人を楽しめるまちに ・そのなかで磨かれ特化したものができれば、より離れた地域からも来てもらえるようになる	・岸和田市には核となるコンテンツがなく、本市だけでは観光客を見込めない ・岸和田市には観光要素が点在している、移動が不便 ・遠方からの観光客を見込めない ・移動手段の不足 ・観光客にレンタサイクルが活用されていない（かつこよくない・長距離に不向き）	・ターゲットの明確化と、ターゲットに応じたプランづくり ・コアな旅行者の獲得のためのコンテンツづくり（周辺エリアとの連携・旅行会社などプロフェッショナルな事業者の参入、暮らしの便利帳の活用） ・食べ物を中心に民間の活力を利用 ・自転車旅の人気を引き込む ・BMXの推進 ・移動手段の確保(乗合タクシーの導入,レンタサイクルの推進[自転車の種類：電動自転車やクロスバイクなど、運用：いろいろなところで返却できるように])	<SNSやインフルエンサーを活用した情報発信を行う> ・SNSでの発信 ⇒有名ユーチューバーにタグ付け <空き家等を活用し、点在する観光資源を繋ぐ場所をつくる> ⇒点在する観光資源を線にするために、空き家を活用した店舗や立ち寄れる場所づくり（例 地域の人とかかわりあいながら、日本の昭和の暮らし再現など） <地域の催事や観光資源を記したマップをつくる> <だんじり囃子教室を実施する> 【地域住民】 ⇒地域の催事や観光資源のマップ作成 ⇒だんじり囃子教室の実施→太鼓の全国大会参加(だんじり関係者でなくても参加できる)	<だんじりに関わる職人の作業見学や体験学習を実施する> ⇒だんじり祭に関わる職人の作業見学・体験学習（だんじり大工・彫物・法被・提灯）の実施（観光客向けと学校行事） <岸和田の新たな名物をつくる> ⇒農産業・飲食店が名物づくり <自転車を活用した観光を推進する> ⇒BMXの推進（市内外への周知・参加しやすいイベント実施など） ⇒レンタサイクル（コインロッカーの利用特典・ホテルの荷物一時預かり） <観光客向けサービスの充実> ⇒観光時の荷物の一時預かり <新たに効果的な交通手段を導入する> ⇒相乗りタクシー <地域の催事や観光資源を記したマップをつくる> ⇒観光行事マップの作成（市内各地域の催事だんじり、お盆なども含めて開催日・場所・内容を一枚もて見れる地図）	<観光ルートを通して地域の魅力を発信する> 【岸和田市観光振興協会】 ・岸ぶら運営、テーマ別観光コース、岸ぶらがーによる地域魅力の発信 【KIX泉州ツーリズムビューロー】 ・観光ルート等の発信 <インフルエンサーなどにより泉州一体をカテゴリー別にアピールする> ⇒インフルエンサーなどによる泉州一体をPRする定期配信型旅番組（検索にヒットしやすい情報発信） ⇒カテゴリ別（食・歴史・イベント・レジャースポットなど）に抽出し興味を引くようなアピール ⇒レンタサイクル ⇒相乗りタクシー <観光ルートと合わせたレンタサイクルの活用を促進する> ⇒レンタサイクルの活用促進（観光ルートとあわせて貸出場所・特典情報の発信）	<観光客の受け入れ体制を整える> ・エリアマネジメント推進室の設置（周辺エリアとの連携・旅行会社などプロフェッショナルな事業者の参入によるコーディネート） →【KIX泉州ツーリズムビューロー】 ◆Go Toトラベルのような旅行クーポン制度 ⇒レンタサイクルの活用促進（観光マップに貸出場所・特典情報掲載） ⇒コミュニティバスの観光活用 <観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出、広域観光を推進する> ◆観光行事マップの作成（市内各地域の催事だんじり、お盆なども含めて開催日・場所・内容を一枚もて見れる地図）
(3)岸和田の魅力が伝わっている	まちのイメージを向上させる環境づくりを進める	シティセールスの取組 <想定される効果> ・まちのイメージを改善し、子育て世代・企業に選んでもらえるまちに	まちのイメージが悪い（治安が悪いイメージがある） 地域資源等が市のアピールに活かしきれていない だんじり祭だけのイメージがある まちに活気が見られない	・きれいな街をつくる（イメージアップのために、できることから） ・他地域から持たれているガラの悪いイメージを払拭するには、長期的な取組みが必要（一人ひとりの意識改善、正しい判断ができる人を育てる） ・市民の共通の話題となるよう、広報きしわだ等を活用し、岸和田の魅力を伝える ・大学・就職等を機に市外に出ていった若者に、Uターンしてもらうための魅力が必要（トンボ池公園や愛彩ランドなどの人気があり、自然豊かなところを活用）	<まちのイメージアップのためにも定期清掃や緑化活動などによる美しいまちづくりを進める> ⇒ごみを出さないまちづくり（堆肥の機械設置など） ⇒まちの定期清掃など ⇒植樹・緑化 ⇒定期的な公共施設の清掃・緑化実施	<SDG s 教育を推進する> ⇒地域資源を活用したSDG s への取組み ⇒市民への周知活動 ⇒クラウドファンディングなどの実施 <定期清掃や緑化活動に取り組む> ⇒リサイクル教育の推進 ⇒植樹・緑化 ⇒定期的な公共施設の清掃・緑化実施	<学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る（再掲）> ⇒リサイクル教育（ごみの分別）の推進 ⇒植樹・緑化の促進（樹木に名前をつけることによるボランティア促進、植樹助成など） <衛生的で清潔なまちをつくる（再掲）> ⇒地域による公共施設の清掃・緑化の促進 ⇒教育の推進 <地域資源の情報発信を効果的に行う> ・情報発信方法の工夫（広報きしわだ：情報を絞って効果的に発信）	
(4)賑わいや活力の創造を支える基盤が整っている	地域の活性化を導く拠点の整備を進める			・市民の共通の話題となるよう、広報きしわだ等を活用し、岸和田の魅力を伝える ・企業誘致状況などの情報発信				<地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める> <港湾機能の充実を図る> ・基盤整備・企業誘致：岸之浦町(府)、岸の丘町(市支援)など <駅の周りを安全で利便性の高い空間にする> ◆都市基盤整備を行い利便性良く <地域資源の情報発信を効果的に行う> ・情報発信方法の工夫（広報きしわだ：情報を絞って効果的に発信）
	拠点へのアクセス性の向上を進める		・コミュニティバス、不便なことが多い ・コミュニティバスが必要な人がいるが、乗車数が少なく衰退傾向 ⇒現実1時間に1本。誰もものっていない。料金も高い。ルートも不便。タクシーの方がいいという高齢者もいる。悪循環に陥っている。コミュニティバスの有効活用を検討しなければいけない ⇒地域に合った交通手段を考えていく必要がある	・コミュニティバス継続のためのターゲット拡大（観光客が活用する経路もいれる） ・乗合タクシーの導入 ・自転車レーンの整備 ・自転車マナーの向上	<路線バス・コミュニティバス等を積極的に利用する>			<市内幹線道路の整備や市道の適正な管理を推進する> ・自転車レーンの整備 <交通マナーを啓発する> ・自転車マナーの啓発 <広域幹線道路の整備を推進する> <公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進める> <地域性に応じた生活交通の確保を推進する>
	適正な土地利用と景観形成を進める							<計画的で適正な土地利用や都市施設の配置を誘導する> <良好な街並みと景観の形成を推進する>

●基本計画への反映方法を共有②

基本計画の位置づけや役割について再確認するとともに、これまでの議論が基本計画へどのように反映されるのか、前回からブラッシュアップした見開きページのイメージを共有した。また、重点施策や指標の設定方法などについて意見交換した。

【基本目標】 岸和田の次世代を育むまち

個別目標 安心して子どもを生み、育てられている

妊産婦や乳幼児の健康づくり、妊娠を望む家庭や子育て家庭の精神的負担や経済的負担の軽減を進めることで、安心して子どもを生み、育てやすい環境をめざします。

現状と課題

近年、少子化が進行しており、両産期医療や母子保健をとりまく社会情勢は大きく変化しています。また、早産・低出生体重児や高齢出産などハイリスク妊婦・出産の増加が見られます。

さらに、核家族化や都市化等の影響から、家庭の子育て機能や地域社会のつながりは弱まる傾向にあり、子育てに不安を抱きつつも相談する相手が身近になく、子どもを抱えて孤立化する親が増えていきます。

そのため、子育てに関する情報発信や身近に相談できる場所や居場所の提供などをはじめ、安心して子どもを育てるための環境づくりが求められています。

みんなであげよう値

指 標	現状値	めざそう値 (目標値)	関連項目
合計特殊出生率	○ (2018～2022 年)	▶ ○ (2023～2027 年)	—
子育て世代の転出数	○人 (2022 年)	▶ ○人 (2026 年)	—
5歳未満死亡率	○% (2022 年)	▶ ○% (2026 年)	個別目標の方向性①
5歳未満肥満率	○% (2022 年)	▶ ○% (2026 年)	個別目標の方向性①
子育て相談悩み解決件数	○件 (2022 年)	▶ ○件 (2026 年)	個別目標の方向性②

関連する個別計画

- 第4次岸和田市地域福祉計画・地域福祉活動推進計画(2017～2021年)
- 第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画(2020～2024年)
- 第6期岸和田市障害福祉計画・第2期岸和田市障害児福祉計画(2021～2023年)
- 岸和田市保健計画フェルエー・ジグキシル2次計画・岸和田市食育推進計画(2013～2026年)
- 第2次岸和田市情報化推進計画 第2期(2019～2024年度)

関連するSDGs目標(アイコン)

3 健全な生活 4 質の高い教育 5 性別平等

個別目標の方向性 と 想定される公民の役割分担

市 民
事業者・団体など
行 政

【個別目標の方向性①】 妊産婦や乳幼児の健康づくりを進める

- 妊産婦や乳幼児健診など、健診をしっかりと受ける
- 地域住民が子育てのための活動に積極的に取り組む
- 専業主婦は、子育てにやさしい就業環境づくりに取り組む
- 個別訪問など、妊産婦や乳幼児の健康管理を支援する

プレイヤー同士をつなぐ取組例(中間支援組織や公民連携の取組例)

- 保健師など専門職への相談を仲介する

【個別目標の方向性②】 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消や精神的負担、経済的負担の軽減を進める

- 子育てに関するイベントやSNSを活用して情報を発信する
- 子育てに関するイベントやSNSを活用して情報を発信する
- 親子で楽しめる場を提供する
- 子育てに関する取組へ協賛する
- スマートアプリ等を活用した子育てに関する情報発信や情報管理を推進する
- 子育てが安心して過ごせる場を提供する
- 子育てが安心して相談できる場や機会を提供する
- 子育て家庭の経済的な支援を行う

プレイヤー同士をつなぐ取組例(中間支援組織や公民連携の取組例)

- 保健師など専門職への相談を仲介する

用語解説

※ 高度期医療
高度期(妊娠22週から出産前7日未満の期間)とその前後の期間は、母体・胎児・新生児に異常が生じやすく、それらの事態に対応するための産科や新生児科等を統合した医療のこと

現状分析や懇話会、アンケートなどの意見、これまでの成果を踏まえ、課題を記載

懇話会などの意見や、実行計画の記載を踏まえ、公民の役割分担を記載

□主な意見

- ・ みんなでめざそう値について、目標値の考え方を記載する必要がある。
- ・ 個別計画についても、個別の取組と関連計画の紐づけが大事であり、示されるとよい。各項目で資源、課題は今までも話し合っていた事柄でよく理解できる。
- ・ 第3期の戦略計画について、各指標の推移があるが、これまでの評価を踏まえ、継続する取組とブラッシュアップする取組について、検討する必要がある。
- ・ みんなでめざそう値について、指標の立て方がこれでよいのか、実際に誰がどう評価するのか、その整理が必要。客観的な数値目標がはたしてよいのか。数値を単純に出せない事業もあり、それら数値として測れないものについての評価の仕方も検討が必要である。

◇成果と課題

これまで議論した具体的なアクションを協働の視点で、「市民と事業者が協働すればなにができるか」、「市民と行政が協働すればなにができるか」というような議論を深め、協働を踏まえた役割を、共有・整理することができた。

第 21 回	2021 年 12 月 26 日(日)	具体的なアクションの検討について(自分で実践できること) 防災をテーマに、自分で実施できる行動や役割を考え、実践計画を検討した。
第 22 回	2022 年 1 月 16 日(日)	具体的なアクションの検討について(取組の経過発表及び実施による成果・課題について) 個人で実践した行動と結果、振り返りを発表しあい、共有し、自分事化への課題などの意見交換を行った。

●具体的なアクションの検討と実践①

計画を自分事として捉えるため、「防災」をテーマに、自分自身が行動できる具体的な内容を考え実践し、わかった課題や気づきについて共有した。

なまえ 実践したことや取組経過 「気づいたこと」や「今後取り組んでみたいこと」など	小門 晃 さん ①非常用持ち出し品をチェックし、不足品の補充をしました。 ②災害時に集まれるように家族の連絡先と集合場所のメモを準備しました。 ③町会の災害時の避難行動、要支援者の安否確認方法と支援方法を町会に確認し、情報収集しました。 ①携帯電話の容量不足、充電器のチェックを実際にする必要があったと思いました。 ③避難行動要支援者の支援について、自分自身勉強の必要があったと思いました。
安野 眞二 さん ①近くのスーパーに行き、どういものが非常食になるのか、探してみました。 ①防災グッズなどの準備をしていますが、いざとなった時にそれを使えるよう、常に災害に対する意識を持って、生活することが大事であると感じました。	大原 孝道 さん ①災害の備えとして、枕元に私服を準備しました。 ②正月に実家に帰った時に、防災について話をしました。 ③神戸市の震災体験者に話を聞きました。 ②実家の近くには小学校（避難所）があるが、両親はそこまで歩けないと思うので、その対策をとる必要があると感じました。また、常に車のガソリンを満たしておくことや、「きしまる」のダウンロードなども必要と思い、行いました。 ③常時防水性の高いタオルを用意する、避難時の服はコンパクトにまとめ非常用においておくことなどを実践していることがわかりました。 全体：普段から家族などで話をすることが必要だと感じています。
松谷 敬一 さん ①もし何かあった時の集合場所を近くの公民館にしようということ、家族と話しました。妻の足が悪いので、歩けなくなることを想定して、手押し車、杖の購入を検討し、子どもたちとの連絡手段の確認もしました。非常用物品を点検し、電池の確保、水の購入、冷凍食品・お菓子類を追加しました。また、身の回りの整理をし、断捨離などを行い、エンディングノートを書きました。 ②町内会の福祉委員をしており、20名程の高齢者を集め、健康確認や要支援者の現況情報を整理しました。	福本 美代子 さん ①押し入れに入れていた非常食をキャリーバッグに詰め換え、また蓄電池を購入しました。 ②家族の集まる場所を決めておこうと思い、息子と話をしました。 ②一緒にいる時は一緒に逃げ、ばらばらの時は場所を決めるのではなくて、とにかく逃げるということになりました。もう一度話し合っ、カード作成なども行いたいと思います。
上月 正洋 さん ①災害ボランティアネットワーク会議が行われており、デジタル化を進め、発災後のボランティアの募集や支援、災害者との結びつきの方法について検討しています。 ①各種機関等との関係性は出来てきているが、我が事になっているかはまだまだ難しいところです。コロナ禍での悲話の場づくり、関係の強化も含めて新しい仕組みづくりも必要だと思いますし、実際の訓練、また救援活動に使用する物の置き場所など、様々な検討課題がたくさんあると考えています。	
谷口 優衣 さん（桃山学院大学） ①ハザードマップについて考え、兄と話をしました。 ①家族全員がハザードマップについて知り、全員が意識を持つことが大切であると感じました。	

奥村 みほ さん ①家族での話し合い、非常用持ち出し品の一覧と家庭での備蓄品の一覧をできるだけコンパクトにまとめ、自分なりのプランを作成しました。 ①場所によって災害リスクが異なり、避難時の持っていくべきものの選択が難しかったと感じました。非常用持ち出し品や家庭の備蓄品を皆さんで考え、岸和田市民の最善の非常用持ち出し品がわかれば良いなと思いました。	七野 由佳 さん ①家族がどこにいても対応することができるようリスクの把握とシミュレーションをしました。 ②防災グッズの確認をしました。 ③防災カードの確認をしました。 ④子どもが学校にいるときに被災した時の動きについて考えました。 ①地震を意識していたが、ハザードマップで自宅周辺を見ると、洪水にも気をつける必要があることがわかりました。 ②消費期限が過ぎているものもあり、管理できるようにリスト作成の必要があると思いました。 ③避難場所が変わったこともあり、見直しをしました。子どもと離れ離れの状態で被災した時のために、子ども用の読みやすいカードを作りました。子どもが安心できるように親の顔を入れたりしてもいいかなと思いました。 ④子どもが学校で被災した時の学校の対応が知りたいと思いました。
林 由一さん ①自助の行動について、2週間分の食べ物、飲み物、トイレ、ラジオなどが備わっているかの確認をしました。 ②家族2人で、二色浜から自宅まで約10キロ歩いてみました。 ①今後、共助の行動として、防火管理者の資格を持っているので、マンション200世帯での避難訓練などができればと思っています。また、自宅の電気自動車を含め、岸和田市民の電気自動車所有者を確認し、災害時に蓄電池代わりに貸出してくれる人のネットワークづくりが出来ればなと思います。 ②災害時には交通網が麻痺するため、10キロ程度は歩ける体力づくりが必要だと思っています。	朝井 厚子 さん ①どんな人が町内に住んでいるのかを確認したいと思い、アンケートをとりました。 ①年配者が多くなっていることがわかり、また、年配者から、緊急時や救急時に使えるよう、管理組合にカギを預かってほしいといった話ができました。
小関 美喜子 さん ①災害用伝言ダイヤルに「171」を体験してみました。 ②防災カードを作成しました。 ③出かけるときに最低限の防災用品を持参します。 ④「きしまる」をダウンロードしました。 ①災害時の電波状況により、つながらない可能性があることに気づきました。 ②身元不明となり皆さんに迷惑をかけないように衣服に名前などを書いておこうと思いました。 ④アプリを起動するのに時間がかかることがわかりました。	笹部 美千代 さん ①災害時の避難経路を実際に歩いて確認しました。 ②備蓄品の確認をしました。 ①その道中には急な坂があったり、細い道があることに、実際に歩いて気づくことができました。 ②消費期限の過ぎている物が確認できました。家族で、これからは毎年この時期に備蓄品の確認をしようということに決まりました。
沖田 恋騎 さん（桃山学院大学） ①非常食を実際に作り、味の確認をしました。 ①思ったより作るのに時間がかかることがわかりました。また、お湯で作るものであっても、お水でも食べることができることがわかりました。次は友人などと一緒にやってみて、一緒に学べたらと思いました。	丸山 菜々瀬 さん（桃山学院大学） ①実際に避難所まで歩いてみることで、避難場所と時間を決めること、家族の電話番号を控えておくことについて実行しました。 ①避難所まで近いことがわかり、また、災害時の未知の状況を考慮し、避難場所と避難経路をもう1か所確認しておこうと思いました。

◇成果と課題

具体的なアクションを進めていくためには、自分事化することが大切との意見があったため、具体的なアクションのうち、「防災」をテーマに、各自が計画し、実施、振り返るというPDCA サイクルの一連の流れを実践した。防災を題材として自分事として考えるワークについては、とてもよかったという意見が多く見受けられた。

一方、「総合計画」としてつなげていくには、この「わが事」「自分事」にできる人をひとりでも増やすにはどうすればよいかを考えたい」など、本議論の目的でもある、自分事として物事をとらえ、行動するきっかけや仕組みを学ぶ機会となった。

第 23 回	2022 年 1 月 書面開催	基本構想素案、基本計画骨子案、都市計画マスタープラン(全体像・試案)について 基本構想素案、基本計画骨子案、都市計画マスタープラン(全体像・試案)についての意見を照会した。
--------	--------------------	---

●計画案への意見照会

基本構想素案、基本計画骨子案、都市計画マスタープラン試案の検討状況(内容)を示し、それぞれ追記や修正などについての意見を照会した。

【資料】

- 第 23 回書面開催で提出されたご意見と今後の対応について<基本構想素案及び基本計画骨子案、都市計画マスタープラン(全体像・試案)>
- 第 24 回以降に頂いたご意見と今後の対応について<基本構想素案及び基本計画骨子案、都市計画マスタープラン(全体像・試案)>

◇成果と課題

基本構想素案、基本計画骨子案、都市計画マスタープラン試案について、内容の確認を行うとともに、進行管理の視点から、「みんなに知ってもらう」、「理解してもらう」重要性が意見として挙げた。策定過程、策定後の周知活動について、さらなる議論が必要である。

第23回書面開催で提出されたご意見と今後の対応について ＜基本構想素案及び基本計画骨子案、都市計画マスタープラン（全体像・試案）＞					
N	対象	ページ	項目（カテゴリー）	ご意見	今後の対応等
1	1.基本構想	3	冒頭	現市長の総合計画に対する「理念」などが冒頭にあればいいかなと思います。	今後の参考にさせていただきます。
2	1.基本構想	4	基本理念	基本条例の前文にある、「市民が・・・すなわち「市民自治都市」の実現」が・・・基本的な考え方と記載されているが、行政および議会の位置づけも明確にする必要があるのでは。	行政や議会の責務は、地方自治法という法体系の中で、規定されておりますので、総合計画への記載はしておりません。
3	1.基本構想	5	理念	(5ページ)5行目の理念ののっとりに基づく（それが基となって起こる。）	自治基本条例を引用したのになります。なお、使用方法については、「規準・規範として従う」の意であり、別途法律でも用いられていましたので、修正なしでいきたいと思います。
4	1.基本構想	5	計画の根拠	計画という表現が、文章に多く出て来るが、正式に岸和田市総合計画もしくは総合計画に統一したほうが分かりやすい。	（２）①及び②「総合計画」への修正を検討します。
5	1.基本構想	5	計画の根拠	計画の根拠に、（以下総合計画という。）を定めなければならない。」・・・の後にこの「・・・計画」が本計画にあたります。と計画の説明が重複している。	文言の削除を検討します。
6	1.基本構想	6	策定にあたっての考え方	①市民みんなの総合計画 ・「地域経営」とは、・・・さらに、今後進んでいく少子高齢化社会では、市民自らが将来の地域の担い手として、これまで以上に重要な役割を担うことが想定されるため、・・・と記載されているが、重要な役割とは何か。	人口減少、高齢者社会の中、持続可能な地域を作っていくためには、まちを構成している市民一人ひとりが力を発揮し、また協力しあい、行政などが連携していくが必要になると考えられます。
7	1.基本構想	6	策定にあたっての考え方	②行政経営とは何か。あまりなじみがない言葉。また、行政経営との関係を明確にするため、市長のローカル・マニフェストを明確にすることが必要。	2000年頃に注目されたNPMの公共経営の考え方をもとに、「市役所が自らもつ経営資源を最大限に活かして、市民や地域に成果をもたらすための活動・営みのこと」を言います。
8	1.基本構想	7	策定にあたっての考え方	（7ページ4）AI(人工知能)全て同じ表示の方が解りやすい。 ロボティクス(RPA)単なる表示ですが少し気になりました。	AI（人工知能）の同じ表示に修正します。 「RPA（事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術）」への修正を検討します。
9	1.基本構想	7	策定にあたっての考え方	ロボティクス（RPA）の表現が気になりました	「RPA（事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術）」への修正を検討します。
10	1.基本構想	7	策定にあたっての考え方	④技術革新がもたらす社会と技術の活用 ・ロボティクスの説明追加	「RPA（事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術）」への修正を検討します。
11	1.基本構想	7	策定にあたっての考え方	⑤脱炭素社会の実現の追加 市民生活の根幹、行政運営の重要な柱であることから、考え方に追加すべき。	③のSDGsの中にも含まれるとともに、P19 社会状況の変化に、特だして「（３）地球環境問題への対応」を記載するとともに、基本目標「人と自然が共生した住みよいまち」に（３）環境の負荷を減らした循環型共生型の地域社会が作られているを記載しています。
12	1.基本構想	7	策定にあたっての考え方	AIやRPAの活用において、将来像はどう描いているか	RPAは、行政の業務効率に資するツールであり、AIは、行政の業務に限らず、市民生活において活用される技術であると考えています。あくまで、人の生活を豊かにするための技術であるという認識です。
13	1.基本構想	9	みんなでめざそう値	⑨みんなでめざそう値は何を基準にして定めているのか気になりました。	個別目標をもとに、ロジックモデルを作成し、「個別目標の方向性の達成状況を把握するための指標」として設定しています。成果（アウトカム）を示す指標がかなわない場合は、結果（アウトプット）を示す指標も活用しています。
14	1.基本構想	9	計画の期間	（２）計画の期間 ・基本構想と基本計画が別物のように読める。「基本計画は、基本構想を実現するために策定され、4年毎に見直される。基本構想は12年毎に見直しする。」とシンプルな表現にしてはどうか。	「基本構想は12年毎に見直し、基本計画は基本構想を実現するために策定され、4年毎に見直しを行います。」への修正を検討します。
15	1.基本構想	9	PDCAサイクルによる進行管理	（１）PDCAサイクルによる進行管理 ・最後の「そこで、PDCAサイクルを補完する考え方として、迅速性・柔軟性を持ち合わせたフレームワークを活用・・・」は、意味不明。記載する必要性も分からない。 （２）の進行管理は、（１）に包含されると考える。PDCAを廻す際に、各組織の活動状況を把握することは当然しなければならない。	後段は、OODAというフレームワークのことを指しています。PDCAを補完する機能としてOODAループ（観察→方向づけ→決定→行動の繰り返し）の考え方も必要と考えられます。なお、（２）については、ご意見のとおり、（１）を包含するものとして、その視点を記載しています。
16	1.基本構想	10	進行管理	PDCA説明が、欲しいです。	図を入れるなど分かりやすい説明を検討します。
17	1.基本構想	10	進行管理	PDCAについて誰でも解る言葉で伝えられたいと思います。	図を入れるなど分かりやすい説明を検討します。
18	1.基本構想	11	位置	電車ですが、高速道路の表示も有ればいいかなぁと感じました。	今後の参考にさせていただきます。
19	1.基本構想	11	位置	・本ページは必要か。市民であればだれでも知っている。 ・文章のデータは正確か？大阪都心から約20km？、大阪市内まで車で約30分？、関空まで15分？。すべて数値が過少なように思います。	本市の位置的特徴を把握する上で必要な情報と考えています。岸和田市役所から直線距離として、大阪都心部として、難波駅まで25km、天王寺駅まで24kmであるため、約25kmに修正します。その他は、実測と変わりありませんでした。
20	1.基本構想	13	地形の構造からみた特性	地形の特徴 広ぼうが東西約10.4kmとありますが、間違いはないですか？間違いないとすれば南北17.0kmはどうですか？	はい。確認しております。広ぼうは、市の各極端（東端、西端、南端、北端）における緯線、経線間の垂直水平距離のことです。
21	1.基本構想	13	地形の構造からみた特性	図がとても分かりやすくてよかったです。	はい。ありがとうございます。わかりやすい図表の掲載に努めます。

22	1.基本構想	14	位置	以前東岸和田周辺の方が葛城の谷に対してご意見を言われていたと思います。私は５０年前の中学校区区域別参考かなぁと思って聞いていました。塔原と牛滝は阪和道よりも山手では、岸和田カントリーゴルフ場に抜ける道が有るので一つのコミュニティーでもいいかなぁと思っていました。葛城山で双方の道が、繋がっています。今更遅いけれどです。	これまでのコミュニティの形を保持した考え方です。
23	1.基本構想	15	将来人口の方向性	転出理由の「治安」とは具体的にはどのような事象のことか	アンケートで「治安」という文字のみで選択肢を選んでいただいています。詐欺、窃盗、傷害、恐喝などの事象が想定されます。
24	1.基本構想	16	人口の動向からみた特性	岸和田から転出した理由――が下のグラフとずれている為、解りづらい。()の部分を下へ回して二重にラインを合わせた	分かりやすいように図の修正をします。
25	1.基本構想	6	趣旨と考え方	16行目“よりどころ”言葉が甘いと思います。“重要な指針”とかでない	「みちしるべ」への修正を検討します。
26	1.基本構想	17	人口減少や超高齢社会への対応	(17ページ)ダウンサイジングも()で機能を変えないままの縮小と入れたら誰でも解り易いと思う。	「機能を満たした規模縮小などのダウンサイジング」への修正を検討します。
27	1.基本構想	17	社会状況の変化	「へへの対応」として岸和田市が先駆けている政策があれば教えてほしい	ここでの記載は、社会の変化により今後求められる対応を記載しています。この内容も踏まえ、総合計画の将来像、基本目標の実現に向けて、各主体が取り組んでいかなければなりません。
28	1.基本構想	20	危機への備え	危機への備え、(安全安心の確保)に記載している文言に加えて「自然災害に対する危機管理や情報共有が重要となります。」といった言葉はどうでしょうか。あまりにも文章が短いのが気になります。	「自然災害に対する危機管理体制や情報共有、地域で助け合える仕組みなど」への修正を検討します。
29	1.基本構想	21	革新的技術への対応と活用	「起スマート社会」の実現するために本市においてそれらの技術を効果的にどのように活用していくのかを市民と一緒に何をするのかできるのかも少し具体的な表現で計画していけるのかという文面が必要と思います。アバウトすぎます。革新的技術の活用とはどういう意味なのかもう少し分かりやすく説明してほしい。	「人の活動の制限が取り除かれ、人の生活を豊かにするような革新的技術の活用」への修正を検討します。
30	1.基本構想	24	将来像	かこみの冒頭に“人口減少・超高齢化時代”とあります。これは現象の問題であって、根本は生まれてくる子どもが少ないこと、少子化が問題なのです。それが抜け落ちている。17ページの下グラフを見てください。生まれてくる子どもの数が減ってくれば当然老年人口の比率が上がってくるでしょう。今働きざかりの人でも10年、20年たてば老年人口に入るので	「少子化による人口減少・超高齢化時代」に修正します。
31	1.基本構想	25	将来像	工業追加は如何ですか？山手地区では織物工業、レンズ工場、煉瓦等が有りました。九州地区から中学校卒業し織物工場に働きに来て、夜間高校に通った人達が歴史から消えつつありますよ。家内工場でも織物されていました。久米田地区では野上工場の後に生協と女子寮跡にマクドナルド。下松のオークワのあの地域には、１社の織物工場が有りました。岸和田には至る所にそこそこの規模の織物工場が、今の岸和田人口をの基盤かも知れないと思います。書類いろいろ、私には難しいけれど。	追加を検討します。
32	1.基本構想	27	基本目標と３つの視点	ICT技術、否定はしません。ただ、岸和田を強くする“視点”のひとつにするのは疑問があります。岸和田を強くするのは市民の営みだと思います。ICT技術は結局は人の営みだと思	生活のあらゆる場面において、ICT技術の活用により、「人の活動の制限が取り除かれる」ことをめざすものになります。
33	1.基本構想	29	３つの視点、展開イメージ	(29ページ)「ICT技術を活用するためのリカレント教育の推進」リカレント教育はICTのみならず、多世代の人々が学びたいと思った時に学ぶことが出来るしくみではないでしょうか。ICT技術だけではないと思います。ここでは先端技術とあるので仕方ないですね。個別目標の(5)生涯にわたる能力づくりが進められ活かされている―誰もが学ぶ機会を生涯にわたり得ることが出来、その能力を活かすことが可能となる。	ご意見のとおりリカレント教育はICT技術だけではなくありません。「岸和田を強くする３つの視点」の中の「先端技術の活用」という視点で記載していますので、「新しい資格や必要なスキルを学ぶ機会の創出」への修正を検討します。
34	1.基本構想	29	個別目標	個別目標（５）「生涯にわたる能力づくりが進められ活かされている」を「誰もが学ぶ機会を生涯にわたり得ることが出来、その能力を活かすことが可能となる。」に。	生涯学習、スポーツ、芸術文化などを通した能力づくりを表現したため、「生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている」とします。
35	1.基本構想	30	将来人口の方向性	将来人口の方向性について、令和16年166千人推計値の説明と図表にある令和4年200千人の参考表示が理解の邪魔になる	人口ビジョンをそのまま引用していました。わかりやすい図に変更したいと思います。
36	1.基本構想	30	将来人口の方向性	本市の将来人口の方向性が最も気になる点だが、令和16年166千人推計値の説明を図表にある令和4年200千人の参考表示が理解の邪魔になる。「令和82年以降は増加になる」も理解できない。	記載の将来人口推計では、出生率を国のビジョンをもとに2.33と設定して推計しています。この時期に、高齢者の人口とその生存率から得る数値と出生数とが逆転することになるため、増加へ転じると記載しています。出生率の想定が変われば、増加へ転じる時期も変わることになります。

37	1.基本構想	30	将来人口の方向性	図表の作成年月日が欲しいこと、最新の数値に基づいて作成のこと。	図表にあるデータの年月日を記載します。なお、令和２年度の国勢調査の結果は公表されましたが、国勢調査結果に基づく「将来人口推計」が国立社会保障・人口問題研究所から発表され次第、反映していきたいと考えています。
38	1.基本構想	30	将来人口の方向性	人口減少のスピードを緩やかにするのは子育て世代の転出入の均衡を図ることだけではありません。大きな問題はいかに出生数を向上させるかではないか。	当然、出生数の増加や出生率の増加などの様々な考え方がある中で、本市の現状を見たとき課題なのが、子育て世代の転出超過なので、転出抑制を視点とした子育て支援を充実させることが必要と考えます。ただし、結果的に出生率の向上にも寄与すると考えられます。
39	1.基本構想	35	拠点	地域拠点と生活拠点を説明していただいてますが、その違いがよく分からないように思いますが、市民の方々が分かるのでしょうか。	表現を再考いたします。
40	1.基本構想	11～21	岸和田市の特性	・ ページ番号11～21 ・ データ的なページであり、資料編に移動してはどうか。	将来像の検討に至る背景情報として必要であると考えます。
41	1.基本構想	30～35	将来人口と都市構造	ページ番号30～35 ・ データ的なページであり、資料編に移動してはどうか。	将来人口や都市構造部分であり、本市の将来像を共有する上で重要と考えています。
42	1.基本構想		全般	「入りを図って出を制す」市の状況を知ることが一番。市の有する財産を動産と不動産に分けて、考えることが必要。	行政では、毎年財政計画を作成し、今後５年間の歳入予測、歳出予測を行っています。懇話会の第2回でシミュレーション岸和田2035を通して、また、第13回で将来人口の考え方と財政的現状や取組について、共有を行ってきました。一方、経常収支比率が100を超える状況があり、平成31年からの行財政再建プランでは、全事業の総点検を実施しています。その結果、現在、R2で経常収支比率は、98.5%となっています。
43	2.基本計画		みんなでめざそう値	「みんなでめざそう値」は市民が理解出来、活動出来るものが良いと思う。	みんなでめざそう値については、「成果」を表すもの、「結果」を表すものを設定しています。他市との比較ができるかなども含め、検討しています。
44	2.基本計画	3	みんなでめざそう値	「みんなでめざそう値」のうち、「子育て相談悩み解決につながった件数」は「子育て相談悩み件数のうち、解決につながった件数」にしてはどうか。	「子育て相談悩み件数のうち、解決につながった件数」の把握が困難と想定されるため、「地域子育て支援センターの利用者数」への修正を検討します。
45	2.基本計画	4	個別	骨子案では、現在、本市が取り組んでいる政策(例えば、乳幼児から中高生までに対する医療費の免除)及び働きながらの子育てに対しては、今後、どのようなことに取り組んでいきたい。などが冒頭にあればいいように思う。	具体的な取組は、基本的には実施計画への記載を検討します。
46	2.基本計画	5	みんなでめざそう値	う歯⇒虫歯でよいのでは・・・	個別計画との整合性も考慮しながら、「う歯（一般的にはむし歯）」など、表現を検討します。
47	2.基本計画	5	子ども食堂	子ども食堂などで食育を推進すると記載されていますが、推進という言葉が適切なのか疑問です。子ども食堂と聞くと私はきちんと食事をとれてない子ども達への支援のひとつとしてそのような活動を行っているように思います。本来は家庭で行う食育を子ども食堂により補われているのではと思います。	食育は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることです。子ども食堂は「食を通したつながり」を生む場所であり、「子どもにとっての貴重な共食の機会の確保」、「地域コミュニティの中での子どもの居場所を提供」する意義があります。また農林水産省においても、「子ども食堂と連携した地域における食育の推進」が謳われています。
48	2.基本計画	5	みんなでめざそう値	みんなでめざそう値、「子ども100当番協力者数」に「登下校の見守りの人数」を追加	「登下校時の見守り協力者数」の追加を検討します。
49	2.基本計画	5	行政の役割	公民の役割「行政欄」真ん中あたりに、「通学路の巡回パトロールなど、学校や登下校時や地域での安全対策を実施する」と記載されているが、安全対策の中身は何。	現在は、青色防犯パトロールを年間200回実施。巡回ルートも状況に応じて変更するなどの対応を実施しています。
50	2.基本計画	7	みんなでめざそう値	みんなでめざそう値の下から2つ目、「人の気持ちがわかる人間になりたい児童・生徒の割合」はどのようにしてデータを収集する。	小中学校で実施されている全国学力・学習状況調査の質問紙の問いを活用しています。
51	2.基本計画	7	みんなでめざそう値	「人の気持ちがわかる人間になりたい児童・生徒の割合」はどのようにして図るのか。	小中学校で実施されている全国学力・学習状況調査の質問紙の問いを活用しています。
52	2.基本計画	7	みんなでめざそう値	みんなでめざそう値の真ん中あたりに、校内事故件数とあるが、現状と課題や個別目標の方向性からは想定できないが。	学校園の適正な施設整備により、「施設に起因する事故」を想定して設定しています。
53	2.基本計画	7	みんなでめざそう値	学力調査の平均点を利用しているが、「平均点」で判断する価値観が時代にあっているか考えてもいいのではないか。	本市においては正答率40%以下の児童生徒の割合が高い状況です。このことから、コグニティブトレーニングや学習支援による児童個々の苦手を克服する取組を行っています。
54	2.基本計画	9	みんなでめざそう値	シルバー人材センター就業率、高齢者の就業率⇒分ける必要性、60歳以上・・・65歳以上を分けて果たして、データーとしての率が出るのかどうか。データーとして、出る場合はよいが、出ないのなら、人材センターだけでもよいと思います。	「シルバー人材センター就業率」のみの設定とします。
55	2.基本計画	9	事業者・団体・地域など	「リスキリング」という言葉を「新しい資格や必要なスキルを学ぶ」機会をつくるにではどうでしょうか。誰もが分かりやすい言葉を使うこともひとつではと思います。	「新しい資格や必要なスキルを学ぶ機会をつくる」への修正を検討します。

56	2.基本計画	10	図書館	(10ページ)泉州随一の図書館6館体制を有しながら組織が機能し難い現状を知ること。本館長が生涯学習部、別館5つは市民センター所属の人事組織を改めるべき。一体化出来れば細長い行政区で命令系統が容易となり、そこで活動するボランティア団体の交流も容易となる。市民の識字率向上と全地区に誇れる活気があるボランティア活動を啓蒙。	公民館や図書館がその機能を十分に発揮できるような組織体制が必要と考えています。
57	2.基本計画	10	バリアフリー	「障害者福祉宣言都市」の看板に寄せられて障害者が各地から流入してきている。街中では多種多様な人々が行き交う。ノーマライゼーションの高まりに合わせた行政が不充分。車椅子介助すると段差の多い生活道路が目につく。これらは合わせて総人口の3割にもなる。高齢者層のためにもきめ細かいバリアフリー体制の見直し実施希望。	バリアフリーも含めたユニバーサルデザインの推進については、資料②のP15 基本目標「健康で自分らしく生きられるまち」、個別目標「平和で多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、自分らしく生活できる環境が整っている」の中で「みんなが使いやすいデザインに配慮した施設環境をつくる」という方向性を示しています。また、道路の整備については、資料②のP29 基本目標「賑わいや活力を創造するまち」、個別目標「賑わいや活力の創造を支える基盤が整っている」の中で、「拠点へのアクセス性の向上を図る」の中で推進していくことになります。
58	2.基本計画	10	高齢者対策	泉州一の高齢化が百歳時代でより偏在化してゆく本市の使命は老人施設の拡充の前に元気で活力ある高齢者を作る環境が大切。高齢者就業の年齢の引き上げ(70定年撤廃)と高齢者の居場所づくりの促進と諸ボランティア団体の応援・育成が大事。併せて、今社協が任っている社会福祉活動に入・着・金の投入。	高齢者の就労機会（年齢引き上げ）の拡充は、国の方針なども参考に検討が必要だと思います。高齢者の居場所やボランティア団体の支援など、生涯学習のあり方や市民活動サポートセンター、ボランティアセンター、社会福祉協議会など関係機関の連携などがますます大切になってくると考えられます。
59	2.基本計画	13	みんなでめざそう値	個別目標の(1)に追加 年代別健康診断の受診率	国の国民生活基礎調査では都道府県、政令市のデータはありますが、市町村別はありませんので、市民意識調査での回収を検討します。
60	2.基本計画	13	みんなでめざそう値	個別目標の(2)に追加 市民参加型健康セミナーの開催数(参加数)	「市主催の健康教室・相談などの事業への参加者数」などを検討します。
61	2.基本計画	20	空家対策	市民と行政の間で、空家の割合に関して認識さがあるのであれば、防災まち歩きなどを通して、情報の差を埋められるかもしれない	市民と行政の情報共有が大切であることが、これまでの議論においても挙がっていました。地域でのまち歩きは、その一手法として有効だと考えます。
62	2.基本計画	22	浸水対策	浸水被害を最小限にするための整備、防潮堤の高上げや土地の高台地化	左ページP21の行政の役割に、「浸水被害を最小限にするための整備を進める」を記載しており、その役割に基づいた取組の検討を進めることが必要になります。
63	2.基本計画	23	みんなでめざそう値	個別目標の(2)に追加 2項目自然資料館入館者数の欄に追加。例えば春木川や轟川の清掃活動を各町で定期的に実施しているのでその参加数か開催数を入れる。	まちを美しくする市民運動推進協議会主催の「きれいな岸和田大作戦参加者数」などを検討します。
64	2.基本計画	25	みんなでめざそう値	各町の古紙回収やアルミ缶等の回収の実施回数や量	各町での実施情報把握は困難と考えられます。「プラスチック製容器包装の処理量総計」などを検討します。
65	2.基本計画	25	みんなでめざそう値	個別目標の(3)に追加 1項目のリサイクル率…アンケートの欄に追加。各町では定期的に古紙回収やアルミ缶等の回収もしている。その実施回数や量をめざそう値にするといいと思う。更に家庭用ごみを出す時に使用する市指定の販売量や種類をめざそう値にするといいと思う。	実質の販売量や使用量までは把握は困難と考えられます。「家庭系ごみ収集量」などを検討します。
66	2.基本計画	25	行政の役割	「省エネルギー化や再生可能エネルギーの推進による地球温暖化対策を推進する。」は、「再生可能エネルギーの導入促進を含む脱炭素化に向けた取組みおよび省エネルギーな事業活動や暮らしの実現」と表現すべきであるが、「岸和田市環境計画等推進会議が実行する「岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施設編）に基づき、地球温暖化防止対策を推進する。」に表現すべきである。 上記に従い、みんなでめざそう値や公民の役割の「個人や家族」、「事業者等」の表記も変更となる。	行政の役割を推進する個別計画については、別途欄を設けます。 「再生可能エネルギーの導入促進を含む脱炭素化に向けた取組みや省エネルギーな事業活動、暮らしの支援を行う」への修正を検討します。
67	2.基本計画	27	みんなでめざそう値	「みんなでめざそう値」の下から2つ目、関空経由の岸和田訪問者をどのように把握するのか。	人流データの活用などが考えられますが、取得可能か再度確認します。
68	2.基本計画	29	個人や家族	「景観に大切にし、」誤字あり	文言を修正します。
69	2.基本計画	29	事業者・団体・地域など	「景観のに配慮した」誤字あり	文言を修正します。
70	2.基本計画	31	プレイヤーをつなぐ取組	プレイヤー同士をつなぐ取り組み例2段目ですが、それぞれの主体性を保ちながら活動を進める、活動につなぐになると思います。	「それぞれの主体性を保ちながら、各主体の活動をつなぐ」に修正します。
71	2.基本計画	31	みんなでめざそう値	みんなでめざそう値1つ目、「この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したがある市民の割合」は、「この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加した経験がある市民の割合」か？	誤字になります。「この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したことがある市民の割合」へ修正します。
72	2.基本計画		みんなでめざそう値	実績の集計はウェブ上で登録できるような集計サイトを作り、それを市のHPに連動した表示グラフで作成するとより参加者のモチベーションが上がると思う。	今後の参考にさせていただきます。

73	2.基本計画		性問題、不妊治療	性問題には全く触れていない。望まない妊娠で、誕生できなかったベビー、その後妊娠出来なくなった人。不妊治療問題。保険外治療で、子どもをあきらめた人達	妊娠を望む家庭への対応は、個別目標（１）「安心して子どもを生み育てている」の中の、「妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消や精神的負担、経済的負担の軽減を進める」の中で進めていくことになります。性問題については、LGBT等の性の多様性の理解促進は、個別目標「（３）平和で多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、自分らしく生活できる環境が整っている」の中で、推進することになります。
74	2.基本計画		特定健診	病院ドクターとの連携による特定健診の促進、特定健診の補助	今後の参考にさせていただきます。
75	2.基本計画		全般	（１）今回の骨子案を集約するために、多大な時間を費やしたことは認めます。また、「現状と課題」等表現が充実されたことは評価します。ただ、これだけひもづけ資料からガラッと様式を変更するのであれば、意見を求める前に、骨子案をどのようにまとめたのか、そのやり方について、説明して頂きたかったと思います。	第19回で懇話会意見の抽象化について、第20回で基本計画のイメージについてご説明したところです。
76	2.基本計画		全般	「個別目標」と「めざす姿」の違いは何か。	個別目標の達成にあたり、めざす姿を示したものになります。
77	2.基本計画		全般	「現状と課題」には、ひもづけ資料の「課題」の中身は含まれているのかどうか。	懇話会で頂いたご意見や以前に議論してきた客観的情報を含め、記載しています。文字量などにより、懇話会でのご意見がそのまま文言としては出していない部分もございます。
78	2.基本計画		全般	ひもづけ資料の、各主体の関わり欄のまとめた表現<・・・>は、骨子案にすべて反映されていないように見えます。また、ひもづけ資料の（再掲）項目が骨子案に記載されている項目とそうでない項目が見受けられる。その根拠は何か。	紐づけ資料を再度、他の個別目標などと見比べ、事務局で整合性を見直しを行っています。
79	3.都市マス	12	環境にやさしいみどり豊かなまちづくり	岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施設編）に基づき実施する地球温暖化防止対策のうち、低炭素型まちづくりの推進について、都市計画課が関係する「エネルギー管理の観点を活かしたまちづくりの推進」について、具体的な計画があれば、マスタープランに記載するべきでは。	岸和田市地球温暖化対策実行計画に記載されている「エネルギー管理の観点を活かしたまちづくりの推進」は、主に、エネルギー管理システムなどの設備の導入を推進していくことが示されています。都市計画制度においては、民間事業者が設置する設備に関する誘導が難しいことから現在記載していませんが、引き続き検討・調整を行います。
80	3.都市マス	14		用語の説明があつていいと思いました。	引き続き、用語説明が必要な箇所を確認し、記載するようにします。
81	3.都市マス	24	公共建築	(2)地域で集うまちづくり 1)公共建築の有効活用 他の部分でも強く感じましたが、岸和田市における図書館の存在はどのような位置づけになっているのでしょうか？有効活用の中にまったく入っていないのですが、次世代を育み地域や人々と繋げる場所の1つであると考えています。 生活の色々なことや歴史や未来の創造を市民と行政の必要な交流の場でもあると考えます。 子供の未来を創るのも市民の交流、行政の人達とのネットワーク作りには多目的な図書館が必要です。ITも学べるし、歴史も学べる宝の箱であるべきです。 現在使われている図書館費も市の大切な税金です。マスタープランに入れてください。	公共建築物には図書館も含まれると考えております。公共建築物の例示を追加するなどわかりやすい表現に修正します。
82	3.都市マス	26	災害に対して、強さとしなやかさを備えたまちづくり	岸和田市国土強靱化地域計画抜粋表、「２ 救助・救急、医療活動が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する」と記載されているが、現時点で、市のデータ資料から各地区の人口に見合う避難場所が確保されていないように思う。 避難場所強化の計画はありますか。	岸和田市地域防災計画において、南海トラフ巨大地震・上町断層帯地震・中央構造線断層帯地震の被害想定のうち、最も避難所生活者数が多い上町断層帯地震の28,540人を基に、避難所の計画が立てられています。
83	3.都市マス	26	災害に対して、強さとしなやかさを備えたまちづくり	岸和田市国土強靱化地域計画に関連し、災害時の情報通信機能の確保として、公共施設等におけるWi-Fiの整備計画は含まれているのか	国土強靱化地域計画において、音声通話以外の通信手段の確保や必要な情報伝達、情報確保を行うことが可能となるよう、防災拠点（避難所、避難場所、市施設）のWi-Fi環境の整備に取り組むとしています。
84	3.都市マス	38	公園整備	公園整備について、一か所は四季折々で目を引く大規模な花畑にしたいかがでしょう。観光客も増えるし、苗を植えるときは子ども達の力を借りて市民皆で作り上げる公園、皆で楽しめる公園を希望します。	P24「1-4人にやさしいまちづくり（２）の2）地域の公園・散策路の充実」の「地域の特色を活かしながら、地域に親しまれる公園づくり」をうけて推進していく事柄と考えております。
85	3.都市マス	冒頭	ゼロカーボンシティ	冒頭に「岸和田市ゼロカーボンシティ宣言」を入れてはどうか。 本市の明確な意思表示を示すことによって、将来の進むべき姿がはっきりとするうに思います。	今後の参考にさせていただきます。

86	3.都市マス		バリアフリー	「障害者福祉宣言都市」の看板に寄せられて障害者が各地から流入してきている。街中では多種多様な人々が行き交う。ノーマライゼーションの高まりに合わせた行政が不充分。車椅子介助すると段差の多い生活道路が目につく。これらは合わせて総人口の3割にもなる。高齢者層のためにもきめ細かいバリアフリー体制の見直し実施希望。	道路のバリアフリー化については、鉄道駅周辺地区において「岸和田市交通バリアフリー基本構想」を策定し、鉄道駅から公益施設までの経路を重点に実施しており、今後も引き続き取り組んでまいります。都市計画マスタープランにおいて、その考え方をP23「4. 人にやさしいまちづくり（1）の5）誰もが利用しやすい施設の整備」に記載し、推進していきます。
87	3.都市マス		浸水対策	(22ページ)「浸水被害を最小限にするための整備を進める」のアクション、課題、取組みは空欄になっているので要望する。海岸から山頂まで延びる本市の中で都市中核地域を岸和田北部地域の人口密度は高い。栄えた歴史が長いので当たり前だが、問題は海拔1~5mの所に密集している。海岸線に沿って堤防はあるが、南海トラフ地震があれば対応できない。自助・共助・公助の訓練も大事な要素だが、防潮堤の嵩上げや土地の高台地など話にも上っていないのは残念である。マスタープランも重なりますので、回答用紙③は省略します。	現在公開されている津波浸水想定図は、防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮し、悪条件となる場合に想定される浸水域・浸水深を表わしています。岸和田市域においては、防潮堤の高さは百年から百数十年に一度程度の発生頻度の津波に対応しており、今後は、関係機関による堤防の耐津波性能の強化を、市としても促進していくことを、都市計画マスタープランに記載するなどを検討します。
88	3.都市マス		全般	都市計画マスタープランに記載のある写真が市内のどこかわからないところが多く、知らない岸和田が多くあることに気づいた。	写真はまだ新しいものに更新できておりませんが、最終的には写真に町名など概ねの位置を記載します。

第24回以降に頂いたご意見と今後の対応について ＜基本構想素案及び基本計画骨子案、都市計画マスタープラン（全体像・試案）＞					
89	2.基本計画	2	全般	●資料の見方②について、「個別目標」「めざす姿」「現状と課題」「個別目標の方向性」とあるが、「現状と課題」「個別目標の方向性」は逆ではないか。資料の見方を説明してほしい。	懇話会で議論してきた内容は、「公民の役割」の部分であり、これに「取組」が紐づいていました。議論してきた「取組」を抽象化して、基本目標では「個別目標の方向性」と紐づけを行っており、今回の資料では、さらに「現状と課題」と「みんなでめざそう値」を新たに加えています。 「めざす姿」は、「個別目標の方向性」の要素が包含されたものとなっています。 計画書としてまとめるときには、ご指摘の通り、「基本目標」、「個別目標」、「めざす姿」、「個別目標の方向性」があり、その後に「現状と課題」を表現していきたいと考えています。
90	2.基本計画	2	全般	これまで懇話会で議論してきた取組みに相当する話であるが、今回のとりまとめ方について、抽象化することで、議論した内容が見えなくなっているように思う。これまで議論した懇話会との紐づけ資料は参考資料として整理し、皆さんと共有すべきと考える。	全体を網羅しながら表現するため抽象化した記載となりますが、懇話会での議論を踏まえ、重要な表現は含めるように努めています。また、これまで懇話会で議論してきたアクションについては、行動計画として別途整理し、皆さんと共有することを検討しています。
91	2.基本計画		全般	現行計画では、「みんなでめざそう値」は現状値と目標値が数値化されているが、今回も数値化を行うのか。	次期総合計画においても、現状値と目標値は入れていきたいと考えています。今後、数値の紐づけ、指標の再精査を進めたいと考えています。
92	1.基本構想		全般	将来ビジョン・岸和田（素案）は、理念や市のなりたちなども記載されており、しっかりまとまっている。これが総合計画の冊子になると理解してよいか。	その通りです。
93	3.都市マス		全般	まちづくりそのものの考え方として、災害が増加している社会状況の変化に対して、防災の視点も兼ね合わせた考え方が必要である。 ・土生町において、袋小路の通り抜けできない道路の住宅開発地が増えている。また、高層マンションの周りの道路についても、消防が対応できるのか疑問がある。防災の視点を含め、住宅開発の仕方についても記載する必要がある。	大規模な住宅開発の際には、通り抜けができることが基本で、接する道路幅員も一定幅を確保する必要があります。しかし、岸和田市は古くからの集落も多く、集落地内の道幅が狭いことから、小規模な開発手法によることも多く、行き止まりの道路が生まれている現状があります。すべてを制限できるものではないですが、みんなで考え方を共有するために、都市計画マスタープランに考え方を記載する方向で検討します。
94	3.都市マス		全般	太陽光発電が生産緑地や市街化調整区域で増えているが、太陽光発電の設置が新たな災害の要因となった事例もある。そういった開発について、エネルギー産業や環境の視点から、農地が単純に太陽光発電に変わっていても良いのか、一定の基準があっても良いのではないか。	太陽光発電については、生産緑地内での設置の事例はないが、市街化調整区域内において設置がみられる現状があります。農地の転用を行わずに、農業をしながら、太陽光発電の設置を行うことも可能であることから、その辺りの制度も含め、整理します。
95	3.都市マス		全般	外国人の方が増えているなかで、避難所や避難経路など防災情報や観光情報の発信について、手話を含めて、多様な言語対応についても考えていく必要がある。	多様な言語への対応について、追記します。
96	3.都市マス		全般	公民館や学校をこれからどうしていくのかという話があるなかで、避難所に対する考え方も都市計画に記載が必要である。新型コロナウイルスにより、避難可能数が3分の1になっている。このような現状を踏まえて、避難所の考えも都市計画の中でうたっていく必要があるのではないか。	避難所に対する考え方については、関係部局と協議し整理します。
97	2.基本計画	17	プレーヤー同士をつなぐ取組	「岸和田障害者・児関係団体連絡協議会は、障害者学級の運営・支援を行う」とあるが、支援を行うのは協議会だけではない。「生涯学習として」と記載してはどうか。	ご意見を踏まえて修正を行います。

STEP4 計画を実現する進行管理を考える

第 24 回	2022 年 2 月 13 日(日)	基本構想(素案)、基本計画(骨子案)、都市計画マスタープラン(全体像・試案)/PDCA サイクルについて 第 23 回の基本構想素案、基本計画骨子案、都市計画マスタープラン(全体像・試案)についての意見照会結果を共有し、意見交換した。 「PDCA サイクル」等について、その仕組みのあり方などのテーマで意見交換した。
第 25 回	2022 年 2 月 27 日(日)	基本構想(素案)、基本計画(骨子案)、都市計画マスタープラン(全体像・試案)/PDCA サイクルについて 第 24 回の基本構想素案、基本計画骨子案・都市計画マスタープラン(全体像・試案)に関する意見交換の内容について共有し、意見交換した。 「PDCA サイクル」等について、その仕組みのあり方などのテーマで意見交換した。
第 26 回	2022 年 3 月 13 日(日)	基本計画(素案)の精査(総合計画・行動計画案のブラッシュアップ) 「PDCA サイクル」についてふりかえり、今後の懇話会の進め方の展望を共有し、基本計画の検討を進めるための議論のテーマを選んだ。

●PDCA サイクルについて議論

常に取り組の改善と実行を図るため、市民の役割・取組におけるPDCAサイクルの仕組みやあり方について、①各主体が自分事として総合計画を実行に移すための「みんなでめざそう値」、②継続的に議論して取組に反映するための仕組みについて、③とことん懇話会で議論してきた「具体的なアクション」についての3つのテーマで議論を進めた。

①各主体が自分ごととして総合計画を実行に移すための「みんなでめざそう値」

◆考え方（計画全般）

- ・まずは、具体的に**市民にわかってもらうことが大事**。理解・周知徹底する方法を検討することが必要。
- ・**関心があることは発言できるが、経験や体験していないと難しい**。
- ・まずは、**現状と課題をインプット**。現在の評価の仕組みを知ること。
- ・**「みんな」の定義を明確化**することで、自分ごと化できる。

◆設定方法

- ・岸和田市を基準にするのではなく、**他市の状況も鑑みて、広域的な視点**での設定。
- ・定量化が難しい指標もあるかもしれないが、**なるべく数値で指標を表す**必要がある。**夢のあるめざそう値**にしたい。
- ・各主体ごとの目標があるとよい。目標に合わせて考えるほうがよい。

◆進行管理の内容・方法

- ・**どのように実行されていくか、何が足りないかの検証**が必要
- ・計画策定の段階で、**目標と達成のため手段、そのための活動、各主体の指標**の検討が必要
- ・**情報発信や周知する手段や組織の設置**

②継続的に議論して取組に反映するための仕組みについて

◆課題

- ・決まったことを伝えたいが**伝える場所がない**。
- ・興味のない人にも今やっていることを知ってもらう必要がある。
- ・「行政」と「現場」のミスマッチがあることがある。

◆意見の共有・活用方法

- ・同じ想いを持っている**市民が集まれる場所**があると現状を共有しやすい。
- ・お年寄り食堂や子ども食堂を**世代間の交流の場**として利用。
- ・**町会で情報共有**。
- ・意見の収集・対応を行う中間支援的な役割として、**情報収集する課の設置**。
- ・**目につく場所に紹介プレート**を掲示。**広報きしわだに情報掲載**。
- ・取組を自分事化する入口として、**広報にチェックリストを作成、テレビ岸和田の放送との連携、ポイント制**などがあるとよい。
- ・**年代に分けてアプローチ方法を変える**。若者には、**SNS利用で周知**。
- ・**関わる人の負担を軽減しながら生きた意見を拾い、意見交換を行う場としてSNSは有効**。

③とことん懇話会で議論してきた「具体的なアクション」について

◆懇話会のあり方

- ・単にそれぞれが意見を言うだけでなく、**議論により市民が育つ場**として、継続的に行き、参加する市民が増えることも重要。

◆進行管理方法

- ・取組のチェック機能、見守る市民の役割として、**継続して話し合う機会をつくる**。
- ・**継続する仕組みづくり（市民・行政の関わり方）**は行政がつくる。

◆市民が実施する事業を考える機会

- ・市民参加型の行事を実施する。

◇成果と課題

計画の進捗確認を想定した PDCA サイクルの仕組みについて議論を行った。

みんなでめざそう値のチェックシートの作成や、意見を吸い上げる仕組み、市民がまちづくりに関心を持ってもらいやすい環境や仕組みをつくること、様々な世代が集まり、もっと緩やかな雰囲気に参加できる場づくりが求められるという意見があった。計画の進捗確認という取組を通したつながりの場の創出や地域の緩やかな場づくりが必要とされていることが明らかになった。

第 27 回	2022 年 4 月 10 日(日)	基本計画の検討(個別目標の方向性について) 前回優先順位づけを行った議論のテーマ(個別目標の方向性)について、グループごとに意見交換しました。
第 28 回	2022 年 4 月 24 日(日)	基本計画の検討(個別目標の方向性について) 前回に引き続き、優先順位づけを行った議論のテーマ(個別目標の方向性)について、グループごとに意見交換しました。
第 29 回	2022 年 5 月 15 日(日)	基本計画の検討(個別目標の方向性を絞って議論その②) 前回に引き続き、優先順位づけを行った議論のテーマ(個別目標の方向性)について、グループごとに意見交換しました。
第 30 回	2022 年 5 月 29 日(日)	基本計画の検討(個別目標の方向性を絞って議論その②) 前回に引き続き、優先順位づけを行った議論のテーマ(個別目標の方向性)について、グループ別と全体で意見交換しました。

●個別目標の方向性について議論

「アクションカード」と「プレイヤーカード」の議論で一定まとめた基本計画の内容を、さらに深堀しブラッシュアップするため、5つの基本目標のグループに分かれ、基本計画検討資料を用いながら、個別目標の方向性ごとに議論した。

なお議論した内容は基本計画骨子案としてとりまとめた後、基本計画に反映することとした。

【基本目標】安全で安心して暮らせるまち（Cグループ）
[個別目標]事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている

■基本計画 検討資料

現状と課題 これまで議論した具体的なアクションや
社会情勢・市の状況を踏まえて「現状と課題」を記載しています。

- 最新技術を活用した自動車の安全性能の向上などにより、交通事故件数は全国的に減少傾向にあります。
- 本市においても、引き続き、交通マナーの向上や交通事故を未然に防ぐ環境づくりが求められています。

【これまで議論した具体的なアクション】警察と市民で交通安全運動を行う、自転車マナーを守るなど

↓ 「現状と課題」から「個別目標の方向性」「取り組み方向性」を整理しています。

個別目標の方向性

交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める

↓ 「個別目標の方向性」の進捗状況を測る「みんなできそう値」
「個別目標の方向性」を進めるための「想定される公民の役割」を整理しています。

みんなできそう値 ※今後も引き続き課題

A) 交通事故（人身事故＋物損事故）の年間発生件数（現状と同内容を設定）

想定される公民の役割

個人や家庭	事業者・団体・地域など	行政
- 交通ルールやマナーを守る - 路上で飲んだり、自転車などを放置しない - 交通安全運動に積極的に参加する - 高齢者の免許返納を支援する	- 交通安全運動を実施する - 事業者は、高齢者の免許返納を支援するサービス・特典を提供する	- 交通ルールやマナー、交通安全意識の啓発と対話を図る - 交通事故を未然に防ぐための必要な施設を整備する - 地域での生活を支える取組を推進する（再掲）

つなぐ取組・公民連携の例
交通安全協会などと連携し、交通に関する情報収集とSNSを活用した情報発信を行う
買い物難民とサービス事業者、行政の仲介をする

参 考 情 報

直近の主な市の活動状況(活動指標) 〈関連資料①③参照〉

- ◆ 歩道をはじめとした交通安全施設を整備するとともに、警察や交通安全協会と連携し、交通安全教育の実施や交通安全運動による交通ルール普及・啓発を推進
 - 交通安全施設の設置希望件数 97件(H29)→91件(H30)→107件(R1)→108件(R2)
 - 過労路等危険箇所を整備希望件数 39件(H29)→31件(H30)→38件(R1)→38件(R2)
 - ※希望等を踏まえ、順次、施設整備を実施
- ◆ 運転者講習会の開催 8回(H29)→4回(H30)→11回(R1)→0回(R2)
- ◆ 街頭指導実施回数 18回(H29)→15回(H30)→20回(R1)→16回(R2)

現行の「目指そう値」の推移 〈関連資料①②③参照〉

- ◆ 安心して歩道を通行することができると感じている市民の割合
現状値：24.1%(H30) → 目標値：24.1%(R4) ※前水準を維持
推移 24.1%(H30) → 23.0%(R1) → 28.0%(R2) → 26.5%(R3)
- ◆ 交通事故（人身事故＋物損事故）の年間発生件数
現状値：6,242件(H29) → 目標値：6,200件(R3) ※前水準を維持
推移 6,242件(H29) → 6,350件(H30) → 6,137件(R3) → 5,168件(R2)

担当課が考える今後必要になること(主なもの) 〈関連資料①参照〉

- ◆ 引き続き、交通安全指導員による登校時の見守りや交通安全運転者講習会を行うとともに、高齢者の増加に伴い、高齢者への交通安全啓発の方策について検討していく必要がある。

関連資料① 課題整理集[R4年1月更新版]の関連ページ： 40ページ
関連資料② 第3期 戦略計画の関連ページ： 75～76ページ
関連資料③ R4年度版 経営計画の関連ページ： 85～86ページ

51

【資料】

80

- 基本計画骨子案(別添)

◇成果と課題

これまで議論してきたアクションとプレイヤーの内容を、基本計画に落とし込んだものを 2 か月間にわたり、意見交換した。それぞれについての情報や考え方を共有できた。

一部の個別目標の方向性の議論であったため、その他の部分についての議論の必要性についての意見があった。また、行政は様々な取組をしているが、市民にどう伝えるかが重要だという意見もあった。市民への情報共有の取組については、引き続きの議論が必要である。

第 31 回	2022 年 6 月 書面開催	実際の行動に移してみる
第 32 回	2022 年 6 月 26 日(日)	実際の行動に移してみる(導入、情報発信の手段、収集方法について) 情報発信・情報共有の仕組みの試行について、全体で情報発信の手段について共有したあと、グループごとに知りたい情報の取得方法・情報を相互に共有する仕組みについて議論した。
第 33 回	2022 年 7 月 書面開催	実際の行動に移してみる(情報発信の収集方法について)
第 34 回	2022 年 7 月 24 日(日)	実際の行動に移してみる(情報発信の実践メニューの検討、情報共有の仕組みの検討) 情報収集手段の現状を共有し、今すぐ取り組みそうな情報発信の実践メニューを決め、内容とルールについて意見交換した。
第 35 回	2022 年 8 月 7 日(日)	総合計画・都市計画マスタープランの検討(パブコメ結果を踏まえ、意見交換) 情報発信の実践メニューの内容の進め方について共有し、これまで議論を重ねてきた総合計画・都市計画マスタープランに関して、パブリックコメント(意見公募)の報告及び結果を踏まえ、総合計画に対する市民の意識醸成について意見交換した。
第 36 回	2022 年 8 月 21 日(日)	実際の行動に移してみる(実践のふりかえり) 「情報発信の実践メニュー」として各自実践した内容を共有し、さらなる気づきや改善点について意見交換した。

●具体的なアクションの検討と実践②

すべての分野において課題に挙げられた「情報発信・共有」をテーマに、個人の情報取得方法から課題や必要な取組、情報を相互に共有するための方法や仕組みについて意見交換した。

□主な意見

テーマ	取得する方法	困りごと	改善策
行政情報	広報紙、市 HP、回覧板など	必要とする情報がどこにあるかが検索しづらい	欲しい情報を効率よく取り出すシステムが必要
子育て情報	広報紙、市 HP、市アプリ(きしまる)など	きしまるの通知が多すぎて、欲しい情報が埋もれてしまう	きしまるの情報画面を整理してはどうか
イベント情報	広報紙、市 HP、市アプリ(きしまる)、SNS など	告知の情報のみ、または結果の情報のみが掲載されている	告知と結果の両方を掲載すれば、関心を持つ人が増えるのではないか
その他(災害・防災など)	WEB 検索、口コミ、SNS など	災害時は電話回線がパンクしやすい	インターネットを使って、エリアの災害情報をみんなで投稿して共有できるシステムはどうか

さらに「Instagram を利用し市の魅力を発信する」2グループと「市ホームページの改善策を検討する」グループに分かれ、各自で実践・検討することでわかった課題や気づきを共有した。

○Instagram を利用し市の魅力を発信する(経験者)グループ

【各自実践した内容】

- ・市内和菓子屋の和菓子の写真を投稿…①
- ・阪和道岸和田SA(下り)の売店、フードコート(料理)等の写真を投稿…②
- ・市内飲食店の料理の写真を投稿…③
- ・(参考)市内パワースポットの写真投稿を予定していたが未実施

【実践の感想・結果】

- ・思いのほか「いいね！」がついて驚いた。＜上記①の投稿＞
- ・お店や商品の写真をどこまで投稿してよいのかが気になった。＜上記①の投稿＞
→そのお店に関する投稿が、すでに他の人に投稿されているかなどを確認すれば、一定の基準となる。
- ・ハッシュタグを設定する作業が、面倒くさい作業の繰り返しで苦痛だった。
→よく投稿するハッシュタグなどは、スマホのメモ帳に記録しておくとう便利
- ・多くの人に検索してもらえるような「#大阪カフェ」や、観光関連のハッシュタグを利用した。
→フォロー中の人以外から「いいね！」をされるのでハッシュタグは重要
→例えば「#岸和田城」だけでなく、「#お城」をつければ、お城ファンに届けることができる。
- ・今回、実践の中で投稿された内容をハッシュタグから検索したが、日数が経っており、投稿にたどり着けなかった(情報が埋もれてしまった)。

- 普段パソコンに慣れているので、スマホによる投稿が難しいと感じた。
→現在はパソコンでも操作が可能。スマホは場所を問わずに投稿できるので、使い分けが重要となる。
- 複数の投稿をしたが、料理の投稿が最も閲覧され、「いいね！」数も多かった。
＜上記②の投稿＞
- 投稿をみた 250 人のうち、約 220 人はハッシュタグによる検索から投稿に到達していた。
＜上記②の投稿＞ ※
- 土日のお出かけにあわせて、金曜夜に投稿するルール(戦略)としていたが、投稿してから時間が経っても「いいね！」がつくことが多かった。
→多くの人に見てもらうためには、イベント告知等はお出かけ前の金曜日の投稿がやはり有効ではないか。
※ 通常アカウントではなく、ビジネスアカウントで登録していたため、閲覧数やハッシュタグによる到達状況を確認できた。
- インスタは若い世代が見ており、それより上の層となると Facebook などが有効であると考えられるため、インスタと Facebook をあらかじめ連携しておく、**インスタへの投稿という一つの作業で Facebook にも投稿が可能**で便利。

【改善に向けたポイント】

- 投稿する写真は、引き続き、改善が必要(明るさや鮮やかさを意識して加工するなど、写真のよさが決め手)
 - 情報発信は、地道に、継続的にやっていくことが重要
 - 実際に、継続的に情報発信を行っていくことになれば、一人で運用することは大変。そこで、**一つのアカウントを使って、複数人でチームとなって管理し、曜日担当制などで運用していくことが有効**
- (参考) ブログの場合でもタイトルが重要であり、また、やはり**内容が多くの人に共感してもらえるものになっていることが大切**で、インスタの場合にも通じるところがある。

○Instagram を利用し市の魅力を発信する(未経験者)グループ

◆実践して気づいたこと

○良かったこと

- 楽しんで実行できた
- 「いいね」をもらえると嬉しい
- 自分の知らない岸和田の行事・イベントやお店を知ることができた
- 東京や福岡の人からも「いいね」をもらうなど、拡散力がすごかった
- ハッシュタグの使い方によって拡散力が違う
 - ハッシュタグをつけることでそのワード・分野に興味のある方が集まってくる
(#空、#子育て、#城……)
 - 「いいね」が多い人は写真の撮り方が上手
(1枚の中にたくさんの情報が入っている。ゴルフ場+人物など)
→付けられるハッシュタグが多くなる→多くの人に見てもらえる
 - (飲食店の投稿をしたが) 一般の方だけでなく、同業種の方も「いいね」してくれる

○気になったこと

- 投稿のコメント文を褒めていただけたが、国際ロマンス詐欺被害に遭いかけた!?
→不快なアカウントはブロックできる
- 興味をもってもらえるような投稿文の書き方が難しい
- コメントにもっと「岸和田」のワードを書けば良かった

- ・企業などの名前が背景ではっきり見えるような写真は投稿しづらい
- ・「いいね」をつけてくれていても、本当に興味があってつけてくれているのか分からない
- ・道などの写真より、飲食店などの写真の方が「いいね」がつきやすい
→市アカウントでは特定のお店についての投稿はしづらい。個人アカウントならできる
- ・写真を撮る習慣がない、アプリを使い慣れていないので継続的に投稿するのは難しいかも

◆考えられる改善点

▽投稿内容について

- ・日常生活に沿って投稿できればもっと良かった
- ・市の魅力につながる場所についてあまり投稿できなかった
- ・若い方に訴求できるような内容にした方がいい
(60代など高齢層はInstagramをあまり使っていないから)
- ・ワクワクする内容、おすすめしたいものについて投稿できればよい

▽投稿する写真について

- ・写真撮影時に他人(車のナンバーなど)が映り込まないように配慮すべき
- ・スマホで撮る際の写し方(構図など)を工夫しないといけない。デジカメの方が慣れている。
- ・飲食店の料理はおいしそうに撮らないといけない
- ・写真だけでなく動画も撮ればよかった

▽投稿コメントについて

- ・見た人が分かるように投稿した施設や場所が何なのか説明を書く
- ・他の方も見やすいように投稿に合わせて関連するハッシュタグを入れる(#グルメ……)
- ・コメント文に工夫が必要。文章中にハッシュタグを入れるなど、他のアカウントを参考にする。

▽その他

- ・誰かをフォローするともっと広がった(拡散できた)
- ・総合計画の周知、理解にもつながるような投稿を考えるべき

▼全体を通しての意見

- ・魅力発信の目的によって媒体を変える必要がある(タイムリーな発信が必要なものはInstagram、心に残るまち景観などは冊子など)
- ・YouTube、Twitterなどの他のSNSの活用やインフルエンサーに投稿してもらうなどの工夫も必要

○市ホームページの改善策を検討するグループ

■調べやすい・見やすいHPのチェック項目

<https://tihoukoumuin.com/column/zenkoku-hp/>

- ・調べやすい・見やすい自治体のHPを検索したところ、「地方公務員.COM」のHPに行きついた。全国の広報担当者向けに、HPのチェック項目として、16項目が整理されており、各都道府県ごとに、調べやすい・見やすい自治体No.1が掲載されている。

- ・チェック項目に沿って見てみると、岸和田市の HP は比較的調べやすい・見やすいつくりとなっていると感じた。(岸和田市は住んでいる人がメインで、行政サービスの情報が届きやすい構成になっているかなと思う。)
- ・文章ではなく、動画で情報を入手することに慣れてきているため、YouTube などの情報提供も有効である。(都市計画課で試行)

■「誰に向けた情報発信であるか」

○HP のトップに対象者別の入り口を設定、対象者が求める情報を提供

- ・上記 HP から、都道府県別 No.1 の自治体を調査
- ・山梨市や帯広市のホームページは、トップページで対象者(市民、観光客、移住定住者、ふるさと納税希望者等)別の入り口を設定していて分かりやすい。また、写真やイラストで分かりやすく記載されている。わかりやすい一方で、多くの写真が使用されていることで動作に影響がないものか確認したい。(聞き取りの上、次回の配布資料にて共有)

●HP 全体の保存容量が決まっており、既に最大まで使用している状態。今以上に掲載しているデータ量を増やすには、保存容量の増設をしないと、動作に影響がでる状況にある。

- ・石巻市:情報をライフステージ(時系列)ごとに順序だてて整理して検索できるようにしている。
- ・大阪市:「誰向けの情報か」がわかるように、見出し・タイトルに対象者が記載されているものが多く、情報を探しやすい。

○情報へのアクセスのしやすさを確保

- ・本市 HP 利用者の多くが検索ワードから HP に入っている現状があるなら、「検索」を、画面上に絶えず表示されるようにしてはどうか。
- ・市 HP の音声読み上げ機能は、ニーズが高いものなのか。目の見えない方が、音声読み上げ機能のボタンを押すことが可能なのか。iPhone、iPad などの機器についている読み上げ機能の方を使うのではないかと。(聞き取りの上、次回の配布資料にて共有)

→自治体ホームページは、読み上げ機能が正常に働くように、ルールに従って掲載している。

- 岸和田市では、読み上げソフトを利用している方が、快適にホームページを利用できるようアクセシビリティに配慮したシステム運用を行っている。(例:写真を「花の写真」と読み替える 等)
- 懇話会で議論のあった他市事例については、対象者は、読み上げソフトを利用していない、高齢者や視力の弱い方、目の疲れやすい方等をイメージしており、多様な方が快適に利用できるよう、音声でも情報提供できるようシステムを整備している。

読み上げ範囲の指定も可能。

→障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が制定された。考慮したつくりになっているか、これから検証していく必要がある。

→障害者の方の情報に関するニーズ把握はどうすればよいのか？

→障害の種類によってニーズは異なるので、各種団体に聞くことになると思われる。

■情報の新鮮さが重要

- ・前回も堺市の事例をあげたが、時々に応じて、市民が必要とする情報がトップにあげられている。(昨今であれば、コロナに関する情報)
検証・更新が早ければ早いほど、市民にとっては見やすい HP となる。
- ・情報は鮮度が重要であり、古くなる前に新しい情報を上げていくことが必要。

■行政の人材を活用した更新の仕組み

- ・市の HP は、どこが責任を持っているのか。
→広報広聴課が、公募によって業者を選定し、各課が情報を随時掲載。
市の HP の改善としては段階的な取り組みになる
①短期的な視点:各課で管理している HP の改善(企画課、都市計画課から)
②中長期的な視点:市全体としてシステム改良を要するものなど
現在の市の HP のシステムは R2～R6 年。次回は R7 年スタートの予定であり、これから仕様を固める段階であるため、懇話会の意見も含めて改善点を蓄積
- ・適宜、職員が HP システムを改善できるようにし、全国に自慢できるホームページをつくってほしい。(例えば、トップページの Pick up・行政の窓口・岸和田魅力発信・だんじり の表現変更を、業者でないとできないというのではタイムリーな改善ができないため、職員が適宜メンテナンスを行えるようにしてもらいたい)
- ・神栖市:毎年アクセシビリティのチェックを行い、改善を行っているようである。(聞き取りの上、次回の配布資料にて共有)
- HP の検証を委託により毎年実施
- HP の改善は、掲載情報については職員が行い、デザイン的なところは委託業者が実施(軽微な改修については契約に含んでいるが、大きな改修は別途契約が必要)
→工夫点:システム導入時に、検証業者による改善点の洗い出しを行い、それらを踏まえて仕様書等を作成

■自治体の HP の項目は一定整理されている。わかりやすく、見やすい情報発信のあり方については、大局的な視点での「戦略」が必要。

- 今後、ICT 化がより一層進む中、情報技術を活用して情報を取得することが困難な人(情報弱者)をカバーできる取組が必要
- 市では、民間などとの連携による高齢者のスマホ教室など、デジタルディバイド(情報格差)対策を実施しているとともに、近年中に策定予定の「岸和田版スマートシティ構想(仮称)」においても、新しい技術の活用だけでなく、デジタルディバイド対策の視点を含めた内容を盛り込む予定
- これにより、誰一人取り残さず、みんなにわかりやすい情報発信や情報取得ができる環境整備をめざす

●パブリックコメントの報告

次期総合計画と都市計画マスタープランのパブリックコメントの結果とこれまでの議論を踏まえ、基本計画素案の修正点について共有した。

あわせて、「基本計画に記載の市民(個人や家庭)の役割をみんなに実践してもらう方法や仕組み」について、総合計画に対する市民の意識醸成を図っていくには、どのように市民の皆さんのモチベーションを上げていけるか、情報を知って、行動に移してもらうための方法とは、またその仕組みとはどのようなものが考えられるか意見交換した。

□主な意見

- ・子育て/共働き/単身/高齢者など、ターゲットを分けた情報発信・意見の収集をする(それぞれのターゲットが手に取りやすい場所に関連情報をまとめた冊子等を設置するな

ど)

- ・身近な人からの情報共有があるとよい(パブコメや説明会へ参加するよう誘うなど)
- ・情報を見に行くためのインセンティブをつくる(ポイ活、ログインすれば、ポイントがもらえるような仕組みを活用する。合言葉を載せておいて、送れば抽選で当たるなど)
- ・共通の課題から関心を持ってもらう(お金の節約、資産運用、将来の不安など、分野を超えて共通して興味があることをきっかけに情報発信する)
- ・民間企業(保育園、教育関係や住宅関係など)と連携して、市民が興味を持つコンテンツと抱き合わせて説明会などを実施する
- ・より多くの人へアピールするために著名人や市長などが前に立ち、市民に呼びかける
- ・夏休みの宿題などを活用し、家庭で総合計画に即した内容を考える機会を持つようなきっかけをつくる
- ・若い世代の参画と世間へのアピールの期待として、高校生と連携して取り組む

◇成果と課題

情報発信、情報共有の課題に対応していくための実践行動の取組として、SNS による情報発信や市ホームページの改善にむけての議論を進めた。それぞれが実践・行動することができた。その中で、ターゲットに合わせて興味のある情報をどうやって届けるのかが大切という意見などがあった。行政情報についても、どのような情報を誰に届けたいのかを明確にすることの必要性が改めて確認された。

第37回	2022年9月 書面開催	市民同士や行政との情報共有・意見交換の場のあり方について(意見収集)
第38回	2022年 9月25日(日)	計画策定後の意見交換の場のあり方(求められる場についての意見交換・整理①) 市民同士のつながりの場、総合計画の進行管理の場、行政とのつながりの場について、既存の取組などから、今後求められる場や取組について、みんなで共有・意見交換した。
第39回	2022年 10月16日(日)	計画策定後の意見交換の場のあり方(求められる場についての意見交換・整理②) 前回に引き続き、市民同士のつながりの場、総合計画の進行管理の場、行政とのつながりの場について、既存の取組などから、今後求められる場や取組について、みんなで共有・意見交換した。

●今後の意見交換の場のあり方について議論

「総合計画」に対する市民の意識醸成という視点で、基本計画に記載の市民(個人や家庭)の役割をみんなに実践してもらう方法や仕組み、既存の意見交換の場の課題等について意見交換をした。

その議論を踏まえ、「市民同士のつながりの場」、「総合計画の進行管理の場」、「行政とのつながりの場」の3つの視点から、今後求められる場について議論した。

■前回の意見交換におけるキーワード

- ・多くの市民がまちづくりの場へ参加するには、「**最初のきっかけづくり**」「**先導者の存在**」「**無関心層の取込み**」「**テーマの特化**」「**情報公開**」「**目に見える成果(満足感)**」が重要。
- ・特に、若い人を巻き込むには、「**若い人が求める関わり**」「**まちづくりに参加する若者を優先的に採用するなどの仕組み検討**」「**年代ごとの強みを活かした取組**」を考えることが必要。



各地域や団体（地区市民協議会、町会、任意のまちづくり団体など）が
今後のあり方を考えていく上での重要なキーワード・ヒントとなる。

また、行政としては、行政への市民参加を考える上で活用することはもとより、
各地域や団体に対する支援を行う際にも、重要な視点となる。

■ 前回の意見交換におけるキーワード

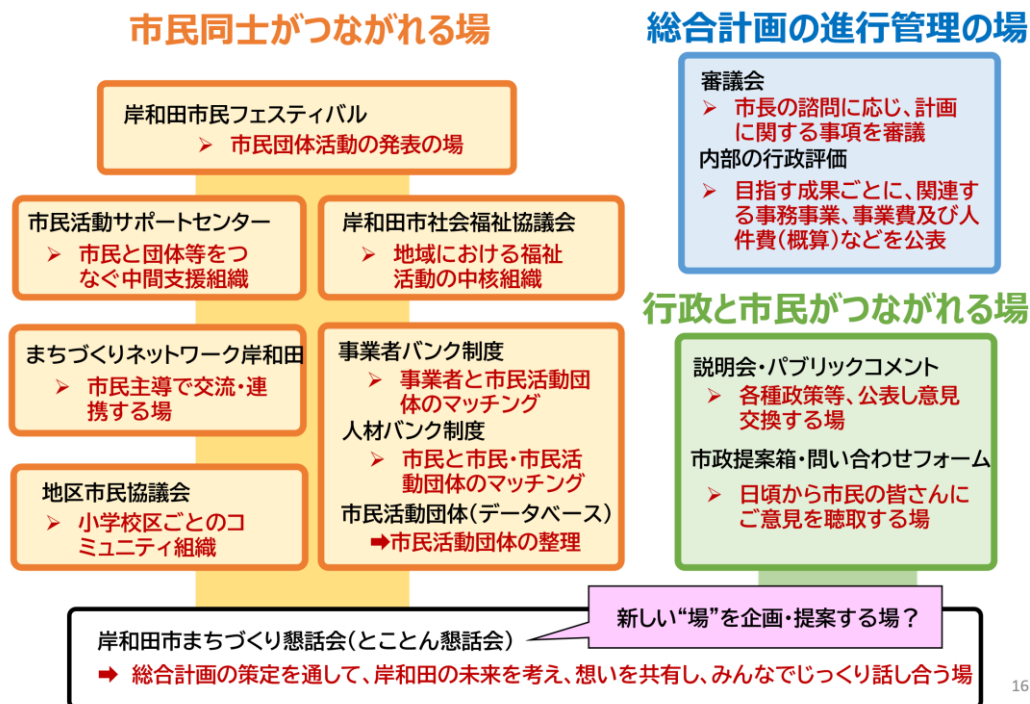
- ① 市民と行政の関係については、「信頼関係の強化」「質問・意見に対する回答の見える化」「フラットな関係の意見交換の場」が今後求められる。
- ② 総合計画の進行管理の場について、「まずこの懇話会の総括が必要」「行政のアリバイづくりにならない場を」「生の意見をしっかりと吸上げることが重要」という意見。



事務局の考えとしては、

- ①については、行政として「できることから実行に移していく」ことが大切。
→例)「質問・意見に対する回答の見える化」できるよう各課にはたらきかけ
- ②についても同様に、
→リアルな市民の活動状況の把握、多様な意見を吸い上げる仕組み検討
→総括の上、基本計画の見直し時に、懇話会メンバーにお声がけ

【参考】既存の取組について紹介



16

◇成果と課題

目的を明確化、テーマを具体化した場にする、若者が話し合える場、“場”を活性化させるために、一人ひとりが一歩を踏み出して交流を持つ、政策を世代別に考え興味を持ってもらう方を議論する、子どもと一緒に遊んで自分で意見を言いやすい会議の場などの意見があった。どの意見も行政や地域が、目的に応じて今後活かしていくべきものであり、大切な視点が得られた。

第40回	2022年 10月30日(日)	最終報告会
------	--------------------	-------

●これまでの振り返り

今後について、行政の考え方やこれまでの懇話会を振り返って感想を共有した。

市民に関心を持ってもらうために情報発信や「見える化」が重要

- ・市民みんなに行き渡る情報発信が必要。目に見える、実行できるものが身近にあると、市民の関心度も違うと思う。話だけで終わるともったいないので、目に見える形で市民に示せるとよい。
- ・市民協などの活動を「見える化」することが、参加意欲やつながりを持つきっかけになる。
- ・市政に関心をもってもらうためには情報発信が必要。懇話会の参加経験者が市政を広めていく仕組みがあれば、広まるし、次につながる。

財政状況を意識することが必要

- ・円安による財政を取り巻く社会状況の変化について考える必要がある。
- ・お金やモノの投げ方を意識すべき。また、だんじりの組織など一部のメンバーで防災やゴミをなくすプロジェクトなどを立ち上げ、磨き上げていくのが良い。

行政が仲介役となって市民や団体をつなぐことが必要

- ・若い人との接点や団体とのつながりが持てない状況がもどかしいので、「仲介役・接点づくり」を市にしてもらえると助かる。
- ・町会の中で若者も高齢者も参加する懇話会のような「まちのことをみんなで考える」場があるとよい。個人で発言しても進めにくい、行政が入り、きっかけだけでも作ってもらえると話しやすくなると思う。

市職員の意識醸成が必要

- ・市職員も岸和田市に住んで、そして岸和田のことをもっと前向きに考えてもらえればと思う。そうすることで市にとって良い施策を進めていける。
- ・市職員それぞれが総合計画への意識(気構え)をしっかり持ってほしい。
- ・人口問題(少子高齢化)については常に意識しながら市政を進めてほしい。

青年団のポテンシャルが高い

- ・だんじり祭のイメージを払拭できるよう、良いところを伝えてほしい。
- ・災害など有事の際には、青年団が一番頼りになる組織になると思う。
- ・青年団に入る年代が地域に残っており、まちのために動ける存在であることは岸和田市の資産・人材であると感じる。

懇話会などの進め方について

- ・はじめに、岸和田市の良いところと悪いところを深堀し、問題点について、現状はどうなっていて今後はどうしていかなければならないか、Q&Aをセットにして整理していけるとよかった。何を深堀もするかもみんなで決め、問題を解決するためにどうすればいいか、一つずつ潰して進めていけるとよかった。
- ・会議は事務局任せではなく、テーマ設定の段階から市民や専門家が入って検討していく必要がある。

●事務局後記

2年間にわたり、とことん懇話会に参加いただいた市民のみなさんに、深く感謝申し上げます。コロナ禍での開催にあたり、試行錯誤しながらの運営に温かくお付き合いいただいたこと

は、運営を継続する励みとなりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

また、桃山学院大学の岩田 考教授には、とことん懇話会の開催にあたり、数々のご助言を頂いたこと、学生のみなさんの参加につなげて頂いたことに深く感謝申し上げます。

一方、とことん懇話会に参加いただいた若手職員の庁内サポーターのみなさんには、総合計画の策定という取組に積極的に関わっていただき、普段の業務では得られない経験につながったのではないかと思います。みなさんの参加がとことん懇話会の活性化の大きな力になったと思っています。感謝申し上げます。また、事務局として一緒に進めていただいた都市計画課、企画課のみなさんのご協力があって、こうして策定までたどり着けたと思っています。改めて感謝申し上げます。

今回、計画の策定が完了し、次は、実行の段階に移ります。

とことん懇話会での対話の中から得られた様々な意見や考えが、「将来ビジョン・岸和田 第1期基本計画」にはつまっています。それを実行に移していき、「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市」の実現を基本理念に、「個性きらめき 魅力あふれる ホットなまち 岸和田」という将来像に向けて、みんなで進んでいきたいと思っています。引き続き、よろしくお願い申し上げます。